

---

文 献 記 事 目 録

---

明治12年 (1879)

1. 松永伍作：蟲類名彙，内務省勸農局、3+109 pp. [「アシマトヒ」（江戸時代の虫譜・辞書ではハリガネムシを指す）の見出し語の下に同義語として「サウメンムシ」、「モットヒムシ」を示し、また漢籍における同義語として「線虫」を「閩小記」（4巻、樸下周亮工撰、康熙間(1662-1722)、頼古堂）から掲げる。見出し語は、平安時代の辞書「伊呂波類字抄」に見えると言う（日本国語大辞典第1巻、小学館、1972）。著者名・発行者名は長谷川（自然、32巻1号、p.18-19、1977）によった。]

明治15年 (1882)

1. 水上笑作：大豆萎黄病治法實驗，大日本農會報告 15: 20. [本病名の初出。線虫記述なし。緑礬水溶液を施用。]

明治16年 (1883)

1. 安本徳寛：[この頃、東京山林学校において行った「植物病理学」の講義録（線虫を含む）は、日野 巖により昭和6年に刊行された。No.31-16を参照。]

明治17年 (1884)

1. 岩川友太郎：生物學語彙，集英堂、東京、2+269+3 pp. [Nematoda, Nematoidea, Gordius の訳語として、紐虫類、線虫類、鏡線虫属（ハリガネムシ属）を示す。]
2. 玉利喜造：「小麦の害蟲豫防法質問」答，大日本農會報告 37: 20-23. [我国最初の植物寄生性線虫報文。神奈川県武蔵国北多摩郡大岱村（現在の東京都東村山市思多町）の市川幸吉氏の山椒粒（コムギツブセンチュウ）に関する質問に対する回答。病原線虫を「アングイルラ・トリチシイ」と同定。予防法：種子の精選。No.77-24を参照。]

明治18年 (1885)

1. 岩川友太郎・佐々木忠次郎：動物通解，下冊，文部省編輯局，7+282 pp. [糸虫類「アンギルラ」を解説 p.178. 線虫類(Gordius, Mermis)の解説 p. 179-181.]
2. 安本徳寛：動物書，製紙分社，東京，1+2+229+8+3+2 pp. [鏡線虫科として鉄線虫(ハリガネムシ、Gordius aquaticus Duj.)を解説 p.206.]
3. 佐々木忠次郎：[この頃東京近傍で根線虫 (Heterodera radicicola)の発生を確認。No.99-1 を参照。]

明治19年 (1888)

1. Anon. (茨城縣)：小麦サンセウノ説，茨城縣勸業報告 45: 46. [雑報 (p.45-54)の一として、明治18年同県に発生した小麦不熟の原因の質問に関する農商務省の回答の要領を載せる。原因をAnguilla triticiと同定し、対策として種子の精選・被害粒の焼却・硫黄花の土壤施用等をあげる。No.1887-2 が回答の全文と判断される。]

明治20年 (1887)

1. Anon. (農商務省)：質問應答録，農商工公報号外， [明治19年(同18年の誤り?)茨城県下における山椒虫(コムギツブセンチュウ)発生例を含む。病原線虫を「アンギルラ・トリチ、」と同定。予防法として種子の精選、被害粒の焼却、硫黄華の土壤混入・収穫時の脱粒に関する注意をあげる(p. 49-50)。No.1886-1, 77-24を参照。]

明治21年 (1888)

1. 飯島 魁：人體寄生動物編，丸善商社，東京，7+11+490+6 pp., 6 pls. [我が国最初の寄生虫学教科書。Tylenchus putrifaciens (=Ditylenchus dipsaci、ナミクキセンチュウ)を解説(p. 375)。線虫の概説 p.265-292。]
2. 高橋得太郎：動物學 下巻， [線虫類 Gordiaceaの中にMermisをあげる。発行者、発行地不明。著者名は長谷川 仁氏の教示による。]

明治22年 (1889)

1. 飯島 魁：動物學教科書，敬業社，東京，11+158 pp. [中学校教科書。はりがねむし(Gordius) p. 85-86。]

明治23年 (1890)

1. 五島清太郎：葡萄に寄生する線蟲，動雜 2(19) 228-229. [ネコブセンチュウ，Strubell, A, (1888) Bibl. Zool. 2: 1-51の抄録。]

明治24年 (1891)

1. 岡田信利：日本動物総目録。金港堂、東京、17+164 pp. [円虫目は6種。人畜寄生種以外は Gordius aquaticus のみ (東京産)。]
2. 小野孫三郎：重要植物害虫要説。横浜貿易新聞社、横浜、5+132 pp. [サンショウムシ (秦椒虫 = コムギツブセンチュウ) の解説および予防法：種子の塩水選、被害株の採取、被害穂の焼却 p.69-71。]

明治25年 (1892)

1. 八田三郎：動物学新書。富山房、東京、2+6+204 pp., 1 Pl. [はりがねむし (Gordius) を解説 p.78-79。]

明治27年 (1894)

1. 白井光太郎：植物病理学。下編。有隣堂、東京、2+3+286+2+5 pp. [線虫 p. 283-286. Tylenchus tritici (= Anguina tritici, コムギツブセンチュウ), T. devastatrix, T. hyacinthi, T. havensteini (現在は3種とも Ditylenchus dipsaci ナミクキセンチュウのシノニムとされている)、Heterodera radiculicola (ネコブセンチュウ)、H. Schachtii (シストセンチュウ) を解説。内容は外国文献の翻訳と思われる。]
2. 安田 篤：「つるれいし」ニ寄生スル線虫ニ就テ。動雑 6(74) 448-451. [我が国における植物寄生性線虫に関する最初の研究論文。 Heterodera radiculicola (恭菜線虫 = Ruebennematode) と同定。雌成虫・卵・幼虫の形態を報告。過マンガン酸カリ・捕獲植物利用による防除 (Kuehnからの引用) にふれる。報告されたのはネコブセンチュウであるが、本文中ではシストセンチュウとして生活史を解説している。]

明治28年 (1895)

1. Camerano, L. : Gordiens nouveaux ou peu connus de Musee d'histoire naturelle de Leyde. Not. Leyden Mus. 14: 1-14. [未見。日本 (産地不明) からのハリガネムシの新種 Chordodes silvestri の記載を含む (No.55-13 による)。同じ著者により栃木県日光から Gordius fulgur Baird, 1861 が記録されているが、この論文か?。]
2. 小貫信太郎：節根病。大日本農会報 161: 7-19. [Heterodera sp. と同定。研究史、病徴、寄主植物 (18種) および发育ステージ別の形態を記載。防除試験 (休閒、熱湯、石灰、烟草末、除虫菊、石油、食塩、松香油、硫酸銅、二硫化炭素の土壤施用) を試みる。寄主植物からサツマイモネコブセンチュウと判断される。]

明治30年 (1897)

1. Anon. : [佐賀県においてウンカの寄生虫を発見。No.03-5 を参照。]

明治32年 (1899)

1. 佐々木忠次郎：日本作物害虫編。敬業社、東京、16+439 pp. [小麦ノ五倍子線虫 (分類・形態・被害・予防除法。山口県下の発生例を含む)p.184-185; 甜菜線虫 (同前。本邦未発生)p.420-422; 根線虫 (同前。「東京近傍ニ於テ明治十八九年ノ頃ヨリ発生」同地の寄主植物として20種をあげる) p.424-427。増訂版も線虫の項は異同小。]
2. 針塚長太郎：「質問回答」答。農事雑報 15: 58. [千葉県匝瑳郡野田村 (現在の同郡野栄町) の小川市太郎氏からの油菜の黄縮に関する質問に対する回答。「或は子マトーダと称する微細なる寄生虫の害なるなからんか、....」と記されているが、線虫以外の病害と思われる。]

明治33年 (1900)

1. 堀 正太郎：作物病害に関する希望及注意。農業雑誌 25(36) 561-564. [病害の一つとして線虫をあげる。「北陸地方に於ける稲の葉尖稲熱病 (方言「つみきれ」、「はぎれ」等と称す) 」は、稲線虫心枯病の事か。No.03-2 も参照。]
2. 谷津直秀 (抄)：ペロデラ (Pelodera)。動雑 12(142) 301.[Janet, C., Mem. Soc. Zool. Fr. 7: 45-62, 1894 (未見) の抄録。]
3. Anon. (滋賀農試)：螟蟲の寄生蟲。害虫試験成績 第2報: 69. [二化螟虫寄生糸片虫を記録、図示 (第17図9)。]
4. Anon. : [岡山県で小麦粒線虫発見。No.17-19を参照。]

明治34年 (1901)

1. 出田 新：実用植物病理学。裳華房、東京、254+9 pp. [線虫 p. 220-226. 小麦の胡麻病: Tylenchus devastatrix, 甜菜の線虫病: Heterodera radiculicola の解説及び駆除法。書評：農業雑誌 26(21) 317-318, 1901 (大竹義道)。]

明治35年 (1902)

1. 池田栄太郎：桑樹栽培全書。博文館、東京、5+16+748 pp. [線虫 (=線虫)：防除 (二硫化炭素他) p.647-648。本書の記述の元となった報告があると思われるが未詳。]
2. 渡辺 弘 (抄)：海藻に於ける線虫類のゴール。動雑 14(166) 302.[E. S. パートンの論文の抄録。原著未詳。]
3. Anon. (岡山農試)：小麦秦椒病 (線虫病) 豫防試験。農事試験成績 2 (明治34年度冬作)：84-85. [種子の希硫酸浸漬、篩選を行う。]

明治36年 (1903)

1. 會田龍雄：新撰動物学 上卷 (帝國百科全書 第97編)。博文館、東京、2+6+254 pp. [線虫類 p.209-214. 形態、分類 (Tylenchus tritici, Heterodera Schachtii,

- Sphaerularia bombi, Gordiacea の解説を含む。]
- 堀 正太郎：農作物病理學。成美堂、東京、297 pp. [稻心枯線虫病を記録 p. 111-113. 検出された糸状菌を病原として Phoma oryzae (新種) と命名・記載。症状を指す方言として次の語をあげる。「ちよつきり」、「はぎれ」、「はぎり」、「ほたるじり」(以上新潟)、「はごずきよ」、「あゆのを」(佐渡)、「つみきりねつ」(福井)、「さきかれ」(神奈川)、「白いもち」(島根、岡山、香川)、「ほたるいもち」(岡山)、「さきじろ」(香川)。]
  - 出田 新：農作物病理學(増訂三版)。裳華房、東京、4+8+236 pp., 3 pls. [小麦の胡麻病 (Tylenchus scandens=Anguina tritici、コムギツブセンチュウ) p.196-198; 線虫の形態、予防駆除法(健全種子精選・種子硫酸浸漬・3年の輪作); 珠数病 p.198-201(No.95-2を引用): 輪作他による防除。]
  - 出田 新：茎線虫に就きて。農事雑報 64: 12-14. [大阪府立農学校実習地試作畑のタマネギ腐敗球から検出した線虫(Tylenchus devastatrix = Ditylenchus dipsaci、ナミクキセンチュウ) の解説。内容は主に Kuehn (1857) からの引用。]
  - 黒木幾太郎：浮塵子の寄生線虫。昆虫世界 7(10) 446. [トビイロウンカ、セジロウンカ等に寄生。佐賀県産。明治30年には既に発見されたと云う。]
  - 白井光太郎：最近植物病理學。高山房、東京、2+13+498 pp., 1 pl. [線虫 p.495-497.No.94-1とはほぼ同内容。捕獲植物利用による Heterodera Schachtii 防除法及び休閒、二硫化炭素による土壤燻蒸を追加。]
  - Anon. (岡山農試)：小麦秦椒病予防試験。農事試験成績 4 (明治35年冬作)：83-84. [種子の希硫酸浸漬、篩選、塩水選、水選を行う。]

#### 明治37年 (1904)

- Anon. (岡山農試)：小麦秦椒病予防試験。農事試験成績 6 (明治36年冬作)：52. [比重1.12の塩水選を勧める。]

#### 明治38年 (1905)

- 川上瀧野彌(訳)：柑橘病害論。台湾総督府民政部殖産局、台北、3 + 41 pp., pls. [Swingle, W.I. & Webber, H.J. (1896) "Diseases of Citrus Fruites in Florida." U.S.D.A. Vegetable Phys. and Path. Bull., 8 (原著未見) の翻訳。萎黄病 Blight としてミカンネセンチュウの被害を紹介。分布、病徴、柑橘の種類・土地と発病の関係、病原(不明)、予防法(被害株焼棄)を含む。]
- 鈴木重礼(抄)：甜菜ト豌豆トヲ害スル「子マトーダ」ハ一種ナリヤ。農学会会報 65: 66-67. [シストセンチュウの分類の問題点。Thelen(1904) Deutsche Landw. Pres., Nr.77, p.659 (未見) の抄録。]

#### 明治39年 (1906)

- 石川千代松：農業動物學。成美堂、東京、3+20+240+16 pp. [硬化虫 (Tylenchus), 異頸虫 (Heterodera) p.144-146.]
- 吉野毅一：[粟不稔病を発見。No. 14-6, 16-3, 4を参照。]

明治40年(1907)

1. 西田 藤次：柑橘病害論，日本柑橘会、静岡、4+86 pp. [萎黄病 (Blight) として米国フロリダ州におけるミカンネセンチュウ被害 (当時は原因未解明) の症状、品種との関係、発病しやすい場所等を解説 p.51-55. ]

明治42年(1909)

1. Cobb, N. A. [この年、東京市からワシントン市に贈られたサクラ苗木がCobb等の言によって線虫寄生のため焼却処分された。No.60-229, 77-25 を参照。]
2. 辻 暢太郎：新編桑樹栽培法，高山堂、東京、2+1+3+167+45 pp. [昆虫以外の害虫の項に線虫 (=線虫) をあげる p.139. 石灰乳、二硫化炭素による駆除。]

明治44年(1911)

1. 桑名伊之吉・村田藤七：害虫防除便覧，大日本農業奨励会、東京、10+148+18 pp. [線虫 p.60.二硫化炭素による土壤消毒。]
2. 丹羽四郎：桑の線虫に就きて，大日本蚕糸会報 20(237) 7-9. [井上英次郎の研究(未刊)を引用し、線虫(ヘテロデラ属=ネコブセンチュウの一種)の習性経過及び被害の状況を解説。防除法：被害苗・株の焼却、生石灰・二硫化炭素による土壤消毒。]

明治45年・大正元年(1912)

1. 松下禎二：寄生物診断学，福音舎書店、神戸、2+2+28+742+42 pp. [寄生虫学の教科書。線虫 p. 546-569. 科・属の検索表・線虫の図。植物寄生性・自活性線虫を含む。]
2. 沢田兼吉：[台湾においてミカンネセンチュウを発見。No. 13-3 を参照。]
3. 吉田貞雄(抄)：擬自由生活線虫，動雑 26(305)124-125. [*Oxyurus topsenti*について。Lanc, G.R., Bull. Soc. Zool. Fr. 37, 1912 (未見)の抄録。]
4. Anon. (長野農試松本分場)：桑樹ノ線虫調査，桑樹試験成績 2:223-230, pl. 3-6. [形態、経過ト習性、名称、被害状態、駆除予防法(蔓延防止、農具の消毒、被害株焼棄、石灰窒素・ホルマリン・石灰・木灰の土壤施用)。]
5. Anon. (専売局)：立枯病予防試験其一，煙草試験成績 12 (鹿児島試験場之部第二報)：111-124. [「顕微鏡ニ於テハ雑草ノ種子、線虫、.....ヲ検出セリ。」ホルマリン、二硫化炭素、石灰窒素、石灰、蒸気等による土壤消毒試験。]

大正2年(1913)

1. 堀 正太郎：[小粒の虫瘻病防除法質問並答] 答，大日本農会報 386: 46-47. [福岡県遠賀郡の藤 耕一氏の「草の実」(コムギツブセンチュウ)に関する質問への回答。病原を *Tylenchus tritici* と同定。防除法として早刈り及び種子の塩水選を勧める。]
2. 星野仙之丞：桑樹の害虫線虫に就て，大日本蚕糸会報 22(263) 30-33. [研究史、分

- 布、症状、発生源、寄主植物。No.14-2に続報。]
3. 沢田兼吉：柑橘立枯病（予報）。台湾農事報 83: 15-26. [緒言（研究史他）、病徴、各地被害状況、苗木養成所の状態及産出苗の移出先に於ける生育状態、柑橘の種類との関係、砧木との関係、土質及土性との関係、乾湿及地下水との関係、本病に関する農民の言（誘因・原因、駈除予防法）、病原の搜索（線虫の形態、Heterodera属とは別とする）、結論（予防法を含む）。続報(No.16-10)において同年11月に病原線虫を仮に新属新種Heteroderopsis Citriと命名したとあるが、本報中には見当たらない。同年10月に Cobbはアメリカの標本をもとに同一線虫を新属新種Tylenchulus semipenetrans と命名・記載(J. Agr.Res. 3(10) 287-288)。現在は後者の学名を使用。続報No.15-4,16-10.]
  4. 高橋 郁郎：柑橘栽培。成美堂書店、東京、2+4+8+452 pp., Pls. [生理的病害の項で萎黄病を解説 (No.05-1 から引用) p.419-421.]
  5. 高橋久四郎：実用病虫害大観。大正書院、東京、2+1+4+36+924 pp., 4 pls., 1 口絵 [線虫 p.883-884。健全苗の使用、二硫化炭素による土壤消毒。]
  6. 吉川 宏：「ネマトーダ」に就きて。日本園芸雑誌 25巻6: 29-32. [Heterodera radiculicola (ネコブセンチュウ類)、Tylenchus devastatrix (ナミクキセンチュウ) の解説及び加害植物。]
  7. 吉川 宏：「ネマトーダ」に就きて (其二)。日本園芸雑誌 25巻7: 32-36. [防除法 (焼土法)。]
  8. Anon. (専売局)：立枯病予防蒸気消毒試験。煙草試験成績 14 (鹿児島試験場之部 第三報)：102-110. [30分間一回消毒土壤は (線虫を含む)「害虫類ハ全然斃死シ.....」。]

大正3年 (1914)

1. 深谷 徹：実用園芸植物害虫駈除法。日本園芸研究会、東京、3+569+37+7 pp. [ねまとーだ (Heterodera radiculicola = ネコブセンチュウ) p.421-425. 形態、経過習性 (生活史)、防除法 (被害株除去、ホルマリン・二硫化炭素による土壤消毒、土壤の乾燥を図る。)]
2. 星野仙之丞：桑樹の害虫線虫に就て (承前)。大日本蚕糸会報 23(264) 73-78. [No. 13-2の続報。被害の状態、線虫の伝染状態、動物学上の位置 (Heterodera radiculicola = ネコブセンチュウ)、形態及び習性 (No.95-2、12-4を転載)、駈除予防法。]
3. 木村重兵衛：桑樹の線虫に就て。病虫雑 1(2) 155-159. [長野県諏訪郡。ネコブセンチュウの形態、生態、駈除予防法 (硫黄華・ホルマリン・石灰窒素・木灰汁・石灰乳の土壤施用、農具の消毒、被害株の抜取焼棄等)。]
4. 小林晴次郎 (述)：人体寄生線虫類ノ一新種 (予報)。東京医事新報 1899: 2571-2573. [Rhabditis hominis と命名。No. 15-2 を参照。命名規約上は本報告が本種の原記載となる。]
5. [Mortensen, T.]：[この年6月17日に相模湾の深さ約720mから採集された線虫は後にLeptosomatum abyssale と命名された (No. 51-2を参照)。]
6. 中野勝善：粟不稔症。朝鮮農会報 (旧) 9巻6: 54. [同年4月発行の熊本県農会報記事 (未見) の抄録。原著はイネシガラセンチュウの最初の記録。No. 16-3, 4を参照。]
7. 中田党五郎：朝鮮ニ於ケル甜菜ノ病害。朝鮮総督府勸業模範場調査報 1: 122-145. [線虫病 (Heterodera schachtii) を記録。本文は褐斑病、蛇眼病、菌核病の解説。]
8. 西田藤次：新編柑橘病害と予防法。高山堂、東京、2+3+8+252 pp. [柑橘立枯病を主

にNo. 13-3 を引用して紹介。p. 210-212. ]

9. 野津六兵衛：[桑の線虫害を確認。No. 40-15, 62-144 を参照。]  
 10. 吉川 宏：蒸土法。日本園芸雑誌 26巻8:1-3。[蒸気消毒法の紹介。Gardners' Chronicle 誌記事（原著未詳）の抄録。]

### 大正4年 (1915)

1. 堀 正太郎：病害録。病虫雑 2(11)927-932。[本シリーズ第4報。「線虫の寄生より起こる大豆嫌地病（虫瘻病）」を福島県白河より報告。病原線虫を *Heterodera schachtii* と同定（内田清之助）。防除法（石灰窒素、二硫化炭素、チリ硝石、窒素肥料の施用）に触れる。ダイズシストセンチュウの最初の記録。朝鮮農会報（旧）10巻12: 55-56, 1916 に抄録。]
2. 小林晴治郎：人腸中に見出さる、「ラブディチス」に就て。動雑 27(317) 117-124., pl. 5。[新種 *Rhabditis hominis* を記載。虫体の構造、寄生虫の分布（茨城県）と其寄主の意味、此種に関する従来の報告、概括。本種はその後、*Leptodera inermis* Schneider, 1866のシノニムとされた（Osche, G., Zool. Jahrb., Jena, abt. Syst. 81, 190-280, 1952）。現在は *Rhitis inermis* (Schneider, 1866) Andrassy, 1983のシノニムとされている（Andrassy, I., A taxonomic review of the suborder Rhabditina (Nematoda: Secernentia). ORSTOM, Paris, p. 141, 1983)。No.14-4, 15-3, 20-2 も参照。]
3. 小林晴次郎：人腸中に見出サルル「ラブディチス」ニ就テ。細菌学雑誌 232: 107-116。[No.15-2と類似の内容。]
4. 沢田兼吉：北米合衆国に於ける柑橘立枯病々原説。台湾農事報 98:9-15。[Hodges (1913), Thomas(1913), Cobb(1914) の研究を紹介。台湾の病原線虫と同じとする。No. 13-3, 16-10 を参照。]
5. 角田鷹次郎：稲の黒穂病に就て。病虫雑 2(3)214-218。[病状、病原線虫、予防法（種子の塩水選）。イネセンチュウシンガレ病及び病原線虫の最初の報告。]
6. Anon. (京都農試)：ゴールデンメロン新病害予防ニ関スル試験。大3業功：46-47。[線虫記述無し。土壤消毒、種子消毒試験。]

### 大正5年 (1916)

1. 原 撰祐：果樹病害論。日本柑橘会、静岡、28+506+32 pp。[根線虫病 (*Heterodera radicolica*) p.494-496。：被害植物（梨、葡萄）、病徴、病原虫、駆除予防法（被害株抜取焼却、被害株のまわりに溝、石灰窒素・ホルマリンによる土壤消毒、麦との輪作）。]
2. 石川滝太郎：大正四年中県下に発生せる主要病虫害。病虫雑 3(3) 196-200。[新潟県。大豆月夜病を含む。石灰、石灰窒素、木灰等は効果なし。]
3. 中野勝喜：粟不稔病（一名紫穂病）に就いて（1）。病虫雑 3(1)33-36。[熊本に発生。明治39年発見（吉野毅一）。病徴、病原 (*Tylenchus* 属線虫と同定) 及びその形態。]
4. 中野勝喜：粟不稔病（一名紫穂病）に就いて（2）。病虫雑 3(2)109-115。[発病粟の生育調査（含被害）。接種試験、薬剤防除試験（ナフタリン、青酸加里、温湯、二硫化炭素、硫酸、硫酸加里、硫酸鉄、硫酸銅、冷水温湯への種子浸漬又は種子燻蒸）、予防法等。]

5. 名和梅吉：桑「スキ」虫の駆除予防法に就て。蚕業新報 24(277) 30-36. [「一種の線虫寄生の爲め甚だ多く斃死するものあるを見たり」]
6. 新渡戸稲雄：柑橘害虫調査報告。台湾総督府農試出版 89: 2+210+75 pp., pls. [みかんせんちゆ (*Tylenchulus semipenetrans*) p.200-202. 分布に日本を含める。台湾は「全島至ル所ニ産ス」]
7. 丹羽四郎：實用桑樹病虫害駆除法。大日本蚕糸会、東京、3+8+142 pp. [根瘤線虫 (*Heterodera radiculicola*) p.137-139. 被害、予防法、駆除法：被害根の除去焼却、捕獲植物の利用。]
8. 奥沢留三郎：農作物害敵防除法。前橋印刷所、前橋、4+23+300+27 pp., Pls. (29 図) [根線虫 P.209-210. 生活史、防除 (被害株除去、石灰窒素、二硫化炭素、ホルマリン、硫黄華、連作を避ける)。]
9. 向坂幾三郎：小麦の胡椒病。朝鮮総督府勸業模範場報告 10:143-146, 1 Pl. [*Tylenchus scandens* と同定。病徴、線虫の移動能力、種子の塩水選・篩選、生活史。]
10. 沢田兼吉：柑橘立枯病の病原虫及其予防法之一端。台湾農事報 114:10-32. [病徴、病原虫 (*Tylenchulus semipenetrans* と同定、ミカンノセンチュウの和名を提唱) の形態、生活史、寄主植物、分布 (台湾以外に静岡・熱海・長崎・鹿児島県喜界島・岡山からも記録)、接種試験、伝播方法 (苗木、水、農具、人畜等)、誘因及び素因 (柑橘の種類、土性及地質、肥料及管理、暴風雨)、駆除予防試験 (乾燥、冷却、木灰・生石灰・炭酸加里・「パリスグリーン」・青酸加里水溶液、石炭酸石鹼合剤施用)。線虫の寄生状態および各发育ステージの図を含む。No.13-3, 15-4を参照。]
11. 島口金之助：大豆月夜病発生。大日本農会報 423:29. [新潟県中魚沼郡正面ヶ原一帯。原因不明。]
12. 鈴木誠一：硫黄の殺菌駆虫剤録 (其二)。病虫雑 3(3) 188-192. [「ねまとうだ」 (*Heterodera radiculicola*) に対する施用法を含む。]
13. 高橋 奨：普通作物の害虫。裳華房、東京、1+2+5+246+8 pp. [根瘤虫 *Heterodera* sp., p. 246, 「大豆其他の作物に寄生して、弥地病の如く黄色に枯死せしめるもの」。石灰窒素、硫黄華による防除。]
14. 滝元清透：朝鮮に発生する主なる病害。病虫雑 3(1)28-30. [「小麦の胡椒病は黄海道地方に発生せり」]
15. Anon. : 麦類黄変と織虫。大日本農会報 420:82. [岐阜県揖斐郡池田村において名和梅吉氏が発見。病虫雑 3(5)420, 1916に大阪朝日新聞を引用した同様記事。]
16. Anon. (京都農試) : ゴールデンメロン新病害予防試験。大4業功: 48-49. [大麦の葉鞘中に線虫を発見。土壤消毒試験 (石灰、石灰窒素、二硫化炭素、ホルマリン、硫黄、焼き土、木灰、二斗式ボルドウ、蒸気消毒) 及び肥料多用試験を行う。病虫雑 4(10) 789-790, 1917に再録。]
17. Anon. (新潟農試) : 大豆月夜病ニ関スル試験。大4事業報告: 150-151. [根部に「ネマトーダ」の寄生を認めた。]
18. Anon. (岡山農試) : 小麦線虫病予防試験。大4業功: 146-149. [病原線虫を「チレンクス・スカンデンス」(コムギツブセンチュウのシノニム) と同定。土壤消毒及び播種期の移動による防除を試験。病虫雑 3(10) 812-814, (11) 892-894, 1916に再録。]
19. Anon. (専売局) : 蒸気応用立枯病予防試験。煙草試験成績 21:153-156. [秦野試験場成績。消毒時間と線虫寄生程度を含む。]

## 大正6年 (1917)

1. Cobb, N. A. : The mononchs (Mononchus Bastian, 1866). A genus of free-living predatory nematodes (Contribution to a science of nematology VI). Soil Sci. 3(5)431-486. [Contribution to a science of nematology, p. 129-187 に相当。Mononchus japonicus を新種として記載。模式産地は横浜。本種は後に Mononchus (Mylonchulus) obliquus, var. microdenticulatus f. typicus sf. japonicus とされ (Micoletzky, H., Arch. Naturg., Berlin Abt. A 87(8/9) 1921-1922), さらに Mononchus (Mylonchulus) obliquus Cobb, 1917 のシノニムとされた (Andrassy, I., Ann. Hist. Nat. Mus. Nat. Hungar. 50(n.s. 9) 151-171, 1958)。最近では species inquirenda として扱われている (Jairajpuri, M. S., Nematologica 16(3) 434-456, 1970)。]
2. 堀江 浩 : 麦酒用大麦病原の原因発見。関西農報 41:11. [ゴールデンメロン種。「テイレンクス スカンデンス」(コムギツブセンチュウの異名) と同定。防除法に言及。京都農試の成績を紹介。]
3. 河原 高 : 線虫に就いて。病虫雑 4(4)254-259. [研究史、形態、作物への害、駆除、天敵(糸状菌)、分類の概説。]
4. 西田藤次 : 線虫による作物病害。園芸の友 13(4)354-357 [線虫の分類、植物寄生性線虫の解説(小麦線虫、茎線虫、根線虫、ミカンノセンチュウ)。]
5. 西田藤次 : 作物を害する線虫。園芸の友 13(12)1063-1068. [外国の研究の紹介。防除法(輪作; 土壌消毒: ホルマリン、トルオール、二硫化炭素、ナフタリン; 球根の温湯処理)。]
6. 西川 砂 : 桑根線虫に就て。蚕業新報 25(297)28-35. [根線虫研究の沿革、桑根線虫発見又は研究の沿革、動物学上の位置、形態、加害状況、駆除予防法(試験結果でなく各種の方法の紹介)。雄成虫として図示・解説されたのは Xiphinema 属線虫 (X. bakeri?) の雌成虫及び幼虫。]
7. 西川 砂 : 桑根線虫に就て。大日本蚕糸会報 26(311)27-32. [No.17-6 と同内容。]
8. 島根SM生 : 大豆の病害に就て。病虫雑 4(3)240. [北海道の三保正三氏の質問に対する回答。石灰窒素による線虫防除を含む。]
9. 高橋勝太郎 : 農作物病害検索表(2)。病虫雑 4(5)357-362. [麦類: 茎線虫病、胡麻病を含む。]
10. 武田藤吉 : 麦の萎縮の種類及其の防除法に就て。病虫雑 4(11)852-854. [萎黄病: 京都のゴールデンメロン大麦にも発生 (No.17-2を参照)。石灰窒素により防除。]
11. 立山山人(抄) : 柑橘類の線虫。日本園芸雑誌 29巻10: 65. [ミカンネセンチュウ。Cobb, N.A., J. Agr. Res. 11:217-239, 1914の抄録。]
12. Anon. : 線虫の蔓延。病虫雑 4(5)406. [石川・島根県の桑。]
13. Anon. : 円虫研究の前途無限大。大日本農会報 428:90. [万朝報掲載記事からCobbの研究を紹介。]
14. Anon. : 質疑応答。病虫雑 4(11) 909. [栃木の内田太造氏の質問への回答。麦の萎黄の原因及其の防除法: 線虫の被害であるなら、石灰窒素施用3週間位後に播種。]
15. Anon. (農商務省農事試) : 稻黒稈病(新称)に関する調査。大2-4 事務功程: 64-65. [熊本地方の稻の病稈中より線虫を発見。被害大、防除法未発見。病虫雑 4(11)863, 1917 に再録。]
16. Anon. (農商務省農事試) : 粟不稔病(新称)に関する調査。大2-4 事務功程: 66-68. [小麦の虫とは別。稻黒稈病虫により発病。種子の硫酸銅溶液浸漬が有効。病虫雑4(10)790-791, 1917に再録。]

17. Anon. (京都農試) : ゴールデンメロン線虫予防試験. 大5業功: 55-56. [土壤消毒(二硫化炭素、石灰窒素他)、種子消毒、施肥試験。]
18. Anon. (新潟農試) : 大豆病害ニ関スル試験. 大5事業報告: 220-222. [「『ヘテロデラ・ラヂシコロラ』ニ非ラザルガ如シ」]
19. Anon. (岡山農試) : 小麦線虫病予防試験. 大5業功: 188. [石灰、石灰窒素による土壤消毒。播種期を遅らせる事による予防効果の試験。同県では明治33年には本病の発生が知られていたと云う。病虫雑4(11)875, 1917に再録。]

大正7年 (1918)

1. 甘利 進一: 桑の害虫. In: 桑に関する講習筆記. 鶴田定平・川崎昌隆刊、東京、p. 225-254. [桑の線虫 (*Heterodera radicolola*) の解説 (分類、形態、被害症状、駆除予防法) を含む。]
2. 卜藏梅之丞: 四月の病害防除. 病虫雑 5(4) 324-329. [豆類: 木灰を十分に施して栽培すれば弥地病を防ぐ。線虫記述なし。]
3. 卜藏梅之丞: 九月の病害防除. 病虫雑 5(9) 768-772. [エンドウ、蚕豆の弥地病の予防: 石灰或は木灰を土壤施用。]
4. 飯島 魁: 動物学提要. 大日本図書、東京、18+950+30 pp. [線虫, p. 382-390. 自活性および植物寄生性線虫4種、昆虫寄生性線虫1種。]
5. 村田寿太郎: 大正六年長野県下に発生せる主な病害虫(2). 病虫雑 5(3) 201-204. [「大豆の弥地病南北佐久郡に多し」]
6. 長倉快一郎: 植物寄生線虫類の一種ヘテロデラ・ラヂシコロラの生活史に就て. 病虫雑 5(3)187-189, 口絵. [線虫の發育経過図解。]
7. 長倉快一郎: 「ヘテロデラ・ラヂシコロラ」の解剖及生活史に就て(1). 動雑 30 (355)199-244. [緒言、材料及び実験法、雌の構造。]
8. 長倉快一郎: 「ヘテロデラ・ラヂシコロラ」の解剖及生活史に就て(2). 動雑 30 (356)253-255. [雌の構造: 表皮、頭冠、泌尿器、筋肉、神経系、体腔。]
9. 長倉快一郎: 「ヘテロデラ・ラヂシコロラ」の解剖及生活史に就て(3). 動雑 30 (357)296-300. [雌の構造: 口刺、消化器、生殖器、卵囊。]
10. 長倉快一郎: 「ヘテロデラ・ラヂシコロラ」の解剖及生活史に就て(4). 動雑 30 (358)331-339. [雄の構造: 外形、表皮、頭冠、泌尿器、筋肉、神経、体腔、口刺、消化器、生殖器、精虫の形成。]
11. 長倉快一郎: 「ヘテロデラ・ラヂシコロラ」の解剖及生活史に就て(5). 動雑 30 (360)413-421. [卵中発生、孵化後の生活史。]
12. 野津六兵衛: 桑の線虫駆除に就いて. 病虫雑 5(1)15-19. [桑苗、成木、圃場処理。島根県農試77年記念報 No. 5, p. 24, 1953に抄録。]
13. Anon.: 質疑応答. 病虫雑 5(9)773. [メイチュウ及びウンカの天敵について(福島県の橋本周輔氏の質問): ウンカ成虫の寄生虫(ネマトーダ)を含む回答。]
14. Anon.: 線虫の駆除法. 病虫雑 5(8)690. [桑苗の温湯処理(60°C1分間)。静岡新報より転載。]
15. Anon.: 小麦胡椒病予防法. 朝鮮農會報(旧)13巻8:58-59. [大正7年6月22日官通牒第四百号(農商工部長官より各道長官宛)。無被害種子の使用及び種子選別。]
16. Anon. (農商務省農事試): 粟不稔病試験. 大5事務功程: 67-68. [槍吻属線虫の一種が原因とする。]

17. Anon. (京都農試) : 大麦ゴールアンメロン線虫病予防試験. 大6業功: 57. [土壤消毒(ホルマリン、石灰窒素、二硫化炭素、焼土)、施肥改善. 病虫雑 6(1)75, 1919に再録.]
18. Anon. (島根農試) : 桑線虫駆除試験. 病虫雑 5(7) 561. [大正6年度業務工程(未見)より転載. 蒸気消毒、焼土、日乾(土壌)、堆肥多用は効果あり. 石灰窒素、二硫化炭素、生石灰、木灰は効果なし.]

### 大正8年 (1919)

1. 金野敬三: 菊の病虫に就て. 日本園芸雑誌 31巻10:11-16. [根線虫を含む.]
2. 勝藤孝一: "Yellow dwarf", a new nematode disease of soy bean. 日植病報 1(2) 12-16. [北海道における研究. 病徴(萎黄病と命名. No. 1882-1も参照)、病原(*Heterodera schachtii*)、大豆寄生線虫(含ネコブセンチュウ)の国内・国外における研究史、分布(北海道内)、寄主(大豆、小豆、菜豆).]
3. 長倉快一郎: 線虫の解剖及生活史に就て(1). 病虫雑 6(2)105-111. [以下の6報はNo.18-7, 8, 9, 10, 11の再録. 緒言、材料及実験法、雌の構造: 表皮、頭冠.]
4. 長倉快一郎: 線虫の解剖及生活史に就て(2). 病虫雑 6(3)193-197. [雌の構造: 泌尿器、筋肉、神経系、体腔、口刺、消化器.]
5. 長倉快一郎: 線虫の解剖及生活史に就て(3). 病虫雑 6(4)263-269. [雌の構造: 生殖器、卵の形成、卵嚢. 雄の構造: 外見、表皮、頭冠、泌尿器、筋肉.]
6. 長倉快一郎: 線虫の解剖及生活史に就て(4). 病虫雑 6(5)347-351. [雄の構造: 神経系、体腔、口刺、消化器、生殖器、精虫の形成.]
7. 長倉快一郎: 線虫の解剖及生活史に就て(5). 病虫雑 6(6)433-437. [卵、第一期幼虫(第二期幼虫のこと)の形態.]
8. 長倉快一郎: 線虫の解剖及生活史に就て(6). 病虫雑 6(7)511-514. [中間の幼虫(第二期幼虫のこと)、雌虫の第二期幼虫及成虫、雄虫の第二期幼虫及成虫.]
9. 西川 砂: 家蚕の害虫に関する研究(前々号の続き). 蚕業新報 27(392) 244-251. [糸状虫の記録(沿革、分類学上の位置、形態、経過習性、加害状況)を含む.]
10. 田中長三郎: 米国の植病行政. 病虫雑 6(1)6-9. [Cobbに言及.]
11. Anon. (農商務省農事試) : 粟不稔病原線虫ノ移動試験. 大6事務功程: 59. [休眠、移動観察.]
12. Anon. (朝鮮総督府水原勸業模範場) : 害虫に関する調査. 同場研報 3: 57-62. [小麦粒線虫を発見.]
13. Anon. (新潟農試) : 大豆病害試験. 大6事業報告: 258-259. [「ネマトウダ」ニ就テハ目下研究中.]
14. Anon. (新潟農試) : 大豆病害試験. 大7事業報告: 155-158. [「大豆根部ニ寄生スル線虫ハ白菜ニ寄生セス」]
15. Anon. (新潟農試) : 大豆病害試験. 大7事業報告: 210-215. [大豆月夜病: 「本病ハ根部ヲ侵スネマトウダ及地際部ヲ侵ス豆潜蠅及立枯病(下枯病)白紋羽病等ノ発生ニヨリ増大ス」.]
16. Anon. (岡山農試) : 小麦線虫病予防試験. 大7業功: 138-139. [石灰施用、遅播による予防. 病虫雑 7(10) 582, 1920に再録.]
17. Anon. (島根農試) : 線虫駆除試験. 大7業功: 10-11. [青酸ガス、二硫化炭素の被害株燻蒸は効果なし. 60°C 30-60秒の温湯冷水浸は効果あり. 病虫雑 6(8)722,

1919に再録。]

大正9年 (1920)

1. 原 正三郎: 桑の線虫 (*Heterodera radiculicola* Greeff) 駆除に関する試験。愛知県原蚕種製造所報告 7: 181-189. [根のホルマリン、石灰水、煙草煎汁浸漬、肉眼による根瘤除去、植付時の消石灰施用は効果なし。苗の温湯浸漬は効果あり。愛知蚕試要報 1: 4-5, 1927 に抄録。]
2. 小林晴治郎: On a new species of rhabditoid worms found in the human intestine. J. Parasit. 6, 148-151, pl.13. [*Rhabditis hominis* を新種として記載。命名規約上はNo. 14-4 が原記載となる。No. 15-2, 3 にも同様記事があるが、これらも原記載ではない。]
3. 渡辺 弘: 虫卵培養試験中の患者糞便に現はれたるラブヂチスの一種に就て。動雑 32(386) 388-395. [新種 *Rhabditis faecalis* を記載。本種は *R. hominis* Kobayashi, 1914 のシノニムとされた (Skrjabin, K. I., et al., In: *Opredelitelb Paraziticheskikh Nematod* 4. Izdatel. Akad. Nauk SSSR, Moskva, 1954)。現在は *Rhitis inermis* (Schneider, 1866) Andrassy, 1983 のシノニムとされている (Andrassy, I., A taxonomic review of the suborder Rhabditina (Nematoda: Secernentia). ORSTOM, Paris, p. 141, 1983).]
4. Anon. (千葉農試): 促成用胡瓜ネマトーダ防除試験 (安房郡滝田村)。大7業報: 17. [焼土、石灰窒素は有効、硫黄華は効果なし。]
5. Anon. (新潟農試): 大豆月夜病予防試験。大8事業報告: 162-164. [窒素、石灰の施用により、ある程度まで改善。]
6. Anon. (新潟農試): 大豆病害防除試験。大8事業報告: 233-238. [肥料の種類及び施用量、深耕、乾燥、薬剤施用 (石灰硫黄合剤、ナフタリン、硫黄華等) と大豆月夜病発生の関係。]
7. Anon. (島根農試): 桑線虫駆除試験。大8業報: 21-22. [苗木の温湯処理 (60°Cに30-60秒)。病虫雑 7(9)532, 1920に再録。]

大正10年 (1921)

1. 卜藏梅之丞: 種苗に因て伝播する病害及び本邦種苗産地に於ける病害の蔓延の現状。病虫雑 8(11)551-561. [麦線虫: 九州地方及び茨城県に多し。同誌 9(9)477-486, 1922にも同様記事。]
2. 伊藤誠哉: 大豆萎黄病に関する調査。北海道農試報 11:47-59. [名称、分布、線虫の形態、研究史、被害植物及品種、誘因、防除法。病虫雑 9(2)101-105, (3)147-153, 1922に再録。]
3. 三浦道哉: 満州主要農作物の病害。南滿鉄農試彙報 11:1-56. [大豆の萎黄病 (*Heterodera schachtii*) p. 27-28.]
4. 末松直次: 麦の萎縮病に就て。農学会報 224: 315-319. [病原線虫を *Cephalobus* 属と同定。線虫の計測値を示す。]
5. 田中友右衛門: 大豆線虫 (仮称) に就て。病虫雑 8(11)551-553. [茨城県。形態及び防除法。]

6. Anon. (千葉農試) : 促成胡瓜ネマトーダ防除試験. 大9業報: 24. [硫黄華、石灰窒素は大量に施用すれば効果あり. 病虫雑 9(1) 48, 1922に再録.]
7. Anon. (熊本農試) : 粟・品種ト白髪病不稔病トノ関係試験. 大8業功: 32-34. [25品種を比較.]
8. Anon. (新潟農試) : 大豆病害試験. 大9事業報告: 49-51. [窒素質肥料、堆肥施用と月夜病との関係.]
9. Anon. (新潟農試) : 大豆病害防除試験. 大9事業報告: 60. [前年と同様試験. No20-6を参照.]
10. Anon. (島根農試) : 桑線虫駆除試験. 大9業報: 126-129. [土壤への石灰窒素、二硫化炭素、堆肥施用. 苗木の温湯浸漬. 病虫雑 9(5)266-269, 1922に再録.]

### 大正11年 (1922)

1. 山内為寿: 桑蚕・桑葉螟虫類線虫病の記. 佐久良会雑誌 11:35-47. [発見の経緯(カイコ、クワノメイガ、スカシノメイガ)、分布、寄生割合、寄生の時期、桑の品種、寄生虫の宿主を離るゝ時、宿主一頭に付寄生虫数、寄生虫の形及び大きさ、体色、宿主に於ける位置、宿主から出る場所、宿主から離れた後の行動。]
2. Anon. (新潟農試) : 大豆月夜病試験. 大10事業報: 47-48. [石灰硫黄合剤、ナフタリン、硫黄華の土壤施用. 肥料の種類と発病の関係。]
3. Anon. (島根農試) : 種苗の病害虫. 同場臨時要報 25:1-156, 4 pls. [桑の線虫: p.41-44, pl.3, fig.7.]
4. Anon. (島根農試) : 桑線虫駆除試験. 大10業報: 153-160. [圃場処理(石灰窒素、二硫化炭素)、被害苗木処理(石灰硫黄合剤、温湯浸漬)、抵抗性品種. 病虫雑 10(5)285-289, 1923に再録。]

### 大正12年 (1923)

1. 堀 正太郎: 主要農作物及農産物の病害虫の統計. 病虫雑 10(11)479-492. [桑線虫は局部的。]
2. 西田順一郎: 農作物病虫防除要覧. 今泉書店、弘前、1+9, 203 (汎論)+200 (各論) pp., 5 pls. [大豆根線虫 *Heterodera schachtii* p.96-97 (各論)。]
3. 山内為寿: 線形虫病の記補遺. 佐久良会雑誌 13:94-97. [発生の時期、宿主一頭に付寄生虫数、宿主昆虫の大きさ・種類、宿主からの離脱。]
4. Anon. (福岡農試) : 麦ノ萎縮病ニ関スル試験. 大11業年 病虫害之部: 116. [「病小麦ノ葉鞘中ニ線虫ノ一種ヲ発見セリ」]
5. Anon. (宮崎農試) : 葱萎縮病ニ関スル試験. 大11業功: 67-68. [「*Tylenchus devastatrix*ニ極似ノ線虫組織内ニ蠢動スルヲ認メタリ」]
6. Anon. (島根農試) : 桑線虫駆除試験. 大11業報: 144. [タイトルのみ。]

### 大正13年 (1924)

1. 石川滝太郎: 実験害虫駆除防除総説. 覚長堂書店、長岡、3+6+161 pp., 29 pls. [円

- 虫類、p.21 恭菜(とうじさ)線虫(*Heterodera radiculicola*=ネコブセンチュウ)、小麦線虫(*Tylenchus tritici*=コムギツブセンチュウ)。
2. 三箇 功:大豆の栽培. 南滿鉄興農部農務課産業資料其の20, 2+20+510 pp., 14 pls [大豆萎黄病 p.414-415.]
  3. 山内為寿:桑螟蛾類線形虫病の記. 佐久良会雑誌 15:69-81. [緒言、遡源(研究史:最初の発見は明治35年静岡県磐田郡光明村)、分布(18府県)、各地の寄生割合、時期と寄生割合、線虫の畸型、土壌での生存。]
  4. Anon. : [質疑応答] 答. :日本園芸雑誌 36巻 1:64. [ベゴニア栽培と焼き土に関する東京府村上華谷氏からの質問への回答。「我邦の如き小虫ネマトウダ虫の存在することの多き土壌.....」とある。]
  5. Anon. (福岡農試) : 麦ノ萎縮病予防試験. 大12業年: 203-207. [土壌、種子消毒。]
  6. Anon. (岩手農試) : 連作耐抗性品種比較試験. 大11業功報 :47-48. [大豆。線虫記述なし。7品種を供試。]
  7. Anon. (宮崎農試) : 葱萎縮病ニ関スル試験. 大12業功 :85-86. [線虫防除のため石灰、二硫化炭素、ホルマリン、石灰硫黄合剤、石灰窒素を用いて土壌消毒。]

#### 大正14年 (1925)

1. 青山哲四郎:朝鮮輸出入植物に就て. 大日本農會報 531:41-44. [移出桑苗1,800万本中20万8千余本はネマトーダ(*Heterodera radiculicola*=ネコブセンチュウ)被害のため門司植物検査所で焼却。]
2. 原 撰祐:実用植物病学. 養賢堂、東京、6+16+594+11 pp. [稲黒穂病 p.52-53, 小麦線虫病 p.92-95, 粟不稔病 p.105-106, 大豆萎黄病 p.108-111。]
3. 石川滝太郎:昆虫以外の害益虫に就て. 病虫雑 12(9)497-508. [植物寄生線虫3種、昆虫寄生針金虫を含む。]
4. 金野敬三:「クロールピクリン」の土壌消毒効果に就て. 病虫雑 12(1)40-43. [線虫記述なし。ショウガ立枯病に対する効果。]
5. 桑山 覚・栗林教衛・大島喜四郎:甜菜の病害虫と其の防除法. 北海道農試彙報 36: 61-65. [線虫を含む。]
6. 野津六兵衛:桑線虫問題の対策. 島根農試彙報 183: 8-9. [当面の対策(有機物施用、永久の対策(抵抗性砧木の選抜)。]
7. 清水三郎・原 撰祐:静岡県に於ける蒟蒻. 静岡県園友会、静岡、2+108 pp., 6 pls [根線虫 p.81-82: 病徴、病原、防除法(無被害の種薯使用、石灰窒素・二硫化炭素による土壌燻蒸等)。]
8. 横山桐郎:桑ノ野螟蛾ノ研究(1). 蚕試報 7(1) 1-63, 3 pls. [自然敵の内に次の記録。「一種ノ線虫ハ本種ノ幼虫ニ寄生シテ之ヲ斃ス事ヲ知レリ。」 p. 56。]
9. Anon. (青森農試) : 病虫害ノ駆除試験及調査. 大11業報 :18-19. [「大豆ノ「子マトーダ」駆除ニ関スル成績.....」]
10. Anon. (青森農試) : 病虫害ノ駆除試験及調査. 大12業年 :20-21. [「大豆ノ線虫駆除予防ニ関スル試験.....ヲ施行セリ」]
11. Anon. (青森農試) : 病虫害ノ駆除試験及調査. 大13業年 :37-38. [「大豆線虫駆除予防試験.....ヲ施行セリ」]
12. Anon. (千葉農試) : 西瓜ネマトーダ防除試験. 大13業功 :21. [「焼土区最

モ優リクロール石灰区、フォルマリン区稍良好、ウスブルン区モ劣レルノ成績ヲ示シタル.....」]

13. Anon. (千葉農試) : 麥ネマトーダ予防ニ関スル試験. 大13業功: 80. [「無機質肥料ヲ使用スルカ速効性窒素質肥料ヲ追肥トシテ十二月中旬ニ施用セルモノノ結果良好」]
14. Anon. (茨城農試) : 茄子連作試験 (三年目). 大12業功 : 100-102. [「根ヲ検スルニ何レモネマトーダ (線虫) ノ寄生シ殊ニ生育不良ノモノニソノ甚シキヲ発見セリ」と記す。]
15. Anon. (宮崎農試) : 葱萎縮病ニ関スル防除試験. 大13業功 : 129. [軟白部に線虫を認める。]
16. Anon. (記者) : [質疑応答] 答. 日本園芸雑誌 37 卷7:25-26. [東京府佐藤氏からのグラジオラスのネマトーダに関する質問への回答。標本のネマトーダは「死物寄生」(?) であるため球根腐敗の原因は他にあるとする。]

大正15年・昭和元年 (1926)

1. 江口 貢 : 甜菜害虫シロオビノメイガに関する研究. 朝鮮総督府勸業模範場彙報 特2: 1-23, 4 pls. [天敵として線虫の一種をあげる。]
2. 古市末雄 : 蔬菜栽培要義. 東京農業大学出版部、東京、11+310 pp. [害虫の項に線虫を記した作物は次の通り。ナス p.7, トマト p.12, カボチャ p.35, ゴボウ p.199, ニンジン p.208, ナガイモ類 p.222. 防除法に関する記述なし。]
3. 栗原清文 : 苺の栽培と苺ジャムの作り方. 農及園 1巻6:49-55. [「苗を求める時注意してネマトーダの入らない様にせねばならない」]
4. 桑山 覚 : 大豆の害虫と其の防除法. 付録、大豆の線虫. 北海道農試彙報 39:89-94. [Heterodera schachtii Schmidtを含む。]
5. 清水三郎 : 蕃茄の抑制栽培. 農及園 1巻3:38-42. [病害虫の一つとして根線虫病をあげる。ホルマリンによる土壤消毒。]
6. Steiner, G. & Hoeppli, R. : Studies on the exoskeleton of some Japanese marine nemas. Arch. Schiffs- Tropenhyg. 30(9) 547-576, 2 pls. [神戸近くのJoshi Island (未詳) においてGordon Smith氏の採集した海棲線虫4種の記載および表皮の形態の研究。記載されたのは次の種類。Acanthopharynx japonicus (新種、現在 A. japonica)、Croconema mammillatum (新種、同 Desmodora (Croconema) mammillata (Steiner & Hoeppli, 1926) Gerlach, 1963)、Euchromadora archaica (新種、同 Steineridora archaica (Steiner & Hoeppli, 1926) Inglis, 1969)、Dicriconema tenuis (新属新種、同 D. tenue)。]
7. 田畑清光 : 煙草栽培に関する二三の重要事項. 大日本農会報 545: 1-11. [線虫記述なし。苗床の蒸気消毒施設を紹介。]
8. 植原外三 : 芍薬栽培法. 農及園 1巻 5:30-38. [病害の一つとして線虫によるルートゴールをあげる。]
9. 吉田和吉 : 桑樹の根瘤線虫に就ての私見. 大日本蚕糸会報 35(418)1440-1442. [長野県下伊那郡の荒廃桑園の調査。線虫の種類、被害、駆除予防法 (乾燥、温湯浸漬、石灰水の冷却後に浸漬、被害部を剪去、二硫化炭素・青酸ガスの燻蒸、植付を深く、焼土、生石灰の土壤混入。)]
10. 吉田和吉 : 桑樹の根瘤線虫に就て. 蚕業新報 34(401) 1301-1303. [記述に多少の

違いはあるが、No. 26-9と同内容。]

- 1 1. Anon. (広島農試) : ネマトウダ駆除試験. 大14業功 : 184. [オクラ、セルリーにホルマリン、消石灰、木灰、硫黄華、二硫化炭素施用。]
- 1 2. Anon. (茨城農試) : 茄子連作試験 (四年目). 附 線虫駆除法試験. 大13業功 : 96-99. [石灰窒素、晒粉、クロルピクリン、二硫化炭素。]

昭和2年 (1927)

1. 赤木勝雄 : 北海道「アイヌ」に見ラレタル「ラブヂチス」ノ一新種ニ就イテ. 中外医報 1126: 151-156. [検出した雄成虫の形態を記載. 新種としての命名なし。]
2. 深田亮平 : 桑の線虫に就て. 大日本蚕糸会報 36(429) 1271-1274. [線虫寄生の有無と桑の生育. 線虫寄生の影響は僅か。]
3. 鏑方末彦 : 実験果樹病害論. 養賢堂、東京、6+17+385 pp. [柑橘の「内地に存否不明の病害」の項に立枯病 (*Tylenchulus semipenetrans*) の病徴、病原、予防法を解説。]
4. 岩根 謙 : 桑樹根瘤線虫 (*Heterodera radicolica* Greeff) 駆除に関する試験. 群馬蚕試報 3: 21-35. [クロルピクリン、二硫化炭素による土壤消毒、苗の温湯浸漬 (55°C 10分処理) は線虫駆除効果あるが、桑の生育悪化. その他各種試験. 蚕業新報 418: 500-501, 1928 に抄録。]
5. 宮崎勝雄 : 禾穀類の線虫病に関する研究. 農及園 2(3) 302-303. [コムギツブセンチュウ. 欧米における発生、症状、病原線虫、線虫の生存状態、福岡県の発生状況、種子消毒法。]
6. 岡部康之 : 根瘤線虫の寄生と桑苗の硬度. 栽桑学会報 2(1) 18-24. [未見]
7. 清水昌保 : 輸移入植物の検査概要と主なる植物の種類及び之に附着せる病菌害虫に就て. 朝鮮農会報 9 卷12: 29-38. [線虫を含む。]
8. 渡辺 弘 : Ueber eine neue Species Rhabditis, welche im Menschen vorkommt. 日病理誌 17(1) 215-216. [新種 *Rhabditis usui* を記載. 本種は *Pelodera axei* Cobbold, 1884 のシノニムとされた (Dougherty, E.M., J. Helminth. 29, 105-152). 現在は *Rhabditella pseudoelongata* (Micoletzky, 1933) Andrassy, 1983 のシノニムとされている (Andrassy, I., A taxonomic review of the suborder Rhabditina (Nematoda: Secernentea). ORSTOM, Paris, p. 136).]
9. Anon. (千葉農試) : 菟蕪ネマトーダ防除ニ関スル試験. 大14業報 : 135. [種塊伝染を認める。]
10. Anon. (千葉農試) : 麦「ネマトーダ」予防ニ関スル試験. 大14業報 : 139. [石灰窒素施用で発病減少。]
11. Anon. (千葉農試) : 菟蕪ネマトーダ予防ニ関スル試験. 昭元業報 : 169. [二硫化炭素が有効。]
12. Anon. (広島農試) : ネマトウダ駆除試験. 大15・昭元業功 : 291. [「ホルマリン、木灰、二硫化炭素ノ順ニ効果アリ」]
13. Anon. (茨城農試) : 茄子連作試験 (四年目). 附 線虫駆除法試験. 大14業功 : 125-127. [石灰窒素、クロルピクリン、二硫化炭素が有効。]
14. Anon. (宮崎農試) : 葱萎縮病ニ関スル試験. 大15・昭元業功 : 201-202. [二硫化炭素、ホルマリン、石灰、石灰窒素、石灰硫黄合剤は効果なし。]

昭和3年 (1928)

1. 堀 正太郎：線虫の寄生から起る2種の新病害に就て、農及園 3(3)292-296. [花ベゴニアの葉線虫病、ニンジン及びゴボウの指根病。]
2. 加藤亮太郎：根線虫駆除に対するクロール・ピクリンの効果。大日本農会報 570:28-31. [従来の防除法と比較。]
3. 町田貞一・青山哲四郎：朝鮮害虫編 前編。三宅琢造本店出版部、釜山、7+6+303+4 pp., 1 pl. [小麦線虫 p.122-125, 桑線虫 p.277-281。]
4. 三宅市郎・加藤亮太郎：土中殺虫剤としてのクロールピクリン。病虫雑 15(8) 423-426. [チシャのネコブセンチュウ防除を含む。]
5. 中田覚五郎・滝元清透：朝鮮作物病害目録。朝鮮総督府勸業模範場研報 15:1-146. [小麦胡麻病 p. 8。]
6. 鈴木孝太：セルリーの栽培(其二)。農及園 3(2)173-175. [「ネマトーダの予防には反当十五貫位の硫黄華を栽植前土壤に施用せば効果がある」]
7. 高橋 奨：蔬菜害虫各論。明文堂、東京、11+451+30(附録)+30 pp. [線虫 p.14, 附録 p.1-3. *Heterodera radiculicola* の解説。No.18-7~11を引用。]
8. Anon. (茨城農試)：茄子連作試験(五年目)。附 線虫駆除試験。大15・昭元業功:56-57. [3~4年の休閑、薬剤(石灰窒素、クロールピクリン、二硫化炭素)が効果あり。]
9. Anon. (関東庁蚕試)：根瘤線虫寄生桑苗栽植試験。同試十年報: 65-67. [温湯浸漬(60°C1分)により線虫ほぼ死滅。]

昭和4年 (1929)

1. 遠藤保太郎・樋口琢磨：日本桑樹栽培論。明文堂、東京、6+9+840 pp., 16 pls. [線虫防除(温湯浸漬) p.212。]
2. 今村重元：作物に寄生する線虫。応動 1(3/4)211-216. [ソバ、大豆、燕麦に寄生する線虫をを解説。]
3. 石渡繁胤：柞蚕に寄生する線虫に就て(予報)。動雑 41(490/491)368-369. [講要。No. 37-7を参照。寄生数、生態等。]
4. 中田覚五郎：蔬菜病害講習録。福岡県内務局農務課、福岡、5+80 pp. [西瓜の線虫病(*Heterodera radiculicola*) p.30-32.ホルマリン、二硫化炭素、青酸石灰、輪作、夏期休閑、湛水による防除。]
5. 岡部直己：人類ノ糞便中ニ現ハレタル「ラプヂチス」ノ一種ニ就テ。慶応医学 9(2) 2039-2050, 1 pl. [*Rhabditis fecalis* 近似線虫の形態を報告。]
6. 進藤文二：土壤中に於ける小貧毛類と線虫の季節的及び垂直的分布に就て。応動 1(1)18-26. [耕地・草地の比較等。]
7. 進藤文二：On the seasonal and depth distribution of some worms in the soil. J. Coll. Agric., Imp. Univ. Tokyo 10(2)159-171. [No.29-6を参照。]
8. 山内為寿：桑螟虫ネマ病雑感(四)。佐久良会雑誌 26: 23-34. [寄生割合、一宿主内寄生虫数、線虫の大きさ、尾角(後端の形態)、宿主昆虫の種類(10種)、分布(4県を追加。)]
9. 横山桐郎：最新日本蚕業害虫全書。明文堂、東京、3+12+569+13 pp. [こんせんちゅう p.555-562。]

10. Anon. (農林省農務局) : 道府県農事試験場に於ける病害虫に関する調査研究事項 乙. 害虫に関する事項. 病虫雑 16(12)770-776. [小麦の線虫 (愛知)、蔬菜のネマトーダ (鹿児島県).]
11. Anon. (農林省農務局) : 病害虫分布調査 第二篇. 農林省農務局、東京、1+8+431 pp. [謄写. 昭和元年における日本内地の病害虫の分布、方言、被害農作物、発生の沿革、防除法を記述。小麦殺実線虫 p.228-229, ネコブセンチュウ p.309-312, No. 30-22 に抄録。]
12. Anon. (広島農試) : ネマトウダ駆除試験. 昭2業功:231-232. [「木灰、消石灰、二硫化炭素、ホルマリン、青酸石灰ノ順ニテ効果アリ」]
13. Anon. (島根農試) : 桑線虫防除試験. 昭3病虫害業報:137-140. [被害苗薬剤浸漬、定植後の処理。]

昭和5年 (1930)

1. 江崎佛三・橋本土郎 : 農林省委託浮塵子駆除予防試験報告 (1). 九州帝大昆虫学教室出版、No.1、30 pp. [福岡から線虫を発見。形態を記載 p.27.]
2. 福士貞吉・斉藤栄策 : The angular leaf spot of Zinnia elegans Jacq. caused by eelworms. 鳥取農学会報 2:45-56. [ヒャクニチソウの葉の角斑の病原線虫として Aphelenchoides ritzemabosi を本邦最初に報告。]
3. 外村亀吉 (担当者) : 温床茄子ネマトーダ駆除予防試験. 鹿児島農試業功 昭4:209-211. [「『クロルピクリン』ハ多少効果」]
4. 今村重元 : 腐敗物中に生活する線虫. 応動 2(1)77-79. [自由生活線虫を紹介。]
5. 今村重元 : 捕食性 Mononchus 属. 応動 2(2)127. [解説記事。]
6. 今村重元 : 水田に自由生活を営む線虫の灌漑前後に於ける差異に就いて. 応動 2(2)132-134. [講要、No.31-5を参照。]
7. 今村重元 : 土壤線虫と肥料成分との関係. 応動 2(3)207-210. [大麦・陸稲圃場の三要素全区、無窒素区、無磷酸区、無カリ区、無肥料区で27種の線虫の密度を比較。直接の関係無し。]
8. 今村重元 : 植物寄生線虫の防除に関する一考察. 応動 2(4)291-294. [今後の研究課題を論ずる。]
9. 岩里間佐一 : 小麦萎縮病について. 長崎農試時報 3巻11:2-5. [本病の防除、品種の抵抗性。]
10. 森下 薫 : 円虫類 (岩波講座生物学). 岩波書店、東京、50 pp. [植物寄生線虫 p.16-18.]
11. 長倉快一郎 : Ueber den Bau und die Lebensgeschichte der Heterodera radicola (Greef) Muller. Jap. J. Zool. 3(3) 95-160. [No.18-7~11の集大成。85図を含む。]
12. 野津六兵衛 : 線虫問題 (1). 島根県農会報 393:32-36. [土壤の薬剤処理 (石灰窒素、二硫化炭素)、被害苗木の処理 (石灰イオウ合剤、温湯浸漬)、線虫抵抗性台木 (61品種中に皆無)。]
13. 野津六兵衛 : 線虫問題 (2). 島根県農会報 394:22-25. [防除法等に関するアンケート調査の結果。回答者は蚕試、鑛木、京都高蚕、鹿児島高農、愛知蚕試、台北帝大農理学部。]
14. 野津六兵衛 : 線虫問題 (3). 島根県農会報 395:27-30. [前報の続き。山口農試

- の回答。その他として、中田覚五郎の講演・横山桐郎の著書中の線虫に関する記述を紹介。寄主植物、県内の被害面積をあげる。]
15. 杉山栄之丞：菊の害虫「線虫」の防除法。農業世界 25巻50:77-80。[病徴、生活状態、感染経路、駆除法(45°C2分又は50°C1分30秒の苗の温湯浸漬)。]
  16. 滝元清透：微生物及植物病理学実験法。養賢堂、東京、3+10+370 pp。[「線虫の分離法」 p.301, 「線虫の接種法」 p.311-312. Byars, L.P. (1914) *Phytopathology* 18 : 507-514 を主に引用。]
  17. 津曲彦寿：煙草赤星病に関する補遺調査(3)。赤星病菌の寄生性に就て。病虫雑 17(6)371-378。[*Colletotrichum* sp. (炭疽病菌)は線虫被害たばこ葉に夥しく発生。]
  18. 津曲彦寿：煙草斑点病に関する研究(完)。病虫雑 17(8) 516-528。[線虫病被害煙草に本病の発生を見受ける。]
  19. 山内為寿：桑螟虫ネマ病の観察。日蚕雑 1(2) 103-122。[研究史、病徴、寄生虫の形態、採集時期・1宿主内寄生数と線虫の大きさ、線虫の生態(寄生割合、1宿主内寄生虫数、在宿と離脱、自在生活、分類学上の所属、分布、宿主昆虫の種類。)]
  20. 横山桐郎：桑樹虫害論。In: 桑樹病虫害論(末松直次・横山桐郎共述)。弘道館、東京、187 pp。[こんせんちゅう p.184-186 (虫害論)。病害論は巻頭の87 pp。]
  21. Anon. : 島根県に於ける桑線虫の被害。病虫雑 17(12)851。[「千町歩内五百町歩は被害激甚」]
  22. Anon. : (農林省農務局) : 被害大なる地方的病虫害調(2)害虫之部。病虫雑 17(2)122-149。[ネマトーダ検出地及び作物：東京(穀菽類、蔬菜、鑑賞植物、雑草)、埼玉(仏掌芋)、鹿児島(温泉熱利用の苗床温床)、福井(麦)。No. 29-11が原著か。]
  23. Anon. (愛知農試) : 小麦ノ穀実線虫ニ関スル試験。昭3業功:181-182。[クロロピクリン、二硫化炭素、石灰窒素、石灰、石灰硫黄合剤、ホルマリン、硫化加里、昇汞水、昇汞粉末を土壤施用。病虫雑 18(2)745-746, 1931 に再録。]
  24. Anon. (千葉農試) : 蒟蒻ノ病害ニ関スル試験。昭3業報:259-260。[クロロピクリン施用。]
  25. Anon. (岐阜農試) : 小麦ノ茎線虫ニ対スル抵抗性品種調査。昭4業功:88。[12品種を比較。]
  26. Anon. (岐阜農試) : 小麦茎線虫駆除試験。昭4業功:88。[昇汞水、石灰窒素、サイアノガス、二硫化炭素、クロロピクリン施用。]
  27. Anon. (広島農試) : ネマトウダ駆除試験。昭3業功:200-201。[「コクゾール(クロロピクリン)、青酸石灰、木灰、二硫化炭素、ホルマリン、消石灰ノ順ニテ効果アリ」]
  28. Anon. (島根農試) : 桑線虫防除試験。昭4病虫害業報:153-157。[苗の燻蒸(ホドゾール、コクゾール、二硫化炭素、青酸ガス、サイアノガス)、薬液浸漬、土壤燻蒸(ホドゾール)。]

### 昭和6年 (1931)

1. 江崎悌三・橋本土郎：農林省委託浮塵子駆除予防試験報告(2)。九州帝大昆虫学教室出版、No.2、59 pp., 5 pls。[寄生線虫(*Mermis*属) : 生活史、寄主にあたえる形態的影響、寄生率。p. 54-57。]
2. 原 撰祐：茶樹の病害。日本菌類学会、静岡、10+271 pp。[根線虫病 p. 174-175:]

- Heterodera radiculicola の解説、防除法 (被害株抜取焼却、湛水2ヵ月、石灰窒素・ホルマリン施用、客土。]
3. 外村亀吉 (担当者) : 温床茄子ノネマトーダ駆除予防試験. 鹿児島農試業功 昭5 : 218-219. [アリス粉末、晒粉は効果なし。]
  4. 堀 正太郎 : 蔬菜及び花卉の病害. In: 園芸病虫害 (石井勇義編)、誠文堂、東京、p.267-403. [バラの根線虫病 p.374-375. クロルピクリンによる駆除。]
  5. 今村重元 : Nematodes in the paddy field, with notes on their population before and after irrigation. J. Coll. Agr., Imp. Univ. Tokyo 11(2) 193-240. [新種を含む48種の記載。新種として記載されたのは次の11種 (括弧内は現在の分類学上の扱い)。Plectus multitubiferus (Paraplectus multitubiferus), Pseudoaulolaimus anchilocaudatus (新属新種), Tylenchus apapillatus (= Hirschmaniella oryzae), Aphelenchus bicaudatus (= Aphelenchoides bicaudatus), Tylencholaimus longicaudatus (= Discomyctus longicaudatus), T. bryophilus (= Didoryllium bryophilum), Dorylaimus elegans var. longicaudatus (= Dorylaimoides longicaudatus), D. filiformis var. papillatus (= D. pseudostagnalis), D. filiformis var. protumidus (= D. protumidus), D. tambo (Oxydirus tambo), D. denticaudatus (= Oxydis denticaudatus)。その他に記載されたのは次の35種 : Alaimus primitivus, A. lemani, Eastina exilis, Tripyla papillata, Cyatholaimus ruricola, Monhystera filiformis, M. paludicola, M. agilis, Prismatolaimus dolichulus, Trilobus gracilis, Cephalobus elongatus, C. emarginatus, C. persegis, Chronogaster gracilis, Chriptonchus nudus, Plectus cirratus, Rhabdolaimus aquaticus, Walcherenia typica, Ironus ignavus, Monochus macrostoma, M. tunbrigdensis, Oncholaimus punctatus, Chromadora fluviatilis, Tylenchus gracilis, T. intermedius, T. filiformis, T. leptosoma, Tylencholaimus mirabilis, Dorylaimus brigdammensis, D. carteri, D. limnophilis, D. micoletzkyi, D. stagnalis, D. crassus, Actinolaimus macrolaimus. 各線虫の灌漑前後の個体数変化の調査結果を示す。]
  6. 今村重元 : 土壤線虫5種. 応動 3(1)35-38. [Tylencholaimus americanus (= Xiphinema incognitum), Cyatholaimus intermedius, Cylindrolaimus communis, Discolaimus texanus, Hoplolaimus (Criconema) informis (= Criconemella informis) を記録。]
  7. 今村重元 : 蝦類に寄生する Nectonema munidae. 応動 3(2)142-143. [Brinkmann, 1930の抄録。]
  8. 今村重元 : 水田の線虫. 応動 3(3)157-165. [48種をあげる。No.31-5を参照。灌漑前後の個体数、線虫相の変化を調査。]
  9. 今村重元 : 線虫の培養法. 応動 3(3)204-206. [講要. in vitroの培養法。]
  10. 駒村作太郎 : 庭園植物の根線虫駆除とクロルピクリンの利用法. 実際園芸 11: 182-183. [圃場施用法を解説。]
  11. 大沢幸雄 : シクラメンの栽培 (2). 農及園 6(11)1807-1816. [播土の蒸気及び薬剤 (コクゾール、ホルマリン) 消毒によるネマトーダ防除にふれる。]
  12. 枋内吉彦 : 植物の病害予防. In: 園芸病虫害 (石井勇義編)、誠文堂、東京、p.1-198. [線虫 p.44. 土壤蒸気消毒装置 P.138-139。]
  13. 植原外三 : マスクメロン培養土の土壤消毒法. 農及園 6(8)1563-1565. [ホルマリン、クロルピクリンによるネマトーダ防除。]
  14. 山内為寿 : クハノメイガ其の他に寄生する Hexameris 属糸片虫の研究. 日蚕雑 2(2) 196-197. [講要]
  15. 山内為寿 : Hexameris 属糸片虫の桑螟虫及家蚕に於ける実験的感染. 日蚕雑 2(4)

- 418-434. [経皮的に寄主に侵入、線虫の発育に季節的差異。]
16. 安本徳寛(講述)：植物病理学. 附 植物綱目学(芝楠). 日野 巖刊、宮崎市、48 pp. [小麦に Anguillula tritici (コムギツブセンチュウ)、A. devastatrix (ナミクキセンチュウ) が寄生 p.13. 明治16年頃の東京山林学校(東京大学農学部の前身)における講義録。]
17. Anon. (広島農試)：ネマトウタ駈除試験. 昭4業功：283. [「コクゾール最も効果アリ」。コクゾールはクロルピクリンの商品名。]
18. Anon. (兵庫農試)：ネマトーダニ対スル土壤消毒試験. 昭4業功：237-238. [石灰窒素、晒粉、ホルマリン、二硫化炭素使用。]
19. Anon. (島根農試)：桑線虫防除試験. 昭5業報：病理昆虫部 129. [試験項目のみ。]

昭和7年 (1932)

1. 卜蔵梅之丞：麦類病害論. 病虫雑 19(10)744-753. [萎縮病：線虫原因説あり。]
2. 江崎悌三・橋本土郎：農林省委託浮塵子駈除予防試験報告(3). 九州帝大昆虫学教室出版、No.3、42 pp. [線虫寄生率34.6-40.8% (福岡) p. 41-42。]
3. 江崎悌三：浮塵子の敵虫に就いて. 応動 4(3)128-130. [Agameris unka を含む。]
4. 外園亀吉(担当者)：温床茄子ネマトーダ駈除試験. 鹿児島農試業功 昭6：258-259. [晒粉、クロールピクリン、二硫化炭素施用。]
5. 堀 正太郎：キクの線虫性葉枯病. 實際園芸 13巻 4:137-139 [研究史、被害、病徴、環境と発病の関係、病原(Aphelenchus Ritzemabosiと同定)、予防法(病葉の焼却、土壤の火熱消毒、苗の水洗、硫酸ニコチン散布又は塗布)。]
6. 堀 正太郎：ペゴニヤの線虫性葉枯病. 實際園芸 13巻4: 140-142 [発病植物、研究史、被害、病徴、病原 (Aphelenchus olesistus)、予防法(病葉の焼却、土壤の火熱消毒、苗の水洗)。]
7. 堀 正太郎：グロキシニヤの線虫性葉枯病. 實際園芸 13巻 4: 143-144. [発病植物、研究史、被害、病徴、環境との関係、病原と予防法(アフエレンクス・オレシストスとする。病葉の焼却、苗・鉢の熱湯消毒、球根の温湯浸漬、被害株の水洗)。]
8. 堀 正太郎：ヒヤクニチサウの線虫性角斑病. 實際園芸 13巻 4: 145. [発病植物、研究史、被害、病徴、病原(アフエレンクス・リツエマボシイとする)、予防法(病葉の焼却、苗床の熱湯消毒、クロルピクリン・二硫化炭素処理、硫酸ニコチン散布)。]
9. 今村重元：二化螟虫及びウンカに寄生する糸片虫(1). 応動 4(2)73-78. [Amphimeris zuimushi の形態、生活史、寄生習性。No.32-13 を参照。]
10. 今村重元：二化螟虫及びウンカに寄生する糸片虫(2). 応動 4(2)176-180. [Agameris unka の形態、生活史、寄生習性。No.32-14 を参照。]
11. 鑛木外岐雄：作物に寄生する線虫. 教育農芸 1(6)653-656. [土壤線虫類の解説。]
12. 鑛木外岐雄：園芸植物の線虫類と防除法. 實際園芸 15巻 4: 302-308. [線虫の種類と症状、駈除の方策。]
13. 鑛木外岐雄・今村重元：A new mermithid-worm parasitic in the rice borer, with notes on its life history and habits. Proc. Imp. Acad., Tokyo 8(3)109-112 [Amphimeris zuimushi (新属新種)を二化螟虫から記載。]
14. 鑛木外岐雄・今村重元：Mermithid-worm parasitic in leaf-hoppers, with notes on its life history and habits. Proc. Imp. Acad., Tokyo 8(4)139-141. [Agamer-

- mis unka (新種) をイネマダラヨコバイとセシロウンカから記載。]
15. 中台昭之助: クロールピクリンの燻蒸に依る温床土の消毒に関する研究. 病虫雑 19(12) 894-904. [線虫も100%死滅。]
  16. 中村寿夫: 本邦産煙草病害概説(3). 病虫雑 19(9)656-669. [線虫病: 静岡県に多発。他に鹿児島、広島、岡山、神奈川。]
  17. 小山田一雄: メロンの病害虫と予防. 実際園芸 14 卷 4: 125-129. [ネマトーダ対策(多肥栽培、熱気・ホルマリン消毒)を含む。]
  18. 酒井久馬: ウンカシヘンチュウ愛媛県にも産す. 応動 4(5)268.
  19. 酒井久馬: 大分地方産浮塵子類の天敵と之が年内に於ける消長に就いて(予報). 応動, 4(9) 124-127 [糸片虫を含む。]
  20. 田杉平司: 茄子・蕃茄の病害と防除法. 実際園芸 13 卷 4: 91-103. [根線虫病を含む。ホルマリン、クロールピクリン、漂白粉、輪作による防除。]
  21. 山田 濟: 土壤の消毒法. 実際園芸 14卷4:42-45. [理学的的方法(蒸気、熱湯、火熱、日光、湛水、深耕)、化学的方法(ホルマリン、二硫化炭素、クロールピクリン、石灰硫黄合剤、昇汞水、石灰窒素、クロール石灰、石灰、木灰、硫黄末)、生物学的方法、器械的方法(遮断法、客土、輪作)。]
  22. 山口捨雄: あかえぞまつ及びびくろまつノ苗樹ニ寄生スル線虫ニ就イテ. 北海道帝大農演習林研報 7:209-215. [Tylenchus pratensis の形態とその被害。キタネグサレセンチュウと思われる。]
  23. 山内為寿: 桑螟虫寄生糸片虫の所属考. 日蚕雑 3(2) 143-147. [Hexameris sukimushi と命名。スキムシノシヘンチュウの和名を提案。]
  24. Anon. 桑園の線虫の被害. 病虫雑 19(9)720. [島根県下1500町歩。]
  25. Anon. (青森県内務部): 病菌害虫駆除予防要覧. 青森県、青森、70 pp., 1 表. [大豆萎黄病(大豆線虫、月夜病) p.25-26,59.]
  26. Anon. (青森農試): 病害虫防除ニ関スル事項. 昭4 業年:205. [五戸分場成績。「大豆線虫防除ニ関スル調査」(タイトルのみ)。]
  27. Anon. (鹿児島農試): 茄子ネマトーダ駆除試験. 昭6 業功:249-253. [クロールピクリン、蒸気による土壤消毒。]
  28. Anon. (埼玉農試): 根線虫駆除に関する調査. 昭6 業功: 70. [クロールピクリン、二硫化炭素、漂白粉、石灰窒素等をナスに施用。]
  29. Anon. (山口農試): ネマトーダ防除試験. 昭5 業年: 97-98. [クロールピクリン、サイアノガス、蒸熱、ホルマリン、二硫化炭素、石灰窒素、湛水による防除。]
  30. Anon. (山口農試): ネマトーダ防除試験. 昭6 業年: 71-72. [生石灰、ホルマリン、クロールピクリン、湛水等を試験。]

### 昭和8年 (1933)

1. Cartwright, W. B. : Observation on the European corn borer and its major parasites in the Orient. USDA Circular No.289, 13 pp. [Hexameris meridionalis Steineを本州・九州から記録. 病虫雑 21(3) 214-215, 1934に抄録。]
2. 江崎悌三・橋本土郎: 農林省委託浮塵子駆除予防試験報告(4). 九州帝大農昆虫学教室出版. No.4、32 pp., 4 pls. [本年(昭7)は福岡付近では線虫の寄生を認めず。]
3. 外村亀吉(担当者): 温床茄子ネマトーダ駆除試験. 鹿児島農試業功 昭7: 189-191. [クロールピクリン、蒸気消毒が効果あり。]

4. 池田(米男) : 茄子のネマトーダ. 鹿児島県農会農報 98: 37-39. [所属、分類、線虫病の解説、ヘテロデララダイシコラの寄生植物、経過習性(生活史).]
5. 池田(米男) : 茄子のネマトーダ(2). 鹿児島県農会農報 106:19-21. [防除. 蒸気消毒(80°C半時間以上)、クロルピクリン(2週間置きに3回施用)は効果あり. ホルマリン、硫黄、デリス、石灰窒素等は効果なし.]
6. 猪股修二郎・石井輝士・横山 匠 : カマキリに寄生するハリガネムシ Gordius aquaticus の寄生歩合に就きて. 応動 5(3)102. [講要]
7. 鑛木外岐雄・今村重元 : Descriptions of two new soil nemas in the Nikko district. Proc. Imp. Acad., Tokyo 9(3)134-136. [Tylencholaimus nikkoensis, T.kirifuri の2新種を含む35種を記録. 現在、兩種とも species inquirendae とされている (Jairajpuri, M.S., Nematologica 10(4) 512-518, 1965). No. 36-10を参照.]
8. 鑛木外岐雄・弥富喜三 : Notes on sex in Amphimermis zuimushi Kab. et Im. Proc. Imp. Acad., Tokyo 9(7)333-336. [寄生密度が高くなるにつれ雄出現率が増加.]
9. 木庭康喜 : 瓜根線虫に対する土壤消毒試験成績. 病虫雑 20(1) 口絵写真. [消石灰、石灰窒素、クロルピクリンの効果を比較. 熊本農試の成績を紹介. No. 33-31を参照.]
10. 中村寿夫・津曲彦寿 : 線虫病予防試験成績. 専売局年報(昭8) [未見]
11. 丹羽 彌 : ハリガネムシ類 (Gordiaceae) の蜘蛛に寄生する例. 名古屋生物学会記録 1(3)120-121. [未見. ウヅキドクグモ、ナカムラハエトリグモより3例を記録.]
12. 野津六兵衛 : 桑線虫の防除に関する知見(1). 島根農試彙報 276:13-14. [二硫化炭素、ホルマリン、クロルピクリン他の効果. No. 30-12, 13, 14も参照.]
13. 野津六兵衛 : 桑線虫の防除に関する知見(2). 島根農試彙報 277:14-15. [京都高等蚕業学校、鹿児島高等農林学校の成績を引用.]
14. 野津六兵衛 : 桑線虫の防除に関する知見(3). 島根農試彙報 280:10-11. [山口農試他の成績を引用.]
15. 酒井久馬 : 大分地方産浮塵子類の天敵とその季節的消長(第2報) 特にヨコバヒ類天敵に関する知見補遺. 応動 5(3)125-128. [糸片虫を含む.]
16. 高橋久四郎 : 収益本位蔬菜栽培法(農業実行叢書). 養賢堂、東京、2+6+363 pp., 1 pl. [病害虫程恐るべきものはなく、「第一が『ネマトーダ』にして、栽培の二年目に発生し、.....」 p.78. ネマトーダ(根線虫)が害虫の項で掲げられた作物: ナス p.78, キュウリ p.158, トマト p.167-168, カボチャ p.182, スイカ p.194, トウガラシ p.201, インゲン p. 206, フジマメ p.215, ニンジン p.238, キャベツ p.263.]
17. 谷口良頌 : Notes on chemotactile of Rhabditis filiformis Butschli. Proc. Imp. Acad. Jap. 9(8)432-435. [酸、アルカリ、塩類に対する反応. No.33-18を参照.]
18. 谷口良頌 : 土壤線虫 Rhabditis filiformis Butschliの趨化性に就きて. 応動 5(5) 232-236. [酸、アルカリ、塩類に対する反応.]
19. 津曲彦寿 : 煙草痘瘡病に関する研究(1). 病虫雑 20(4)305-310. [抜星病は線虫の寄生が誘因.]
20. 津曲彦寿 : 煙草痘瘡病に関する研究(2). 病虫雑 20(5)378-389. [線虫との関係 p.384.]
21. 渡邊龍雄 : 扁蒲ノ主要病害ト防除法. 宇都宮高等農林農研会誌 8:25-42. [フクベ(カンピョウ)の病害. 根線虫を含む.]
22. 山口捨雄 : 根瘤線虫 Heterodera radicicola (Greeff) Muller に就て. 農及園 8(5)1186-1190. [研究史、形態、生活史、被害(ハクサイ、テンサイ)、寄主植物(大和薯、ニンジン、ゴボウ、カブ、ショウガ、ミョウガ)、防除(輪作、厩肥多用).]
23. 山口捨雄 : 線虫の畸形. 植及動 1(7) 1054. [Cephalobus elegansの体に嵌込んだ]

- ようになった輪形物を報告。捕食菌のリングか? ]
24. 山内為寿: 桑螟虫に寄生する糸片虫の雌雄性, 応動 5(2)45-63. [寄生数と線虫の性比の関係。]
25. 横山桐郎: 実用蚕業害虫篇, 弘道館、東京、2+4+337+3 pp., 1 pl. [こんりゅうせんちゅう p.329-333.]
26. Anon.: [質疑応答] 答, 日本園芸雑誌 45 卷4:53-54. [ネマトーダの防除法に関する東京府佐田氏の質問への回答。クロルピクリンより硫黄華の使用を勧める。]
27. Anon. (青森農試): 病虫害防除ニ関スル事項, 昭5業年: 301. [五戸分場成績。「大豆線虫防除ニ関スル調査」(タイトルのみ)。]
28. Anon. (青森農試): 病虫害防除ニ関スル事項, 昭6業年: 217. [五戸分場成績。「大豆線虫防除ニ関スル調査」(タイトルのみ)。]
29. Anon. (千葉農試): 病菌害虫道府県連絡調査, 昭6業報: 262-268. [蔬菜のネマトーダ: 千葉県全域に分布。]
30. Anon. (鹿児島農試): 茄子「ネマトーダ」駆除試験, 昭7業功: 177-179. [クロルピクリン施用が最良。]
31. Anon. (熊本農試): 胡瓜根線虫ノ駆除トシテ土壤消毒試験, 昭7業功: 266. [クロルピクリンは効果あり。無処理の倍の蔓の伸長。石灰窒素は効果なし。]
32. Anon. (長崎農試): 小麦胡麻病接種試験, 昭6業功: 280-281. [被害、線虫の生活史。]
33. Anon. (山口農試): ネマトーダ防除試験, 昭7業年: 151-152. [生石灰、石灰窒素、ホルマリン、クロルピクリン、二硫化炭素、湛水の効果を試験。]

昭和9年 (1934)

1. 藤田勝正: 線虫病と其の防除法, 北農 1(5)149-154. [大豆萎黄病、線虫根瘤病(小豆、甜菜、除虫菊、ゴボウ他)。]
2. 藤田勝正・三浦 脩: On the parasitism of *Heterodera schachtii* Schmidt on beans. 札幌博物学会報 13(3)359-364. [大豆萎黄病。研究史、寄主植物等。]
3. 福井玉夫: ネマの簡単な固定保存法, 植及動 2(4)772. [熱殺法を紹介。]
4. 弥富喜三・横尾多美男: 小麦の萎縮病と土壤線虫(予報), 応動 6(4)188-207. [コムギツブセンチュウ、クキセンチュウの形態、生活史、病徴、上記病害との関係。]
5. 弥富喜三・横尾多美男: *Anguillulina dipsaci* の寄主植物, 応動 6(5/6)314-319. [217 種を記録。文献からのまとめ。]
6. 鑓木外岐雄: 土壤線虫類に関する研究, 服部報公会研究抄録 1: 142-144. [1929-1932年に発表した業績の紹介およびそれ以外の未発表の研究の進捗状況。]
7. 鑓木外岐雄: 髓虫糸片虫の習性と間性, 植及動 2(3)501-506. [生活史と性決定。]
8. 上遠 章: 農産病虫害, In: 病虫害の防除法(農家副業全書 第四巻), 成美堂、東京、p.1-40. [線虫に対しては輪作するか土壤消毒(二硫化炭素)することが大切。]
9. 兼子常一郎: 西洋野菜の栽培(2), 賤機農報 2 卷4:15-18. [セルリー: ネマトーダの被害を受けている苗等は定植の際注意して選別する。石灰窒素による苗床の消毒を含む。]
10. 松岡喜惣治: 蔬菜の病虫害駆除, 明文堂、東京、1+4+57 pp. [トマトの根線虫病 p.26-27. 湛水30-60 日、ホルマリン、青酸石灰による駆除。]
11. 宮嶋正孝: 虫癭の腫張, 昆虫世界 38(440)120-121. [小麦の胡麻病を含む。]

12. 森島 功：虫癆雜録（4）．虫癆研究の跡—E—．昆虫世界 38(444)290-292．[線虫の虫癆を含む。]
13. 内藤 晋：温床茄子の「ネマトーダ」駆除予防研究．農業 647:43-58．[鹿児島県におけるネコブセンチュウ。寄主植物調査、防除試験（薬剤・温熱）。]
14. 中村寿夫：本邦煙草病害論．専売局、東京、2+1+1+5+136 pp., 67 pls. [線虫(*Heterodera radicicola*)の形態、寄主植物、防除（輪作・早植・肥培・被害株焼却・灌水・寒中耕鋤）。]
15. Steiner, G. & Buhner, E. M. : Diseases symptoms produced by *Anguillulina pratensis* in yams. *Phytopathology* 24(2)164-165. [日本、ジャマイカ、プエルトリコ、西アフリカのヤマイモのネグサレセンチュウによる病徴を記載・図示。]
16. 山内為寿：桑螟虫に寄生する糸片虫科線虫の研究．蚕試報 8(8)383-424. [*Hexameris microamphidis* (= *Agameris paradecantata*)の形態及び生活史。]
17. 山内為寿：桑スキムシ糸片虫の雌雄性．日蚕雑 5(1)56. [講要。寄生数と糸片虫の性比の関係を種々の寄主で観察。]
18. Anon. : 花卉栽培行事四月の巻．農及園 9(4)1014-1020. [ペゴニア、グロキシニア、百日草、菊の線虫性葉枯病防除：土壤消毒（ホルマリン、クロルピクリン、熱湯）。]
19. Anon. : 大豆の月夜病予防法を發見．病虫雑 21(5)403. [「畑一反に対し食塩なら五升を一石位の水に溶解して追肥と同様の形式にて施す」。以上全文。]
20. Anon. : 病虫害駆除予防に関する協議会概要．農産彙報 22:43-53. [昭和9年10月18日から25日に開催。「調査すべき病虫害」の中に麦線虫、蔬菜線虫を含む。]
21. Anon. (千葉農試) : 「クロールピクリン」ノ燻蒸ニ依ル温床土ノ消毒ニ関スル試験．昭7業報 : 246-253. [ネマトーダ死滅。]
22. Anon. (鹿児島農試) : 茄子「ネマトーダ」ニ関スル試験．昭8業功 : 192. [土壤の温熱・乾熱処理。]
23. Anon. (熊本農試) : 茄子科の青枯病並根線虫防除試験．昭8業功 : 231-232. [ナス、トマトにクロルピクリン施用。防除効果はあるが高価なため実施やや困難。]
24. Anon. (京都農試) : シクラメンの線虫駆除試験．昭7業功 : 109-110. [二硫化炭素、ホルマリン、硫酸ニコチン、煙草粉の鉢試験。]
25. Anon. (京都農試) : シクラメン下鉢の土壤消毒に関する試験．昭7業功 : 110-111. [ホルマリン2%液、焼土処理。前者に効果あり。]
26. Anon. (長崎農試) : 小麦胡麻病接種試験．昭7業功 : 320-322. [被害、幼虫解化時期調査。]
27. Anon. (沖縄農試) : 「ネマトーダ」防除剤効力比較試験．昭7業報 : 381-383. [二硫化炭素、クロルピクリンは効果あり（キュウリ）。]
28. Anon. (埼玉農試) : 根線虫駆除に関する調査．昭7業功 : 49. [クロルピクリン、二硫化炭素、漂白粉、石灰窒素等を白菜に施用。]
29. Anon. (山口農試) : ネマトーダ病防除試験．昭8業年 : 135. [石灰窒素、ホルマリン、二硫化炭素、クロルピクリンをキュウリに施用。]

## 昭和10年 (1935)

1. 安藤安孝：胡蘿蔔の栽培（実用園芸講座 主要蔬菜の栽培 17），農業 659：82-91。  
[ネマトーダ等が多いときは三年休栽。]
2. 古川賤男：土壤消毒水溶性クロールピクリン，實際園芸 19(4)515-517。[灌注による利用法を紹介。線虫に関しては埼玉農試の大和芋の成績を引用。]
3. Heinze, K. : Weitere neue Parachorododes-Arten aus Asien (Nachtrag zu meiner Arbeit über das Genus Parachordodes Cameron). Zool. Anz. 112(5/6) 155-158. [ハリガネムシの一新種 P. lestici を日本のオオゴミムシから記載。]
4. 樋口 誠：有害物を混入する鶏糞と飼料取締問題，農業 661:61-65。[鶏糞への小麦粒線虫混入を論ずる。]
5. 樋口 誠：鶏糞に因る作物病害の伝播：養鶏飼料の取締問題，農業と経済 9(2)1674-1677。[小麦粒線虫混入を論ずる。]
6. 弥富喜三：園芸植物寄生線虫類と防除法，實際園芸 19巻1: 36-37。[各種線虫の解説及び防除法（クロールピクリン、二硫化炭素施用、輪作、土壤の蒸気消毒）。]
7. 鑛木外岐雄：二・三の有用及び有害土壤線虫に就て，動雑 47(557)213-215。[講要]
8. 鍛塚喜久治：農民叢書第9篇 病虫篇，武藤産業書房、名古屋、6+8+236 pp。[小麦穀実線虫病 p.144, 粟の不稔病（紫穂・線虫病） p.149, 大豆の萎黄病（月夜病、立枯線虫病） p.152.]
9. 沢 良三：水戸市付近畑地土壤中に於ける動物相、特に金亀子虫科幼虫其の他の季節的移動，応動 7(3)99-102。[講要。線虫を含む。]
10. 沢 良三：水戸市付近冬季水田畦畔土壤中の動物相，応動 7(3)102-104。[講要。線虫を含む。]
11. 清水昌保：輪移入植物の検査概要と主なる植物の種類及び之に付着する病菌害虫に就て，朝鮮農會報 9 卷12:29-40。[ネマトーダ：ダリア、桑、楮。]
12. 田中栄次郎：菊科植物の害虫，日本園芸雑誌 47巻11: 27-32。[根線虫を含む。]
13. 谷口良碩：Notes on the movement of the soil nema Rhabditis filiformis Butschli. Proc. Imp. Acad. Jap. 11(2) :77-79。[運動速度にあたる温度の影響。]
14. 山本岩三郎・真壁秀典・牧野恒雄・小林逸作：石灰窒素施用に依る桑苗の線虫撲滅に関する調査，東京府蚕業取締所立川支所、32 pp。[贈写。石灰窒素の桑苗の生育に及ぼす影響、線虫撲滅の効果に関する調査。施用効果を認める。]
15. 横尾多美男：Anguillulina dipsaciの宿主植物の追加，応動 7(2)88。[3種を記録。No34-5の続報。]
16. Anon. : 全国病害虫発生状況，農産彙報 29: 71-74。[小麦の穀実線虫が愛知県に発生。]
17. Anon. : 全国病害虫発生状況，農産彙報 30: 44-45。[愛知県における小麦の穀実線虫発生面積、伝播経路の報告を含む。]
18. Anon. : 黄蜀葵耕種要綱：鹿児島県，農産彙報 31: 99-101。[病害虫の項にネマトーダをあげる。]
19. Anon. : 小麦の穀実線虫病，安城農報 139: 168-174。[被害、病原線虫の特性、防除法。]
20. Anon. (農林省農務局)：種苗と共に伝播せる病害虫の種類及び其の病害虫に依って蒙れる損害の概要，病虫雑 22(2) 162-166。[桑線虫を含む。]
21. Anon. (北海道農試)：線虫病分布調査成績，試験及調査の成績に鑑み指導奨励上注意すべき事項 5: 171-177。[線虫根瘤病、大豆萎黄病の発生地及び被害植物。]

被害植物の生育状況。]

22. Anon. (青森農試) : 牛蒡及ヒ胡蘿蔔ノ線虫防除試験, 昭8業年: 151. [三戸郡向村で土壤消毒を指導。]
23. Anon. (鹿児島農試) : 茄子「ネマトーダ」ニ関スル試験, 昭8業功: 192. [熱気消毒。]
24. Anon. (熊本農試) : 胡瓜根線虫駆除としての土壤消毒試験 (昭和7年). 農事試験成績: 359-360. [1933年のデータ (昭7業功) に要約と摘要を付けた。]
25. Anon. (沖縄農試) : 「ネマトーダ」に関する調査, 昭8業功: 455-456. [ナス、トマト等に二硫化炭素を施用。]
26. Anon. (沖縄農試) : 「ナスネマトーダ」ニ関スル調査, 昭9業功報: 433-435. [石灰窒素、ホルマリン、クロロピクリン、二硫化炭素、クロロ石灰施用。病虫雑23(4) 288-289, 1936 に再録。]
27. Anon. (埼玉農試) : 大和薯ネマトーダ防除試験, 昭8業功: 51. [クロロピクリン施用。]
28. Anon. (山形農試) : 大豆線虫防除法試験, 昭8業功: 193-194. [最上分場成績。輪作、生石灰、石灰窒素、晒粉、食塩、粉末煙草施用。]
29. Anon. (山形農試) : 大豆線虫防除法試験, 昭9業功: 206-207. [最上分場成績。輪作、生石灰、石灰窒素等施用。]
30. Anon. (山口農試) : ネマトーダ防除試験, 昭9業年: 189-190. [石灰窒素、ホルマリン、クロロピクリン、二硫化炭素をキュウリに施用。]

#### 昭和11年 (1936)

1. 浅野逸郎: Hexameris、ヒシバツタより出ず, 植及動 4(11)1970. [埼玉県所沢産。]
2. 卜歳梅之丞: 麦類の病害と其の防除, 西ヶ原刊行会、東京、4+7+236 pp., Pls. [小麦穀実線虫病 p.231-233, 防除法 (種子精選、石灰窒素、輪作)。]
3. Cobb, N. A. : [No. 36-22を参照。]
4. 江崎悌三: 稲の浮塵子 (2), 農及園 11(10)2415-2423. [天敵としてウンカシヘンチュウを含む。]
5. 藤根吉雄: 大豆, 北海道農試彙報 59:1-101. [休裁年限は7年 p.37, 大豆萎黄病 p.71-72, 線虫根腐病 p.72-74。]
6. 古川賤男: 水溶性クロールピクリンと土壤消毒 (1), 日本園芸雑誌 48 卷5:14-17. [既往の研究の紹介。]
7. 古川賤男: 水溶性クロールピクリンと土壤消毒 (2), 日本園芸雑誌 48 卷6: 5-11. [シクラメン培養土・大和芋のネマトーダに関する成績を含む。]
8. 岩槻信治 (編) : 十月の耕種解説, 農及園 11(10)2517-2525. [小麦穀実線虫病により半作以下となることがある。防除法: 種子の厳選、石灰窒素施用。]
9. 弥富喜三: ズキムシシヘンチュウ (天敵) に就いて, 賤機農報 4卷11:5-7. [形態、生活史、性決定。]
10. 鑛木外岐雄・今村重元: 日光の土壤線虫, In: 日光の植物と動物 (東照宮編), 養賢堂、東京、p.516-533. [東照宮境内より男体、白根山頂にわたる線虫調査。次の37種の形態・計測値を記載。 Alaimus primitivus, A. lemani, Bastiana exilis, Tripyla satifera, Monhystera filiformis, Prismatolaimus dolichulus, Trilobus gracilis, Cephalobus elongatus, C. persegis, Cylindrolaimus communis, Plectus cirr

atus, P. communis, P. geophilus, P. otophorus, Teratocephalus crassidens, Achr  
omadora minima, Mononchus papillatus, Tylenchus intermedius, T. lamelliferus,  
T. leptosoma, T. pratensis, Aphelenchus avenae, Criconema informe, C. komabaen-  
sis, Tylencholaimus minimus, T. nikkoensis, T. kirifuri, T. americanus, Dory-  
laimus carteri, D. centrocercus, C. brigdammensis, D. filiformis, D. monhyst-  
era, D. similis, D. superbus, Actinolaimus surinamensis.]

- 1 1. 近藤頼己：土壤の電氣的消毒法。農及園 11(11)2705-2712。【キュウリのネコブセンチュウに関するデータを含む。】
- 1 2. 古宇田清平：東北地方に於ける畑作の特異性に就て（1）。農及園 11(1)59-65。  
【ネマトーダの被害は東北大豆作への一大打撃と述べる。】
- 1 3. 古宇田清平：東北地方に於ける畑作の特異性に就て（2）。農及園 11(2)557-562。  
【大豆・小豆の線虫の被害大なること、及びその対策を強調。】
- 1 4. 鍛塚喜久治：愛知県に於ける飼料及び肥料による小麦病害の伝播事例に就て。病虫雑 23(3)194-201。【小麦穀実線虫病を含む。】
- 1 5. 三輪勇四郎：珈琲及珈琲樹害虫調査報告（1）珈琲及珈琲樹の害虫と其防除法。台湾総督府中央研究所農業部彙報 126:1-33。【Tylenchus coffeae（=ミナミネグサレセンチュウ）、I. acutocaudatus（Radopholus similis）、Heterodera radiculicola（=ネコブセンチュウ） p.30. 輪作、二硫化炭素による防除。】
- 1 6. 野津六兵衛：故岡田十蔵君を偲ぶ。日植病報 4(3)195-198。【岡田：「ネマトーダ防除法に就て」を第9回中国四国病虫害研究会(1932)において講演。】
- 1 7. 小小木栄治：牛蒡の間引当時に於ける發育の良否と岐根との關係並に岐根發生の原因に就て（2）。農及園 11(2)563-570。【ゴボウの忌地。原因はネマトーダとする。】
- 1 8. 尾崎重夫：農作物害虫精説。朝倉書店、東京、5+18+534+64+18 pp., Pls. 【線虫類 p.275-283. Heterodera marioni（ネコブセンチュウ）、Anguillulina dipsaci（ナミクキセンチュウ）、A. tritici（コムギツブセンチュウ）。防除法：土壤消毒（ホルマリン、二硫化炭素、クロロピクリン、石灰窒素）、種苗の選択、輪作。】
- 1 9. 佐々木三男：豆類病害の検索と防除法。北農 3巻1:13-20。【線虫根瘤病、萎黄病を含む。防除法（輪作、早播、抵抗性品種（大谷地）、多肥、中耕等）。】
- 2 0. 高橋太郎兵衛・津曲彦寿：煙草害虫と益虫益菌調査。専売鹿兒島試報 1:1-138, 58 pls. 【線虫（ネコブセンチュウ） p.99-101, pl.44.】
- 2 1. 高木信一：一線虫の被染色性。応動 8(6)336-339。【染色剤の比較検討。】
- 2 2. Thorne, G. & Swanger, H. H. : A monograph of the nematode genera Dorylaimus Dujardin, Aporcelaimus n.g. and Pungentus n.g. Capita Zool. 6(4) 1-123. 【この論文でDorylaimus japocicus Cobb, in Thorne et Swanger を東京のサクラ根辺土壤中からの標本をもとに新種として記載 p.39-40. No.09-1に関連したサンプルか？本種は後にAndrassyによりOxydirus属に移された (Acta Zool. Sci. Hung 6(1/2)1-28, 1960)。現在はspecies inquirendae とされている (Siddiqi, M. R., Proc. helm. Soc. Wash. 33(2) 139-149, 1966).】
- 2 3. 横尾多美男：土壤線虫Anguillulina dipsaciのnew host及びbiological race. 応動 8(2) 106-109. 【外国文献の紹介。】
- 2 4. 横尾多美男：土壤線虫の話（1）。朝鮮農会報 10 巻 1:69-72. 【概説。生息場所等による分類。】
- 2 5. 横尾多美男：土壤線虫の話（2）。朝鮮農会報 10 巻 2:29-30. 【土壤中からの線虫の分離法、形態。】
- 2 6. 横尾多美男：土壤線虫の話（3）。朝鮮農会報 10 巻 3:9-16. 【昆虫寄生性線虫の

解説。]

27. 横尾多美男：土壤線虫の話（4）。朝鮮農会報 10 卷 4:17-24. [植物寄生性線虫の解説。]
28. 横尾多美男：土壤線虫の話（5）。朝鮮農会報 10 卷 5:13-23. [茎線虫を解説。]
29. 横尾多美男：土壤線虫の話（6）。朝鮮農会報 10 卷 6:11-20. [地上部寄生性線虫を解説。]
30. 横尾多美男：土壤線虫の話（7）。朝鮮農会報 10 卷 7:41-50. [根に寄生する線虫（主にHeterodera属）の解説及び防除法。]
31. 横尾多美男：土壤線虫の話（8）。朝鮮農会報 10 卷 9:22-29. [Anguillulina radicola（ネコブセンチュウ類），Heterodera schachtii（シストセンチュウ類）の解説及び防除法。]
32. 横尾多美男：土壤線虫の話（9）。朝鮮農会報 10 卷11:26-35. [ネグサレセンチュウ、ミカンネセンチュウを解説。]
33. 横尾多美男：土壤線虫の話（10）。朝鮮農会報 10 卷12:25-31. [「植物任意寄生種」を解説。]
34. 横尾多美男：土壤線虫Heterodera schachtii Schmidtの宿主植物と栽培上注意すべき一、二の問題に就て。朝鮮総督府農試彙報 8(2/3)167-174. [宿主のリストおよび輪作の重要性を述べる。]
35. 吉原 操：十字花植物の根瘤病と根線虫の駆除予防方法。園芸之友 32卷6:74-75. [未見]
36. 吉川徹雄：今村重元君を追悼す。応動 8(4)235-236. [明治37年 2月11日-昭和11年 5月26日。]
37. Anon. : 全国病虫害発生状況。農産彙報 36:47. [宮崎県東臼木郡富高町の甘藷・蔬菜に線虫発生（10町歩）。]
38. Anon. : 新害虫の蔓延。病虫雑 23(2)171. [ネコブセンチュウ北海道に発生。]
39. Anon. : 五月の蔬菜園芸作業。農及園 11(5)1366-1374. [ナスの線虫について注意を促す。]
40. Anon. (農林省農務局農産課) : 昭和十年度中に於ける全国病虫害発生状況。病虫雑 23(7)541-546. [線虫：宮崎県。小麦殺実線虫：愛知県。]
41. Anon. (青森農試) : 大豆萎黄病予防試験。昭9業年：163-164. [ホルマリン、クロルピクリン、昇汞水施用。]
42. Anon. (青森農試) : 牛蒡及び胡蘿蔔ノ線虫防除試験。昭9業年:166. [Heterodera marioni。]
43. Anon. (千葉農試) : ネマトーダ駆除試験。昭9業功：251-253. [クロルピクリン、二硫化炭素が効果あり。]
44. Anon. (福岡農試) : 小麦萎縮病防除試験。昭10業年:127-132. [線虫による媒介の可能性を指摘。病虫雑 24(11)868-869, 1937に再録。]
45. Anon. (神奈川農試) : 床土の消毒試験。農事試験成績 63 (前編) :440-442 [謄写。マスクメロンのネマトーダをホルマリン、クロルピクリンを用いて防除。]
46. Anon. (長崎農試) : 小麦品種対胡麻病関係試験。昭9業功：293-294. [4品種の被害程度を調査。]
47. Anon. (岡山農試) : 蕎麥縮病ノ伝播方法ニ関スル試験。昭9業功：後・27. [小麦。線虫による伝播を認めず。]
48. Anon. (埼玉農試) : 根線虫駆除に関する調査。昭9業功：53. [ナス、ニンジンにクロルピクリン、石灰窒素等を施用。]

49. Anon. (埼玉農試) : 大和薯ネマトーダ防除試験, 昭9業功: 56. [クロルピクリン施用.]
50. Anon. (静岡農試) : ズキムシシヘンチュウ (蛭虫糸片虫) の寄生調査, 昭9業報: 148. [寄生率23%. 病虫雑 22(6) 462, 1935に再録.]

昭和12年 (1937)

1. 卜藏梅之丞: 現時日本に於ける農作物病害に関係ある重要な問題に就て, 病虫雑 24(11)933-936. [弥地の原因究明にもふれる.]
2. 藤根吉雄: 北海道に於ける大豆の栽培, 農及園 12(1)523-527. [十勝地方において萎黄病、線虫根瘤病の被害甚。長期輪作が必要。]
3. 原 撰祐: 花卉類の病害と其予防法, 中央園芸 422:361-365. [菊の線虫性葉枯病を含む。]
4. 逸見武雄: 土壤温度及び土壤湿度と伝染性植物疾病との関係 [IV], 農及園 12(10) 2594-2601. [トマトの根瘤線虫における土壤湿度とゴール数の関係をふくむ。Godfrey, G.H., J.Agr.Res. 33, 223-254, 1926の紹介。]
5. 鏑方末彦: 病虫防除相談, 賢文館、東京、3+2+10+318 pp. [小麦の穀実線虫 p. 88. 蔬菜類の根瘤線虫病 p.165-166. クロールピクリン、石灰窒素による土壤消毒、2年輪作を行う。]
6. 石橋律雄: 道府県に於ける植物検査事業, 農及園 12(3) 892-900. [埼玉 (昭和8年度県令第80号植物検査規則) : ネマトーダを含む。]
7. 石渡繁胤: 柞蚕に寄生する糸片虫に就て, 南滿鉄農試研究時報 19:73-85, 1 pl. [形態、寄生時期、寄生歩合。]
8. 中台昭之助: ネマトーダの駆除法に就て, 愛土 291:14-15. [西洋シャクヤク。温湯消毒(110F60分) が効果あり。]
9. 中台昭之助: 「クロールピクリン」瓦斯に依る温床土の消毒法に就て, 愛土 292: 9-11. [線虫記述なし。使用方法を解説。]
10. 高橋: ネマトーダの駆除法に就て, 三重農試業報 121:25-27. [石灰窒素、晒粉、ホルマリン、二硫化炭素。]
11. 高木信一: 金亀子虫に宿る1線虫の幼虫の2型, 応動 9(3/4)135-136. [講要。Rhabditidae の耐久型幼虫。]
12. 高野秀三: 甘蔗に対する昆虫以外の有害動物, In: 台湾農作物病虫害防除要覧 第三編 特用作物の害虫 (殖産局出版第787号), 台湾総督府殖産局、台北、p.183-191. pl. 21, fig. 1-4. [根瘤線虫 p.183-185. 形態、生態、加害植物、分布、天敵(*Mononchus bradyuris*, *Microcera*(菌))、駆除予防法 (田畑輪換、落花生等抵抗性植物の輪作、土の乾燥、有機質肥料多用。)]
13. 武智: これから多い蕃茄の病害と防除法に就て (一), 愛媛農会時報 804: 4-5. [萎凋病、根線虫病 (ホルマリン、イネ科作物との輪作)、黒腐病の解説。]
14. 田中栄次郎: 甘藷の害虫, 日本園芸雑誌 49 卷4:26-27. [茎線虫を含む。]
15. 田中顕三: モザイク病小麦の根, 応動 9(1)53. [検出線虫を図示。]
16. 植原外三: 夏菊の品種と促成栽培法, 農及園 12(1)179-183. [根に寄生する線虫対策: 線虫の棲息しない床土を用いる。]
17. 横尾多美男: 根瘤線虫 *Heterodera marioni* の新寄主植物と朝鮮水原土壤中に於ける土壤線虫 (特に根瘤線虫) の垂直分布及び消長に関する2、3の知見, 応動 9(3/4)107

- 134. [地表下40cm以深には少ない。季節的消長、自活性線虫の生態にも言及。]
18. 横尾多美男：小麦殺実線虫病（胡麻病）の防除法。朝鮮農會報 11卷10:37-49。  
[朝鮮における発生状況、線虫の生活史、防除法（休裁、篩別・塩水選による被害粒の除去。]
19. 横尾多美男：桑苗根瘤線虫 *Heterodera marioni* の温湯浸漬に依る防除に就いて（予報）。朝鮮総督府農試彙報 9(3)425-430, 2 pls. [50°C 20-30分が最も良い。農業研究 8卷3:43, 1938に抄録。]
20. Anon：昭和12年度麦病虫害発生被害状況。農産彙報 54:55-76。[小麦殺実被害面積23.4町歩。]
21. Anon：東海近畿農事試験場長並病虫害主任官會議。農産彙報 55:66-67。[協議題目として静岡県から「根瘤線虫の適切なる防除法を承りたし」を提出。]
22. Anon.：セルリーの根線虫防除法。賤機農報 5卷8:26。[質問応答。ホルマリンによる土壌燻蒸。]
23. Anon.（愛知農試）：各種小麦品種ノ小麦殺実線虫ニ対スル抵抗性比較試験。昭11業功：65 [147品種の中では発病差を認めず。]
24. Anon.（愛知農試）：小麦殺実線虫ノ寄生伝播ニ関スル試験。昭11業功：65-66。[鶏糞による伝播、湛水防除。病虫雑 25(1) 66, 1938に再録。]
25. Anon.（愛知農試）：小麦殺実線虫ト分蘖トノ関係試験。昭11業功：66。  
[小麦の生育ステージと被害の関係。病虫雑25(4)306, 1938に再録。]
26. Anon.（愛知農試）：小麦稈黒穂病同腥黒穂病並小麦殺実線虫ノ生活調査。昭11業功：66。[昭和元年産の線虫により発病。病虫雑 25(1)306, 1938に再録。]
27. Anon.（青森農試）：大豆萎黄病予防試験。昭10業年：131-132。[ホルマリン、クロルピクリン、昇汞。]
28. Anon.（千葉農試）：ネマトーダ駆除試験。昭10業報：325-326。[西洋芍薬根の温湯又は昇汞水浸漬処理。クロルピクリンによる土壌消毒。病虫雑 24(11)833, 1937に再録。]
29. Anon.（高知農試）：大螟虫ノ糸片虫寄生率調査。昭10業功：63。[22頭中18頭に寄生、9頭は既に死亡。]
30. Anon.（長崎農試）：小麦品種対胡麻病関係試験。昭10業功：307-308。[4品種の被害調査。]
31. Anon.（沖縄農試）：ネマトーダに関する試験研究。昭10業功：59-60。[二硫化炭素を試験。]
32. Anon.（埼玉農試）：根線虫駆除に関する調査。昭10業功：56。[黄蜀葵にクロルピクリン、同乳剤、パーミサイド、二硫化炭素、石灰窒素、硫黄華、ハルク、硫酸ニコチン、デリゲンを試験。]
33. Anon.（埼玉農試）：大和薯線虫病駆除試験。昭10業功：59-60。[試験方法のみ。]
34. Anon.（東京府桑苗同業組合）：土壌消毒と原苗処理に依る桑苗の線虫駆除に関する試験報告。同組合、22 pp., 2 tab. [謄写。石灰窒素・二硫化炭素・有機質肥料多量施与試験。二硫化炭素処理が最も効果あり。]

昭和13年 (1938)

1. 藤井健雄：長州風呂を利用したネマトーダ防除の土壌消毒法。實際園芸 24卷4:131-

137. [鹿兒島農試の成績を紹介。ナスの生育、収量を薬剤防除と比較。]
2. 原 拱祐：花卉類の病害と其予防法 (2)。中央園芸 426: 38-41. [ペゴニアの線虫性葉枯病を含む。]
3. 平田栄吉：朝鮮に於ける小麦の胡椒病と其の防除法。朝鮮農会報 12巻1:73-89, 1 pl [腥黒穂病に次いで被害甚大。病名、被害状況、病状、病原 (*Tylenchus tritici*)、病原線虫の生存力 (室内、家畜の飼料・敷糞・堆肥混入時、圃場、病粒の圃場に於ける期間と発病成績)、寄主植物、伝染経路、誘因、品種との関係、防除法 (品種、輪作、無病種子選別：篩選、水選、塩水選、種子消毒：硫酸鉛、硫酸石灰、亜硫酸鉛、ラヴァサイト塗抹)。農業研究 8巻4:42-43, 1938に抄録。]
4. 岩垂 悟：北滿移民地病虫調査。満鉄調査部 66 pp. [大豆線虫を含む。]
5. 岩田健一：線虫根癌病と輪作。北農 5(11) 553-556. [病徴、伝播法、輪作 (被害のない作物、被害の少ない作物、加害されやすい作物をリストアップ)。]
6. 弥富喜三・山田惣一郎：ズヤムシシヘンチュウに関する知見補遺。応動 10(3/4)136-138. [研究史及び天敵としての利用価値を論ずる。教育農芸 7(19)84-85, 1938に抄録。]
7. 鎗木外岐雄：農業上注意を要する土壤線虫病と其の防除法。農業 697:11-22. [線虫類の解説。糸片虫、根に寄生する線虫、莖葉に寄生する線虫、偶然寄生の線虫、防除。]
8. 三宅 勉：台湾農作物病害虫防除要覧 第5編 綿の病害。台湾総督府殖産局出版第812号 2+3+41 pp., 14 pls. [線虫: *Anguillulina pratensis*, *Heterodera marioni* p.22-23.]
9. 小此木栄治：葉菜類栽培の実際 (経済農業叢書 13)。養賢堂、東京、2+2+5+384 pp [ホウレンソウ(p.241), セルリー (p.320, 340) のネマトーダ。石灰窒素の使用法。]
10. 篤海文彦：纖維作物精説。朝倉書店、東京、2+12+277+10 pp. [線虫 (*Heterodera radicicola* =ネコブセンチュウ), アマ p.92, 黄麻 p.136.]
11. Rahm, P. G. : Freilebende und saprophytische Nematoden der Insel Hainan (Mit besonderen Brucksichtigung der bekannt geworden Nematoden Nord-Chinas und Japans). Annot. Zool. Japon. 17(3/4)646-667. [中国海南島の土壤線虫相の研究。6新種を含む35種を記載。このうち *Tripyla asiatica* (新種) は兵庫県六甲山からも記録。本種は現在 *species inquirenada* とされている (Brezesky, M.W., Ann. Zool. Polska Acad. Nauk 22: 157-178, 1964)。]
12. 高橋太郎兵衛・津曲彦寿：日本煙草害虫篇。専売協会、東京、3+5+131 pp., 51 pl [線虫 p.99-101, pl. 44.]
13. 滝元清透：胡瓜及びメロンの病害と防除法。実際園芸 24(4)554-557. [線虫病を含む。]
14. 田杉平治：播種期及び冬期迄に防除すべき小麦の病害。農業 695:38-49. [粒線虫病：病徴、伝染経路、防除法。]
15. 植原外三 (編)：四月の花卉栽培行事。農及園 13(4) 1107-1112. [シクラメン、金魚草、プリムラ類、芍薬等の線虫と防除法。]
16. 横尾多美男：朝鮮に於ける小麦殺実線虫病に関する2、3の知見。応動 10(3/4) 158-165. [症状、生活史、防除法 (休閑、種子篩選、塩水選、抵抗性品種利用)。]
17. 横尾多美男：朝鮮水原に於ける土壤線虫の垂直分布及び季節的消長に就いて。朝鮮総督府農試彙報 9(4) 493-502. [竜舌菜畑の根瘤線虫。垂直分布は地温より土壤含水量の影響が大。]
18. Anon. (愛知農試)：小麦品種ノ小麦殺実線虫ニ対スル抵抗性比較試験。昭12業功: 68. [261品種中7品種はやや抵抗性。]
19. Anon. (愛知農試)：小麦殺実線虫ノ寄主体侵入ノ時期並温度ニ関スル試験。

- 昭12業功: 69. [播種時に線虫接種は発病、発芽時接種はほとんど発病なし。]
20. Anon. (愛知農試): 小麦殺実線虫防除ニ関スル試験. 昭12業功: 69. [線虫汚染鶏糞の発酵処理。]
21. Anon. (愛知農試): 小麦腥黒穂病、同稈黒穂病及び小麦殺実線虫ノ生活調査. 昭12業功: 69. [昭和3年産の被害粒では発病せず。本線虫関係の成績は病虫雑 26 (4) 286, 1939 に再録。]
22. Anon. (青森農試): 大豆萎黄病予防試験. 昭11業年: 110-111. [ホルマリン、クロルピクリン、昇水施用。]
23. Anon. (千葉農試): ネマトーダ防除試験. 昭11業報: 307. [西洋芍薬温湯処理。土壌のクロルピクリン処理。]
24. Anon. (神奈川農試): 線虫防除試験. 農事試験成績 72: 76-77. [クロルピクリン、二硫化炭素、生石灰等による殺虫試験。]
25. Anon. (長崎農試): 胡麻病ト品種トノ関係試験. 昭11業功: 196-197. [5品種の被害調査。]
26. Anon. (埼玉農試): 根線虫駆除に関する試験. 昭11業功: 54. [クロルピクリン。]
27. Anon. (埼玉農試): 大和薯ネマトーダ防除試験. 昭11業功: 56. [概要のみ。結果を含まず。]
28. Anon. (静岡農試): ズキムシシヘンチュウに関する調査. 昭11業功: 120. [寄生率0-4. 7%。]

#### 昭和14年 (1939)

1. 澄谷大節: 青森県に於ける馬鈴薯線虫病の一観察. 病虫雑 26(1) 64-67. [Heterodera marioniに最も近似。]
2. 福井玉夫・井上 巖: 日本産線虫類の研究 I. 研究の歴史. 植及動 7(1) 44-46. [主に外国における研究史。]
3. 日野 巖: 忌地病原論. 教育農芸と作業 6(11) 1270-1277. [Heterodera属線虫による甜菜、馬鈴薯の忌地に言及。]
4. 平田栄吉: 朝鮮に於ける小麦の胡椒病と其の防除法 (1). 病虫雑 26(9) 636-644. [被害、病状、病原、線虫の生存力。]
5. 平田栄吉: 朝鮮に於ける小麦の胡椒病と其の防除法 (2). 病虫雑 26(10) 709-718. [寄主植物. 伝染経路、誘引、小麦品種の比較、防除法。]
6. 穂坂八郎: 花卉園芸. 西ヶ原刊行会、東京、8+435 pp. [線虫 p.320-322。]
7. 石川正示: 「線虫」に免疫なる大豆品種の育成. 病虫害時報 1巻5: 10. [未見]
8. 弥富喜三: 寄生虫と寄生率との類量的関係. 応動 11(3/4) 102-105. [ズイムシアカタマゴバチ、ズイムシシヘンチュウ、Tricogramma dendroliniについて論ずる。]
9. 古宇田清平: 主要畑作物の栽培 [7]. 農及園 14(7) 1819-1926. [大豆萎黄病の病原線虫の解説。当時知られていた防除法を記す。]
10. 鍛塚喜久治: 小麦粒線虫病の伝播経路と鶏糞の処理法. 農業 707: 5-14. [鶏糞の発酵処理等。]
11. 鍛塚喜久治: 小麦粒線虫病と輸入飼料及鶏糞の処理法. 農芸 (安城農芸研究会) 190: 17-21. [被害、伝播経路、滴支方面よりの飼料用屑小麦輸入状況並に其の混淆物、防除に関する試験 (混入鶏糞の処理法、鶏糞の堆肥発酵)。]

- 1 2. 前田：県下に於ける作物の病害に就て(二)．三重農試彙報 145: 15-18. [麦の線虫病。志摩郡波切町付近に被害が多い。]
- 1 3. 武笠耕三：甜菜受入所集積土壌による線虫の伝播。北農 6(10) 462-463. [各地の受入所の土壌中の根腐線虫密度を推定。]
- 1 4. 村田寿太郎：菊の病虫害防除。新農薬 4: 70-74. [線虫性葉枯病の病徴、防除法(被害葉焼却、焼土)。農業研究10巻1:52, 1940に抄録。]
- 1 5. 中田覚五郎・明日山秀文：満州国主要作物病害調査報告。満州国産業部資料 32: 166 pp. [小麦粒線虫 p.21-22. 大豆萎黄病 p.62-63.]
- 1 6. 野々村増男：胡瓜の促成栽培と其の経済的研究 [2]。農及園 14(9) 2165-2173. [「灌漑以外に完全なる線虫駆除法は無いように思われる」]
- 1 7. 野津六兵衛：線虫生活史の概要並に有機物との関係。研習 346: 2-15. [生活史、有機物と幼虫の生存期間・寄生・繁殖について試験。島根農試77年記念報 No.5, 25-26 1953に抄録。]
- 1 8. 龍江省立農事試験場長：龍江省立農事試験場病虫害発生状況調査報告。病虫害時報 1巻 4: 12-13. [大豆のネマトーダ被害大。]
- 1 9. 高野秀三・柳原政之：甘蔗の害益虫並に有害動物に関する調査研究。台湾総督府糖業試報 2, 2+2+13+311+20 pp, 18 pls. [線虫 p.281-283, pl. 6, fig.6 A-B. 形態、分布、経過習性、天敵、防除法(2-4ヵ月の湛水、輪作、早期収穫、有機質多用)。]
- 2 0. 竹内 鼎：五月の蔬菜園芸作業。農及園 14(5) 1357-1369. [ナスのネマトーダ対策：輪作年限の休閑を多くする。]
- 2 1. 滝元清透：花卉及温室作物の病害。養賢堂、東京、1+7+166 pp., 2 tabs. [菊の葉枯線虫病 p.51-52, ケイトウの根線虫 p. 57, グロキシニアの葉枯線虫病 p. 62。]
- 2 2. 富樫浩吾：旅で会ふた学者の横顔(3)。日植病報 9(4) 236-242. [H.W.Wollenweber(ジャガイモシストセンチュウの命名者)の紹介を含む。]
- 2 3. 植原外三：菊の切り花促成栽培。農及園 14(6) 1557-1564. [床土として線虫の棲息しない土を用いる。]
- 2 4. 山田惣一郎：主要農業薬剤に就いて。賤機農報 7巻2: 12-14. [本シリーズ第7報。燻蒸剤(二硫化炭素、クロロピクリン)を解説。]
- 2 5. 横尾多美男：朝鮮に於ける秋播小麦の殺実線虫病(胡椒病)に関する研究(1)。朝鮮総督府農試彙報 10(4) 275-296. [出穂期の違いと線虫の関係。]
- 2 6. 横尾多美男：朝鮮に於ける小麦の殺実線虫病に関する知見 II. 被害粒の穂に於ける着生部位と被害率算定法に就いて。応動 11(5) 177-188. [線虫の生活史、被害小麦の概要。穂の中央部及び下部に多く着生。小穂花の分化の順序と一致。]
- 2 7. Anon. : 全国病虫害発生状況。農産彙報 69: 45. [愛知県の小麦殺実線虫病発生面積 600町歩。]
- 2 8. Anon. : 昭和14年度麦病虫害発生被害状況。農産彙報 70: 73-88. [小麦殺実線虫病の被害面積、減損率(0.8%)。]
- 2 9. Anon. : 発生報告。病虫害時報 1巻 1: 11-14. [満州国内に於ける病虫害発生状況：タバコのネマトーダ(義県)。]
- 3 0. Anon. (朝鮮黄海道農試)：小麦播種期対胡椒病発生関係試験。昭13事業報：183-184. [謄写。10月5日播種が最も多く発病。]
- 3 1. Anon. (朝鮮黄海道農試)：小麦胡椒病ニ対スル薬剤処理試験。昭13事業報：183-184. [謄写。亜砒酸鉛、砒酸鉛種子粉衣(葉害あり)。デリス石鹼、カンコウ、硫酸ニコチン等は効果なし。]
- 3 2. Anon. (満州国産業部)：満州病虫害防除要覧。産業部資料 44: 1+9+440 pp.

- 22 pls. [大豆萎病 p.170-171 (防除法: 5~6年休裁、早期播種、多肥、農機具等の清掃、クロルピクリン)。]
33. Anon. (奈良県経済部): 主要農用薬剤便覧, 病虫雑 26(10) 758-769. [クロルピクリン、二硫化炭素の土壤用法を含む。]
34. Anon. (大分農試): 浮塵子の天敵に関する調査, 病虫雑 26(12) 900-903. [ヒメトビウンカにつくウンカシヘンチュウを含む。]
35. Anon. (埼玉農試): 根線虫駆除に関する試験, 昭12業功: 52. [クロルピクリン他。]
36. Anon. (埼玉農試): 大和薯ネマトーダ防除試験, 昭12業功: 54-55. [概要のみ。]
37. Anon. (静岡農試): ズキムシシヘンチュウに関する試験, 昭12業報: 137-138. [ニカメイチュウ幼虫に対する寄生率: 1化期 0%、2化期 24.8-79.1%。]

### 昭和15年 (1940)

1. 遠藤 茂: 庭木と草花の病害, 明文堂、東京、3+12+386 pp. [菊の線虫葉枯病 p.196-198, 百日草の角斑病 p.213-215, ベゴニアの線虫葉枯病 p. 247-249。]
2. 遠藤 卓: 徴による土壤内線虫の捕殺, 科学 10(7) 256-259. [線虫捕食菌の捕食器官を解説。]
3. 福井玉夫・井上 巖: Ueber eine neue Parachordodes-Art aus der Mandschurei. Annot. Zool. Japon. 19(2) 89-91. [満州から *P. orientalis* (新種) を記載。]
4. 福井玉夫・井上 巖: 日本産「ハリガネムシ」類ノ研究(概報), 日本寄生虫学会記事 12: 37. [講要。生活史、行動。]
5. 春川忠吉・徳永雅明: 黄條蚤葉虫の寄生虫に就いて, 応動 12(3/4) 157-158. [糸片虫を含む。]
6. 井上 巖: カマキリより得たるハリガネムシ *Chordodes* sp. に関する生態的研究(予報), 植及動 8(9) 1445-1454. [行動、生活史、卵の発生。]
7. 石山哲爾・土山哲夫: [No.41-3 を参照。]
8. 岩崎安忠・筒井茂実: 北満に於ける蔬菜栽培法(開拓農業叢書), 満州事情案内所、新京、1+3+9+233 pp., 2 pls. [線虫 p. 106(トマト), p. 160(ナガイモ)。]
9. 弥富喜三: 麦の害虫, 賤機農報 8巻11: 65-68. [茎線虫を含む。農業研究11巻1: 54, 1941に抄録。]
10. 牧 高治: 甘蔗を害する線虫類の防除に就いて, 蔗作改良座談会講演集: 79. [未見]
11. 武笠耕三: 温室及び温床の線虫根瘤病防除法, 北農 7(5) 183-189. [症状、被害植物、防除法(土壤: 熱・薬剤(クロルピクリン)・陽光処理、被害株の除去。)]
12. 武笠耕三: 線虫根瘤病の防除法について, 園芸(北海道) 32 巻 5: 7-17. [病徴、寄主植物、輪作、土壤消毒。]
13. 武笠耕三・岩田健一: 根瘤線虫 *Heterodera marioni* 及び大豆萎黄病線虫 *H. schachtii* の熱処理に関する調査, 札幌農林学会報 31(153) 375-376. [講要]
14. 野津六兵衛: 土壤粒子と桑線虫との関係, 研習 358: 2-17. [線虫の垂直・水平移動距離、寄生、繁殖。島根農試77年記念報 No. 5, 26, 1953に抄録。]
15. 野津六兵衛: 桑線虫防除に関する試験, 島根蚕試特報, 5+95 pp., 19 pls., 6+3 tabs. [桑線虫の形態(卵、幼虫、成虫)、卵(卵期間、孵化)、幼虫(生存期間、寄

- 生状況、土壤粒子と移動・寄生)、土壤有機物と桑線虫との関係(土壤有機物と幼虫の生存・寄生・繁殖・被害)、虫塚の形成、成虫(産卵、生存期間)、生活史(発生回数、各態の期間、越冬状況)、桑の生育に及ぼす影響、防除試験(土壤消毒、土地整調、栽培法、抵抗性桑品種)。一部の図表を除き病虫害雑誌の次の号に再録: 27(7) 529-536, (8) 601-608, (9) 671-678, (10) 739-748, (11) 801-807, (12)口絵、904-906, 28(1)78-81, (2)149-155, (3) 219-226, (4) 294-303, (5) 382-387, (7) 546-549, 1940, 1941. 島根農試77年記念報 No. 5、26-27, 1953に抄録(水戸野)。試験地付近の桑園からはアレナリアネコブセンチュウが検出されると云う(No. 78-178, 特に p. 378)。]
16. 小此木栄治: 埼玉県に於ける胡蘿蔔の栽培 [1]. 農及園 15(1) 115-121. [「ネマトーダの害を受け易き土地はなるべく之を避くる」]
17. 横尾多美男: 根瘤線虫 *Heterodera marioni* の新寄主植物: 朝鮮人参と従来報告されたる主要宿主植物とについて. 朝鮮総督府農試彙報 11(4) 255-268, 2 pls. [文献のまとめ。]
18. 横尾多美男: 朝鮮に於ける小麦穀実線虫病に関する知見 (III) 収穫時脱落虫塚内の幼虫の寄生能力に対する環境抵抗と土壤中に於ける幼虫の垂直的上昇能力に就いて. 応動 11(6) 207-217. [罹病率と降水量は無関係。地表下40cmに埋めた被害穀実からも線虫遊出、健全小麦に寄生。農業研究 10(5) 527, 1940に抄録。]
19. 横尾多美男: 朝鮮に於ける小麦穀実線虫病に関する知見 (IV) 播種期の移動による罹病性の変異に就いて. 応動 12(1) 1-12. [播種期が遅くなるほど被害は大。農業研究 10(6) 639, 1940に抄録。]
20. 横尾多美男: 東亜に於ける小麦穀実線虫病の分布と発生防止に関する知見 (1). 農及園 15(7) 1468-1472. [病原線虫、症状、生態、分布。]
21. 横尾多美男: 東亜に於ける小麦穀実線虫病の分布と発生防止に関する知見 (2). 農及園 15(8) 1670-1675. [伝播経路と対策、抵抗性品種。]
22. Anon.: 恐るべき線虫根瘤病の甚大な被害. 病虫雑 27(1) 90. [北海道の甜菜に大発生。]
23. Anon. (愛知農試): 小麦粒線虫病二対スル小麦品種ノ抵抗性比較試験. 昭 13業功: 61. [170品種を試験。若干が抵抗性。病虫雑 27(9) 646, 1940に再録。]
24. Anon. (愛知農試): 小麦粒線虫病防除法ニ関スル試験. 昭 13業功: 61. [堆肥発酵7日間で殆ど完全。ホルマリン処理も相当の効果。病虫雑 27(7) 493-497, 1940に再録。]
25. Anon. (三重農試): 温床の害虫. 三重農試彙報 154: 10. [ネマトーダ(ネコブセンチュウ)を解説。]
26. Anon. (宮城農試): 重要害虫ノ分布調査. 昭 11業功: 185. [土壤線虫 *Heterodera schachtii*: 全県下の畑作物に多。]
27. Anon. (埼玉農試): 根線虫駆除に関する試験. 昭 13業功: 62-63. [クロルピクリン。]
28. Anon. (埼玉農試): 大和薯ネマトーダ防除試験. 昭 13業功: 64-68. [種薯の温湯浸漬、クロルピクリンによる土壤消毒。]
29. Anon. (静岡農試): 「ズキムシシヘンチュウ」の分布調査. 昭 13業報: 224. [沼津市(寄生率66.1%)、蒲原町(5.9%)、神奈川県(0.9%)、その他(秋田~長崎0%)。]
30. Anon. (静岡農試): 一寄主に対する糸片虫の寄生頭数と性別. 昭 13業報: 225-226. [多寄生を行う事もある。その場合は糸片虫の大部分は雄。]

31. Anon. (静岡農試) : 「ズキムシシヘンチュウ」の放飼試験. 昭13業報 : 226. [ポットでは寄生、本田では寄生せず。]
32. Anon. (名古屋税関) : 養鶏飼料として輸入せらるる層小麦の病菌害虫に関する調査 (昭和14年10月). 病虫雑 27(6) 460-464. [中華民国産小麦の小麦粒線虫病罹病率調査 : 重量比で10%内外。]

昭和16年 (1941)

1. 平根誠一・東 元樹 : 煙草の線虫病に就て. 台湾専売局煙草研究資料 6: [未見]
2. 堀 正太郎 : 萎黄性の病害予防並に堆肥の卓効 (承前). 病虫雑 28(10) 704-711. [桑の線虫 (No. 40-15を引用)、大豆の線虫病に対する効果の解説を含む。]
3. 石山哲爾・土山哲夫 : 北滿農作物病虫害図説 (農事指導資料一号). 満州国立哈爾濱農試、哈爾濱、3+4+190 pp., 30 pls. [大豆萎黄病 p. 86-88, pl. 12. 発行年は奥付による。表紙では康德6年2月 (1940)。]
4. 岩垂 悟 : 青年満州国よ理想を持て. 病虫害時報 3巻 3: 2-3. [小麦粒線虫病は国外から来ると述べる。]
5. 岩田健一 : 輪作による大豆萎黄病防除の基礎調査. 農及園 16(3) 429-435. [大豆・小豆・菜豆・花豆以外の作物による5・6年の輪作で根絶。]
6. 岩槻信治 (編) : 四月の耕種作業. 農及園 16(4) 749-755. [小麦殺実線虫病の鑑別を含む。]
7. 武笠耕三 : 輪作による線虫根瘤病防除. 北農 8(5) 185-190. [鉢及び框試験結果. No. 41-18を参照。]
8. 村越信夫 : 満州大豆増産のために線虫研究所設立の急務. 病虫害時報 3巻2: 2. [北満の大豆に線虫の被害の著しいことから、研究所の設立を提唱。著者は克山農試場長。]
9. 野津六兵衛 : [No. 40-15を参照。]
10. 高木信一 : Studies on a nematode parasitic of the common beetle, *Anomala testaceipes*. J. Coll. Agr., Tokyo Imp. Univ. 15(1) 1-11. [新属新種 *Pseudodiplogaster nasuensis* を記載。卵発生及び生態を含む。現在はgenus inquirenda とされている (Andrassy, I., Evolution as a basis for the systematization of nematodes. Pitmann, London, 1976, p. 231).]
11. 田中一郎・内田重義 : 水稻異常生育に就て. 病虫雑 28(3) 193-200. [沿革と分布 (北海道内)、異常生育と被害稲・栽培法・土壤肥料との関係、原因 (*Anguillulina* 属を茎・稲内側・玄米表面に発見。横尾多美男が同定。)]
12. 田中 稔 : 作物並に品種の選択. 農及園 16(6) 1067-1072. [十勝地方の大豆の線虫被害甚だしい。]
13. 山口満太郎 : 土壤消毒に就て. 新農薬 10: 70-71. [線虫記述なし。物理的方法、化学的方法を概説。]
14. Anon. : [根瘤線虫につき寄生の範囲、伝播・防除等御教示を乞ふ] 答. 教育農芸 10(1) 111.
15. Anon. : 千葉県に於ける甘藷ネマトーダの被害. 病虫雑 28(5) 387. [減収率別圃場面積。]
16. Anon. : 線虫根瘤病の新薬除法. 病虫雑 28(7) 550. [No. 41-18を紹介。]
17. Anon. : 立ノ穂の正体は線虫. 病虫雑 28(10) 774. [No. 41-11を紹介。]
18. Anon. (北海道農試) : 輪作による根線虫根瘤病防除. 同農試時報 147: 10-

15. [3~5年輪作試験結果。No41-7に紹介記事。]
19. Anon. (北海道農試) : 大豆萎黄病と輪作との関係試験成績。昭14業務概要後編:155-158. [3年輪作では不十分、4年ではやや線虫残存、5年以上で根絶。]
20. Anon. (愛知農試) : 小麦粒線虫病防除鶏糞処理法ニ関スル試験。昭14業功:41. [5日発酵で完全に発病を予防。病虫雑28(9) 671-672,1841に再録。]
21. Anon. (愛知農試) : 小麦粒線虫病ニ対スル小麦品種ノ抵抗力試験。昭14業功:41. [概要のみ。]
22. Anon. (愛知農試) : 小麦粒線虫病防除ニ関スル試験。昭15業功:37. [線虫混入鶏糞の発酵処理。]
23. Anon. (愛知農試) : 小麦粒線虫病病原ノ休眠幼虫ノ生活力並ニ抵抗力ニ関スル試験。昭15業功:38. [生存年限、熱処理。病虫雑 30(8) 262, 1943に再録。]
24. Anon. (愛知農試) : 輸入飼料屑小麦ノ病原伝播ニ関スル試験。昭15業功:38. [線虫寄生を多数認める。病虫雑 30(8) 262-263, 1943に再録。]
25. Anon. (埼玉農試) : 根線虫駆除に関する試験。昭14業功: 58-58ノ1. [ニンジンにクロルピクリン施用。]
26. Anon. (埼玉農試) : 大和薯ネマトーダ防除試験。昭14業功: 58ノ2-4. [種薯の温湯浸漬、土壌のクロルピクリン処理。]
27. Anon. (静岡農試) : 「ズキムシシヘンチュウ」の分布調査。昭14業報: 210-212. [岡山市を追加。静岡県内では散発的。]
28. Anon. (静岡農試) : 「ズキムシシヘンチュウ」の放飼試験。昭14業報: 212-213. [本田で5.1%の寄生率。]
29. Anon. (静岡農試) : 「ズキムシシヘンチュウ」の経過習性。昭14業報: 213-214. [産卵期、産卵数、寄生時期、寄生数、寄主調査(アワノメイガを追加)。]

### 昭和17年 (1942)

1. 浅見與七他: 座談会「作物品種の耐虫性に就て」。農及園 17(9) 1200-1202. [甘藷のネマトーダ抵抗性の品種間差異につき発言(小野田正利・後藤 勉)。]
2. 深井勝海: 養鶏飼料として輸入せらるる屑小麦中に混在する殺虫線虫の消毒並に之が生死鑑別。農林省農事改良資料 158(下) 117. [未見]
3. 後藤和夫: 甘藷線虫病。日植病報 11(4) 204-207. [分布、病徴、病原(*Heterodera radiculicola*)、抵抗性品種、土質、防除。農業研究 12(8) 781, 1942に抄録。]
4. 印東弘玄: 東京ニテ発見シタル *Arthrobotrys oligospora* Fresenius ニ就テ。植物研究雑誌 19(11) 645-652. [線虫を捕捉した菌を図示。]
5. 石川正示: 市県旗別大豆根瘤着生状況及大豆線虫寄生状況調査成績(第1報)。満州公主嶺農試研究時報 39: 77-84. [調査した13省の内7省で検出。]
6. 田杉平司: 石山信一先生(明治21年-昭和16年)。日植病報 11(4) 159-161. [大正6年頃粟の線虫病を研究(未発表?)。]
7. 柄内吉彦: 改訂増補植物病理学通論。誠文堂新光社、東京、7+23+480+14 pp. [線虫病(*Heterodera marioni*, *H. Schachtii*, *Tylenchus tritici*, *T. dipsaci*, *Aphelenchus fragariae*, *A. Ritzema-Bosi*, *A. olesistus*, *A. cocophilus*) p. 120-134, 378. 土壌病予防法 p. 424-434.]
8. Anon. : 黄麻の研究 附。仏領印度支那に於ける黄麻。南洋資料(南洋経済研究所、東京) No.9, 45 pp. [黄麻根腐病(*Heterodera radiculicola*) p.13-14.]

9. Anon. (満州農試編) : 満州病虫害要覧. 満州事情案内所、新京、2+9+442 pp., 27 pls. [1939年版の増補. 大豆萎黄病 p. 175-176.]
10. Anon. (北海道農試) : 線虫根瘤病と輪作との関係試験成績. 昭15業務概要 : 215-218. [No. 41-18を参照.]
11. Anon. (静岡農試) : 天敵放飼に依る環境抵抗の人為的増強 (2) ズキムシシヘンチュウ放飼試験. 昭15業報 : 41-42. [ポットでは高寄生率、圃場では僅少.]
12. Anon. (静岡農試) : ズキムシシヘンチュウの経過習性. 昭15業報 : 42-43 [寄生時期、寄生率、寄生頭数、性比.]

### 昭和18年 (1943)

1. 後藤和夫 : 甘藷の黒斑、根腐、蔓割及び線虫病. 農業 749: 48-59. [線虫病 : 病徴、病原 (*Heterodera marioni*)、防除 (抵抗性品種、輪作等)。満州の農業 15巻4 に抄録あるいは再録 (未見).]
2. 池内真吾 : 柞蚕に寄生する糸片虫に関する研究. 満州農学会誌 4(3/4) 495-511. [満州内の分布、病徴、寄生時期、寄主に及ぼす影響、寄生経過.]
3. 石川正示 : 市県旗別大豆根瘤着生状況及大豆線虫寄生状況調査成績 (第2報). 満州公主嶺農試研究時報 42: 163-169. [検出地を地図で示す。「龍江省は最もその蔓延が著しい」]
4. 石川正示・末延武留・高原光隆 : 作物学的見地よりせる大豆線虫に関する研究 第1報 連輪作と線虫被害竝に線虫抵抗性の品種間差異に関する知見. 満州公主嶺農試研究時報 40: 91-100. [38品種の連輪作による収量の推移と被害状況。3年輪作では被害なし。3年連作で全滅あるいはそれに近い被害。農業研究 14(3) 169, 1944に抄録.]
5. 岩垂 悟 : 満州国に於ける農作物病害試験研究の概要. 札幌農林学会報 36(1)52-83. [線虫を含む。]
6. 岩垂 悟・佐々木三男・内藤仲人 : 満州国農作物病害目録 (予報). 満州農学会誌 5(1) 119-151. [小麦粒線虫病、大豆萎黄病を含む。]
7. 岩垂 悟・佐々木三男・内藤仲人 : 満州国農作物病害目録. 満州国立農試報 40: 233 pp. [大豆萎黄病 p. 47-49.]
8. 河村栄吉 : 病害防除の理論と実際. 中央農業会、東京、3+281 pp. [小麦の粒線虫病 p.180-185、甘藷の線虫病 p.220-222.]
9. 松本 魏 : 植物病理学に於ける最近の進歩 [8]. 農及園 18(8) 827-830. [苗圃の消毒 : クロロピクリン、二硫化炭素、二塩化エチレン。]
10. 松下真幸 : 森林害虫学. 富山房、東京、2+2+11+410+10 pp., 1 pl. [線虫類 p.407-410. 主にNo. 32-22を引用.]
11. 森下 薫 : 線形動物. In: 系統動物学 第1巻 (大島・岡田編)、養賢堂、東京、p. 817-872. [形態、生態等を分類群毎に解説。植物寄生性線虫を含む。]
12. 中村寿夫 : 大東亜に於ける煙草病害. 農及園 18(11) 1153-1157. [線虫病 *Caconema radicicola* (ネコブセンチュウ) : 内地では、九州の一部、静岡県見付付近を除き著しい被害なし。]
13. 滝元清透 : 水田葉先の枯死する病害について. 病虫雑 30(4) 113-117. [White tip に似るか、水分不足による生理障害と結論。]
14. 田中彰一 : 糸瓜の病害 (1). 病虫雑 30(6) 194-198. [根線虫病 *Heterodera radicicola* (ネコブセンチュウ類) をあげる。]

15. 田中彰一：糸瓜の病害(2). 病虫雑 30(7) 217-221. [ネコブセンチュウの寄生を受けやすいが、被害は少ない。]
16. 富樫浩吾・川村正三・八木三郎：岩手県に於ける栽培植物病害の基礎調査 第2報 昭和17年度. 岩手農試彙報 10: 5+47 pp. [大麦の線虫病(コムギツブセンチュウ)：気仙郡猪川村 80-100%感染が5反, p.5.]
17. 山口 左伸：Saitenwuerner in Japan. I. Paragordionus kawamurai n. sp. 日本生物地理学会報 13(10) 65-68. [Ontake(御岳?)から新種のハリガネムシを記載。]
18. [満州国] 興農部(編)：満州営農改善指導要領. 満州事情案内所、新京、1+9+258 pp., 3 tabs., 1 map. [大豆線虫 p. 83-84, 98. 防除法:5年輪作、多肥、抵抗性品種(黒大豆)利用。]
19. Anon. (愛知農試)：小麦粒線虫病原ノ熱処理ニ関スル試験・調査. 昭16業功：39. [乾熱65°C30分処理、乾熱95°C30分以上で発病を認めず。病虫雑 30(8) 262、(9) 285-286, 1943に再録。]
20. Anon. (愛知農試)：輸入屑小麦ノ病原性ニ関スル調査(二年目). 昭16業功：39. [昭和14、15年度輸入小麦の発病を調査。病虫雑 30(9) 286, 1943に再録。]
21. Anon. (愛知農試)：小麦線虫病予防鶏糞処理及萎黄病防除ニ関スル試験. 昭17業功：38. [謄写。線虫に対しては石灰窒素の効果は劣り、加水発酵区は発病を認めず。]
22. Anon. (愛知農試)：小麦線虫病及腥黒穂病ノ生活力調査. 昭17業功：38. [謄写。昭和13・14年度以前は発病せず。]
23. Anon. (専売局鹿兒島試験場)：線虫病調査. 業績概要 自昭9至昭16：63-64. [早植、早収、土寄回数増加、ホリマリンの土壌処理が線虫被害軽減。]
24. Anon. (専売局水戸試験場)：病虫害の駆除予防に関する試験. 業務概要 自昭5至昭16：13-17. [土壌消毒、根線虫：病徴、生活史、致死温度、土壌中の分布、pHとの関係。]

#### 昭和19年 (1944)

1. 後藤和夫：甘藷線虫病. 日本蕪類統制株式会社報 11: [未見。No. 42-3の抄録か?]
2. 帆足準之助：北支に於ける土壌線虫に因る甘藷の新病害. 農及園 19(6) 607-608. [No.44-4を参照。]
3. 池内真吾：柞蚕に寄生する糸片虫に関する観察(主として寄主体内に於ける発育状況に就いて). 応動 15(1-4) 156-159. [講要]
4. 石谷福信・帆足準之助：土壌線虫(Aphelenchoides n.sp.)による甘藷新病害に就て. 華北農業 6: 95-104. [分布及び被害状況、病原線虫、病徴、伝染経路と防除対策、生活史、生態、寄主植物。新種としての記載は含まず。]
5. 野島友雄：北支に於ける小麦の黒穂病及穀実線虫病に就て. 華北農業 6: 81-87. [殺実線虫病：河北省・江蘇省に発生。]
6. 織田富士夫・滝元清透：蔬菜病虫害. 明文堂、東京、312 pp. [根線虫病：ニンジン p. 79-80, 瓜類 p. 106.]
7. 大石俊雄：蔬菜の害虫防除法. 泰文堂、東京、11+176 pp., 1 pl. [根線虫 p. 112-116. 被害植物、無感染植物、被害徴候、形態、経過習性、駆除予防法。]
8. 田中一郎・成田武四：北方の農作物病害. 北方文化出版社、東京・札幌、2+2+163 pp [大豆萎黄病 p.10, 13, 56, 90-93. 大豆線虫根瘤病 p. 93. 小豆根線虫病 p. 95. 甜

- 菜線虫根瘤病 p.134-135、除虫菊線虫根瘤病 p. 139.ルーサン線虫根瘤病 p. 143.]
9. 内田重義：北方農作物の栽培，北方文化出版社、東京・札幌、2+1+14+403 pp. [豆類病害綜合防除曆例（十勝地方標準）の中に大豆・小豆・菜豆萎黄病、根瘤線虫病（同前及び豌豆）、をあげる p. 225-230. 甜菜・除虫菊の項でも線虫を害虫として解説。]
10. 横尾多美男：小麦穀実線虫に関する調査研究，朝鮮総督府農試研報 21: 1-96, 9 pls. [研究史、形態、分布、加害状況（小麦の生育、虫嚢の形成、被害率、性比）、寄主植物、生態（生存年数、致死温度、移動距離、土壌における生存、幼虫の虫嚢からの脱出、産卵、性の分化）、小麦の罹病性（小麦の播種期、播種法、品種の比較）、伝播経路と防除対策（種子の篩別、比重選、薬剤粉衣等）。]
11. 吉井 甫：稲の線虫心枯病（予報），農及園 19(11) 981-982. [発生時期、病徴、原因（*Aphelenchoides*属線虫。横尾多美男が同定）、防除（種籾の更新、種苗の温湯冷水浸、苗代の管理）。]
12. 湯浅啓温：甘藷根瘤線虫，農及園 19(12) 表紙写真。 [病徴]

### 昭和20年 (1945)

1. 逸見武雄：ヒルマの植物病害及び菌類とその研究 [1]，農及園 20(1) 29-32. [稲のUfraの病原として*Tylenchus angustus*(=*Ditylenchus angustus*)を紹介。]
2. 鍛塚喜久治：食糧作物の病害防除，富民協会、東京、86 pp. [小麦の粒線虫病 p. 56-57.]

### 昭和21年 (1946)

1. 河合一郎：東北地方に於ける病害防除技術の回顧と展望，農業技術 1巻4: 15-21. [大豆萎黄病を含む。]
2. 河合一郎：6月の農作物病害防除作業，農及園 21(6) 272-274. [甘藷の耐線虫性品種にふれる。]
3. 松本 巍：Tabacco disease in Formosa. 台北大農研報 1(1) 1-26, 11 pls. [線虫を含む。未見。]
4. 村田寿太郎：ネマトーダの駆除，農及園 21(3) 122. [ネコブセンチュウ。輪作及びクロルピクリンによる土壤消毒。]
5. 小野田正利：甘藷新品種の特性 [1]，農及園 21(6) 235-238. [線虫抵抗性程度：農林1、2、3、4号。]
6. 小野田正利：甘藷新品種の特性 [2]，農及園 21(7) 285-287. [線虫抵抗性程度：農林4、5、6号。]
7. 小野田正利：甘藷の現代主要品種解説 [1]，農及園 21(9) 453-456. [線虫抵抗性程度：農林7号、沖繩100号、護国藷、兼六、岩手2号。]
8. 小野田正利：甘藷の現代主要品種解説 [2]，農及園 21(10) 501-504. [線虫抵抗性程度：茨城1号、源氏、紅赤、七福、花魁、太白。]
9. 渋谷正健：甘藷の根瘤線虫及び塩素酸カリに対する品種間差異，甘藷研究会記録（第1回全九州地区），[於鹿児島高農。昭和21年1月。未見。]
10. 吉井 甫：稲線虫心枯病に関する報告，九大農農林省委託研究試験成績概要（昭和20年度），11 pp. [研究史、線虫の存在部位、線虫の分類学的考察、防除試験（温湯

浸)、苗代・本田に於ける伝播。]

昭和22年 (1947)

1. 深野 弘・横山佐太正：稻心枯線虫病の穂に於ける線虫寄生並に本病の灌漑水伝染と種籾伝播に関する考察。14回九州各県聯合病害虫研究会講演要旨：6。[講要。謄写。未見。]
2. 井上義孝：稻心枯線虫病に関する二、三の知見。14回九州各県聯合病害虫研究会講演要旨：[講要。謄写。未見。]
3. 上遠 章：主要食糧農作物病害防除法（農事振興叢書4），農村協会中央連合会、東京、4+134 pp. [甘藷の線虫 p.124-125：形態、経過習性、加害、加害植物（甘藷、蔬菜類、果樹類、桑）、分布、防除法（抵抗制品種、輪作（陸稻、落花生、綿）、堆肥多用）。]
4. 児玉敏夫：さつまいもの品種。農業 785：18-24。[線虫抵抗性程度の記載を含む。]
5. 近藤鶴彦：甘藷根瘤線虫。In：甘藷馬鈴薯の病害虫 第一輯。日本甘藷馬鈴薯株式会社、東京、p. 153-159。[被害状況（症状）、伝播経路、寄生植物の範囲、分布と土質、防除法（種の選択、輪作、品種、土壤消毒：クロルピクリン）。]
6. 溝上卓爾：甘藷根瘤線虫病の抵抗性に関する解剖学的研究。九州農研会講要 1：19-20。[講要]
7. 西沢正洋：新病害稻心枯線虫病について。長崎農試時報 15(8) 55。[発生地、発生期、品種、病徴、防除法（健全種籾の確保、冷水温湯浸）。]
8. 鈴木美代七：本県の畑作経営と大豆作の将来。秋田農試時報 150：16-20。[虫害（線虫を含む）、連作による減収防止策として麦の間作を勧める。]
9. 鈴木美代七：本県の畑作経営と大豆作の将来（2）。秋田農試時報 151：15-18。[輪作の成績をまとめる。]
10. 渡邊龍雄：纖維作物病学（植物病学叢書 第3冊）。朝倉書店、東京、3+10+255 pp. [線虫 p.24-28。Tylenchus penetrans（ワタ） p.111、大麻根線虫病 p. 123、黄麻根線虫病 p.143-144。（Heterodera marioni）防除：禾本科を2・3年栽培、2月間灌水、耕起。ケナフ根線虫病 p.160、糊麻根線虫病 p.161、糸瓜根線虫病 p.233。]
11. 渡邊龍雄：馬鈴薯の病害と其防除法 [2]。農及園 22(5) 263-265。[根瘤病の防除法（健全な種薯を選ぶ）。]
12. 吉井 甫・河村栄吉：解剖植物病理学（植物病学叢書 第2冊）。朝倉書店、東京、281 pp. [線虫寄生の病害 p. 253-261。]

昭和23年 (1948)

1. 深野 弘・横山佐太正：稻心枯線虫病病原線虫の収穫時における寄生部位について。九州農研会講要 2：20。[講要]
2. 日高 醇：病害虫防除の為の土壤消毒法。農業 2巻2：9-15。[クロルピクリンの使用法と効果。]
3. 上遠 章：新農業と農業の将来。農学 2(9) 452-459。[D-Dを含む。]
4. 上遠 章：土壤害虫の新殺虫剤D-D。農業 2巻7/8：25-26。[対象害虫と使用法]
5. 桐生知次郎：九州に於ける主要農作物病害分布。九州農研会講要 2：22。[講要。甘

- 蕪の根瘤線虫：宮崎県、鹿児島県。稻心枯線虫病。]
6. 近藤鶴彦：甘藷の根瘤線虫（ネマトーダ）に就て。農業千葉 2巻2: 4-5. [昭和13年香取郡橋村で発見。症状、土質と被害、伝播源（種蕪）、寄主植物、対策（抵抗性品種、輪作）。]
  7. 近藤鶴彦：サツマイモ（甘藷）の害虫（2）センチュウ類。In: 予察・防除農作物害虫新説・改訂版（湯浅・河田編），朝倉書店、東京、p. 184-192. [症状、寄主植物、対策等。]
  8. 桑山 覚・田中一郎：豆類の病虫害（北農叢書 23），柏葉書房、札幌、129 pp. [大豆萎黄病 p. 14-17. 大豆根線虫根瘤病 p. 18-21.]
  9. 溝上卓爾：甘藷根腐線虫病（仮称）について。九州農研会講要 2: 3. [講要。病徴、分布、発生消長等。]
  10. 元村 勲：線虫 *Rhabditis ikedai* Tadano の性について。生態学研究 11(3/4)113-116. [系統により性比が異なる。本種の新種としての記載はNo.50-32を参照。]
  11. 村田寿太郎：土壌消毒による線虫病退治。農業 2巻2: 16-18. [クロルピクリン、晒粉。]
  12. 村田寿太郎：線虫病防除法に就いて。日植病報 13(1/2) 69-70. [講要。キュウリのネコブセンチュウにクロルピクリン。]
  13. 中村寿夫：煙草植物病学。朝倉書店、東京、252+22 pp. [線虫病：分布、病原、病徴、寄主植物、防除 p. 89-91.]
  14. 中野善雄：大麻の品種育成方法。広島農試特報 1: 62-68. [白木型：線虫に対する抵抗性に弱い傾向。]
  15. 大岩俊彦：1,2-dichloropropene, 2,2-dichloropropane並に其等の混合物の殺虫力に就て。防虫科学 10: 38-41. [コクゾウムシを用いてD-DとクロルピクリンのLD50等を比較。]
  16. 尾崎重夫：改訂農作物害虫精説。朝倉書店、東京、4+14+532 pp. [センチュウ類 p. 286-293.]
  17. 佐藤庄太郎：新農薬の研究動向。農業技術 3巻4: 30-33. [殺線虫剤を含む。]
  18. 高木信一：新潟県の大豆月夜病研究史。新潟農業 2巻5: 17-24. [病原とその研究の概要、土壌肥料的、病虫害的、耕種的観点から行われた試験研究。線虫の寄生が原因の中で重要とする。輪作および捕獲植物利用の試験結果を含む。]
  19. 滝元清透：蔬菜苗床の衛生。農業 2巻2: 23-27. [クロルピクリンによる根線虫防除を含む。]
  20. 滝元清透：秋作蔬菜の病害解説。農業 2巻7/8: 17-14. [病徴による分類。根線虫病：ゴボウ、ニンジン。]
  21. 田中彰一：蔬菜病害防除論。朝倉書店、東京、2+4+317 pp., 2 pls. [イチゴの *Aphelenchoides fragariae* p.254. 防除：被害株摘除焼却、48°C20分温湯浸漬。]
  22. 田中彰一・北島 博：水稻の線虫心枯病。農業技術研究 2巻7: 9. [病徴、病原線虫、防除（温湯浸漬）。]
  23. 横尾多美男：稻の心枯線虫 (*Aphelenchoides oryzae* n.sp.)に就いて。日植病報 13(1/2) 40-43. [イネシンガレセンチュウを上記学名の新種として記載。病徴、生態（生活史及び寄生部位）にも言及。現在は *A. besseyi* Christie, 1942 のシノニムとされている (Allen, M. W., Proc. helminth. Soc. Wash. 19(2) 108-120, 1952).]
  24. Anon. : 昭和23年度新農薬試験成績速報。農業 2巻10/11: 100-104. [カンショ、ニンジン、ハクサイ、キュウリのネコブセンチュウ・針金虫に対するD-D剤の試験結果を含む。]

昭和24年 (1949)

1. 深野 弘：稲心枯線虫病の防ぎ方。農試春秋 2巻5: 2-6。[越冬・温湯冷水浸法。]
2. 深野 弘・香月 繁孝(保)：病虫害防除の方策 第1輯 食糧作物 増補改訂版。福岡県購売農協連、福岡、6+114 pp. [稲心枯線虫病 p.21-23: 病徴、病原伝染経路、防除法(無病種子の使用、冷水温湯消毒)；小麦粒線虫病 p.78-79；大豆萎黄病 p.98-99。初版(1947)は未見。]
3. 深野 弘・香月 繁孝(保)・瀧口 政数：病虫害防除の方策 第2集 蔬菜、甘藷、馬鈴薯。福岡県購売農協連、福岡、6+114 pp. [ナス根瘤線虫病 p.6；甘藷根瘤線虫病 p.96-97。]
4. 深野 弘・横山佐太正：稲心枯線虫病に関する2、3の成績。九州農研会講要 4: 5-7。[講要。寄生部位、被害他。]
5. 日高 醇：クロールピクリンによる土壌消毒。農及園 24(9) 631-635。[施用法、効果。タバコでは経済性あり。]
6. 鑄方 末彦：食料作物病学 上巻 稲及び豆類(植物病学叢書 第6冊)。朝倉書店、東京、3+12+320 pp. [稲：線虫心枯病 p.102-105；北海道線虫病 p.105-106；黒麹病 p.106-107。大豆：萎黄病 p.187-190；根線虫病 p.190-192。]
7. 河合一郎：実験防除農作物病害篇。養賢堂、東京、4+11+353 pp., 16 pls. [稲心枯線虫病 p.111-112, 小麦穀実線虫病 p.163-164, 大豆萎黄病 p.209-210, 甘藷線虫病 p.230-231, 馬鈴薯根瘤病 p.241, 瓜類の根瘤病 p.267, トマト根瘤病 p.275, にんじん線虫病 p.335-336, ごぼう線虫病 p.339-340。土壌消毒剤 p.18-20。]
8. 河合一郎：果樹病害要説。惇信堂、東京、7+146 pp., 1 pl. [いちじく根線虫(こんせんちゅう)病 p.117。病徴、病原、伝染経路、誘因、防除法(健全苗木の確保、1年の水田化、多肥。)]
9. 近藤鶴彦：根瘤線虫に対する抵抗性の甘藷品種間に於ける差異について(予報)。応昆 5(3) 123。[講要]
10. 古宇田清平：大豆の増収栽培 [1]。農及園 24(11) 825-828。[萎黄病：最も恐ろしい病害。抵抗性品種にふれる。続報No.50-16, 17。]
11. 高坂卓爾：甘藷根腐線虫の病原線虫について。九州農研会講要 5: 5-6。[講要。Pratylenchus pratensisとする。]
12. 三坂和英：新殺虫剤DDの効力。農耕と園芸 4巻1: 41-42。[キュウリ、ハクサイに対する効果と使用方法(図示)。]
13. 三宅利雄：土壌害虫の新殺虫剤DD。広島農業 2巻5:27。[効果、使用方法の紹介。]
14. 溝上卓爾：甘藷ねぐされ線虫の品種間差異。九州農研会講要 4: 45-49。[講要。病徴、病変部の組織変化。]
15. 中田覚五郎・滝元清透：煙草の病害とその防除法。明文堂、東京、2+4+133 pp. [根線虫病(節根病) p.98-100。防除：輪作、多肥、抵抗性品種(土耳其葉)。]
16. 中村寿夫・津曲彦寿：煙草の栽培と病虫害防除。日本専売出版協会、東京、2+9+258 pp. [線虫病 p.119-121。クロールピクリン・輪作、寒中耕鋤による防除。]
17. 西沢正洋：稲線虫心枯病の伝染に関する一観察。九州農研会講要 4: 66-67。[講要。本田における被害株の分布。]
18. 野村作蔵：キクの脱葉と線虫。農業朝日 4巻4: 30。[病徴、線虫の生態、対策(苗のDDT処理、抵抗性品種の利用、敷葉他。)]
19. 滝元清透：水稻の線虫心枯病。農及園 24(6) 430。[問答。病原線虫の解説及び防除法(種籾温湯浸漬)。]

20. 田中一郎：病害から見た輪作。農学 3(7) 351-356. [線虫関係はNo41-7を中心にまとめた。]
21. 田中 勇：クロールピクリンに依る煙草線虫病の子防効果(速報)。煙草耕作参考資料 4: 25-26. [線虫による被害を著しく軽減。]
22. 田中 勇：たばこ線虫病に関する研究 第1報 クロールピクリンによる本圃土壤消毒について。鹿児島たばこ試報 6: 1-5. [タバコの生育、発病、収量を調査。実用の可能性が高いと結論。]
23. 時岡 隆：Record of a *Chaetosoma* specimen found near Seto. Publ. Seto Mar. Biol. Lab. 1: 2. [未見]
24. 山田 濟・塩見正保：稲の線虫心枯病(俗称ホタルイモチ)について。広島農試特報 2(中国四国農学大会講演集)：81. [講要]
25. 山本重雄・吉井 甫：粟不稔病特にその病原線虫について。九州農研会講要 4: 29-30. [*Aphelenchoides oryzae* (= *A. besseyi*)の寄生による。]
26. 山本和太郎：甘藷の根腐線虫病について(1)。大阪農業普及だより 4: [未見]
27. 山本和太郎：甘藷の根腐線虫病について(2)。大阪農業普及だより 5: [未見]
28. 吉井 甫：イネ線虫心枯病とその防除。農薬 3巻10: 13-19. [被害、病徴、伝染経路、防除法(温湯浸)。]
29. 吉井 甫：稲心枯線虫病について。九州農研会講要 5: 73-80. [研究史、病徴、病原、越冬方法、伝播経路、防除(薬剤散布、種子消毒)。]
30. 湯浅啓温・川崎倫一：大豆害虫の諸問題。農学 3巻3: 19-24. [線虫を含む。]
31. Anon. (農林省千葉農事改良実験所)：新農薬委託試験成績 土壤消毒の部。甘藷根瘤線虫。農薬 3巻5/6: 117-120. [甘藷のネコブセンチュウに対するD-D剤の効果をクロールピクリンと比較。]
32. Anon. (福岡農試)：稲線虫心枯病に関する研究。昭17-21業年: 174-176. [種子消毒、本田における伝播。]
33. Anon. (鹿児島農試)：線虫病防除試験 1. 発病と品種との関係。昭17業報: 77-78. [甘藷の31品種を比較。]
34. Anon. (鹿児島農試)：甘藷根瘤線虫防除試験。昭18・19業報: 74-76. [抵抗性比較、堆肥の施用量と被害。]
35. Anon. (鹿児島農試)：水稻線虫心枯病防除試験。昭20・21業報: 78-80. [生育調査。]
36. Anon. (鹿児島農試)：線虫病防除試験。昭20・21業報: 102-103. [抵抗性甘藷品種、堆肥施用。]
37. Anon. (鹿児島農試)：線虫病防除試験。昭20・21業報: 108-110. [抵抗性甘藷品種、堆肥施用、輪作、混作。種藪による線虫の伝播。]
38. Anon. (宮崎農試)：甘藷根瘤線虫。農薬 3巻5/6: 120-122. [ネグサレ、ネコブセンチュウにD-D剤。]
39. Anon. (宮崎農試)：新農薬委託試験成績 土壤消毒の部 針金虫。農薬 3巻5/6: 126-128. [D-D、クロールピクリン剤。]
40. Anon. (岡山農試)：ホタルイモチ(線虫心枯病)の被害程度調査。昭20・21・22業功: 60. [昭和22年度成績。]
41. Anon. (静岡農試)：根瘤線虫甘藷品種間差異試験(昭和17年-昭和21年)。自昭17至22業報: 85. [20-30品種を供試。]
42. Anon. (東京農試)：新農薬委託試験成績 土壤消毒の部 蔬菜根瘤線虫。農薬 3巻5/6: 124-126. [ニンジンにD-D剤。]

43. Anon. (農薬協会農薬研究所) : 新農薬委託試験成績 土壤消毒の部 蔬菜根瘤線虫. 農薬 3巻5/6: 122-124. [ニンジン、キュウリにD-D剤。]

昭和25年 (1950)

1. 秋保盛男: 桑苗根瘤線虫駆除試験. 日蚕東北講要 3: 36-37. [講要]
2. 後藤和夫: 農作物病害の物理的消毒法 (II). 農薬と病虫 4(10) 320-322. [大豆萎黄病対策の雪水湛水にふれる。]
3. 後藤和夫・深津量栄: 稻線虫心枯病の被害解析. 日植病報 14(3/4) 98. [講要. 精籾重で17%減収。]
4. 後藤重喜: 甘藷根瘤線虫の寄主植物について. 九州農業研究 7:71-72. [29種を記録]
5. 堀 浩: 粟の不稔病とその防除. 研農復刊 2(6) 169-170. [BHC、DDTは効果なし. 冷水温湯浸法は効果あり。]
6. 飯島 鼎: 蔬菜ネマトーダに対するDDの効果. 新園芸 3巻10: 54. [昭25園芸学会講要]
7. 今泉吉郎: 石灰窒素の施用法. 農及園 25(1) 75-78. [線虫に対しては反当10貫。]
8. 井上 巖: カマキリから得られたハリガネムシについて. 動雑 59(2/3) 37. [講要]
9. 上遠 章: 新農薬とその使い方. 農薬 806: 43-56. [D-Dを含む。]
10. 加藤陸奥雄: 東北地方における大豆の害虫. 新しい農業 5巻4: 37-42. [山下善平氏の成績を引用. D-Dによる線虫防除効果。]
11. 川田 十: 温泉熱の利用と蔬菜促成栽培. In: 蔬菜の促成栽培 (新園芸別冊). 朝倉書店、東京. P. 36-46, 口絵写真. [線虫防除: 焼土、蒸土、ホルマリン、クロロピクリン、漂白粉、高熱泉の土壤灌注、D-D。]
12. 桐生知次郎・藤川 隆: 水稻畦立栽培に於ける病害調査成績. 九州農業研究 7:59-60. [*Aphelenchoides besseyi*は平畦より少ない (熊本)。]
13. 桐生知次郎・西沢正洋・山本 滋: 稻線虫心枯病に対する抵抗性品種の研究 第1報. 九州農業研究 6: 33-34. [抵抗性 (発病率、生育、収量) に品種間差異。]
14. 近藤鶴彦: 甘藷根瘤線虫. In: いも類病害虫と防除 (堀 正侃編). 朝倉書店、東京. p. 248-258. [甘藷根瘤線虫: 被害状況、伝播経路、寄主植物の範囲、対策 (抵抗性品種、輪作、堆肥施用、土壤消毒: クロロピクリン、D-D)。]
15. 近藤鶴彦: 根瘤線虫の生態. 農薬と病虫 4(8) 234-239. [寄主植物、天敵、季節的消長、垂直分布等。]
16. 古宇田清平: 大豆の増収栽培 [5]. 農及園 25(1) 143-146. [忌地予防のための輪作様式を含む。]
17. 古宇田清平: 大豆の増収栽培 [14]. 農及園 25(10) 970-972. [萎黄病の防除法を含む。]
18. 高坂卓爾: 甘藷ねぐされ線虫病. 防疫時報 17: 43-56. [分布、病徴、発生消長、被害、防除等。]
19. 高坂卓爾: 甘藷ねぐされ線虫病の抵抗性について (1) 解剖学的考察. 九州農業研究 7: 65-66. [「抵抗性品種に於ては、防衛木栓層の形成が早く……」]
20. 蔵納久男: 柑橘ネマトーダの被害. 柑橘 2巻10: 27. [アメリカでの線虫害の紹介。]
21. 桑山 覚: 北海道地方農業技術の課題. 農業技術 5巻9: 1-9. [線虫研究にふれる。]
22. 元村 勲: 線虫*Rhabditis idedai*の性について. 動雑 59(2/3) 38. [講要]
23. 武笠耕三: 畑をあらず線虫. 農家の友 (北海道) 2巻11: 6-11. [線虫根瘤病: 症

- 状、被害作物、土質との関係、病原線虫、防除法。]
24. 駒松市郎兵衛：人蔘根癌線虫に対するDDの駆除効果。農及園 25(9) 795-796。  
[反当6貫で十分、9貫では一層の効果。]
25. 二宮慎治：切花用菊の促成栽培。農業 804: 58-60。[ネマトーダ防除：用土中に硫黄華を混入。]
26. 佐川美穂：トマトの抑制栽培。農及園 25(5) 446-448。[線虫の多い畑では青枯れ病多発。]
27. 佐藤一夫：鹿児島県指宿地方の温泉熱利用促成栽培。In: 蔬菜の促成栽培(新園芸別冊)。朝倉書店、東京、p. 222-226。[ネマトーダは熱気消毒により駆除。土壤消毒設備を図示。]
28. 関谷一郎・早河広美・呉羽好三：大豆の害虫とその防除に関する研究 昭和21-24(1946-1949)。害虫防除に関する試験研究報告(長野農試)：110-136。[未見]
29. 進藤要五郎・戸田和男(担当者)：大豆ネマトーダ駆除クロルピクリン滴注試験。昭24試験研究概報(山形農試普及資料一号)：51。[効果なし。]
30. 杉山章平：北陸地方の病害虫発生状況。農薬と病虫 4(2) 409-410。[稻線虫心枯病：福井県で1380町歩に発生。]
31. 鈴木康三：静岡県の温室蔬菜。In: 蔬菜の促成栽培(新園芸別冊)。朝倉書店、東京、p. 178-184、口絵写真。[ネマトーダ対策としてD-Dの使用を試みる。]
32. 只野正志：ナメクシ *Incillaria confusa* Cockarell に寄生する線虫の一新種 *Rhabditis ikedai* n.sp. について。動雑 59(12) 289-291。[幼虫期にナメクシ体内に寄生する線虫の新種の記載。現在は *Phasmarhabditis papillosa* (Schneider, 1866) Andrassy 1976のシノニムとされている(Andrassy, I. A taxonomic review of the suborder Rhabditina. ORSTOM, Paris, 1983, p. 92)。]
33. 只野 柳：線虫の卵割における原形質流動。動雑 59(2/3) 40-41。[講要。Rhabditis 属線虫卵。]
34. 田中 勇：クロルピクリン処理による煙草線虫病防除について。九州農業研究 6: 66。[60%の増収。]
35. 山田 濟：種籾の消毒法。富民 22巻4: 13-16。[「稻のセンチュウシングレ病について」として症状及び冷水温湯浸、風呂湯浸法を紹介。]
36. 山田 濟・塩見正保：稻線虫心枯病に関する研究、特に硝酸銀による線虫保虫籾の消毒に就て。日植病報 15(1) 31-32。[講要。No. 50-37, 38を参照。]
37. 山田 濟・塩見正保：稻線虫心枯病、俗称「ホタルイモチ」に関する研究 第一報 分布・症状及び病原について。岡山農試臨時報 46: 15-28, 1 pl。[研究史、伝染源、線虫の移動についても記載。]
38. 山田 濟・塩見正保：稻線虫心枯病、俗称「ホタルイモチ」に関する研究 第二報 防除法、特に保虫籾消毒について。岡山農試臨時報 47: 1-8。[昇汞、青酸カリ、石炭酸、硝酸銀、DDT、BHC、硫酸ニコチン、ホルマリン、二硫化炭素、クロルピクリンを試験。]
39. 山本重雄・吉井 甫：粟不稔病特にその病原線虫について。日植病報 14(3/4) 81-83。[*Aphelenchoides oryzae* と同定。熊本県では明治39年に発見。]
40. 山下善平・柴辻鉄太郎・菅野 登・熊沢忠雄：新殺虫剤の効果に関する試験。東北病虫研講要 1: 79。[講要。未見。]
41. 吉井 甫・山本重雄：A rice nematode disease "Senchu-Shingare Byo". I. Symptom and pathogenic nematode. J. Fac. Agr., Kyushu Univ. 9(3) 209-222。[研究史、病徴、病原線虫の形態。]

42. 吉井 甫・山本重雄: A rice nematode disease "Senchu-Shingare Byo". II. Hibernation of Aphelenchoides oryzae. J. Fac. Agr., Kyushu Univ. 9(3) 223-234. [寄生部位、越冬。]
43. 吉井 甫・山本重雄: A rice nematode disease "Senchu-Shingare Byo". III. Infection course of the present disease. J. Fac. Agr., Kyushu Univ. 9(4) 287-292. [土壌、種子、苗床、本圃における伝播。]
44. 吉井 甫・山本重雄: A rice nematode disease "Senchu-Shingare Byo". IV. Prevention of the present disease. J. Fac. Agr., Kyushu Univ. 9(4) 293-310. [出穂期における硫酸ニコチン散布。種子のクロルピクリン、ホルマリン、温湯処理の効果。温湯処理の条件を検討。]
45. Anon. (福岡農試): 稲線虫心枯病に関する研究。昭22-24業年: 108-136. [寄生部位、伝染経路、越冬、防除等。]
46. Anon. (熊本農試): 稲線虫心枯病防除試験。昭21業功: 74-75. [冷水温湯処理。苗代の古稲株より発生を認める。]
47. Anon. (熊本農試): 甘藷根瘤線虫分布調査。昭21業功: 79-80. [昭和20年松合町で罹病藪を発見。]
48. Anon. (熊本農試): 甘藷根瘤線虫の分布調査。昭22業功: 82. [新発見地なし。]
49. Anon. (長崎農試): 水稻線虫心枯病防除試験。昭22業功: 88-89. [種子消毒: 方法記述なし。結果のみ。]
50. Anon. (山形農試): 大豆線虫防除法試験。昭9業功: 206-207. [最上分場成績。輪作、生石灰、石灰窒素等を施用。]
51. Anon. (専売局鹿児島たばこ試): 病害虫に関する事項。業務概要 2: 15-21. [クロルピクリンによる土壌消毒。]

### 昭和26年 (1951)

1. 安孫子孝一: いも類研究の現状と課題: 品種改良を中心として。農業技術 6巻8:4-8. [線虫根瘤病抵抗性育種を含む育種体制を解説。]
2. Allgen, C. A.: Papers from Dr. Th. Mortensen's Pacific expedition. LXXVI. Pacific freeliving marine nematodes. Vidensk. Medd. fra Dansk naturh. Foren. 113: 263-411. [相模湾の深さ約720mから採集された Leptosomatum abyssale (新種) を記載 p.331-332. 本論文に扱われたのは本種以外はハワイ、フィリッピン、オーストラリア、ニュージーランド、南太平洋、北アメリカ (カルフォルニア)、中央アメリカ (パナマ) の線虫。]
3. 新船幸重郎: 埼玉県の苗木検査について。農業と病虫 5(2) 52-55, 82. [ネマトウダ発見: 梨、桃、苹果、無花果、桜桃、栗、葡萄、桜。]
4. 深野 弘・横山佐太正: 稲線虫心枯病に関する研究 特に茎別被害状況並に品種抵抗性について。九州農業研究 8: 89-90. [線虫寄生時にも病徴の現れない品種がある。]
5. 深野 弘・横山佐太正: 稲線虫心枯病種別消毒法の研究 第一報 冷水温湯消毒の液のpHと殺虫効果との関係について。日植病報 15(3/4) 164. [講要。予浸は酸性あるいは塩基性液が井水にまざる。]
6. 福田仁郎: 予防駆除果樹害虫。朝倉書店、東京、357 pp., 2 tabs. [イチジクのネマトーダ p. 308-310. 形態、生活史、防除 (D-D、石灰窒素、輪作、種苗の選択、クロ

- ルピクリン)。]
7. 五味美知男：水稻線虫心枯病防除試験成績。農業と病虫 5(4) 161-162。[種子、苗代、本田の防除。]
  8. 後藤和夫：稲線虫心枯病に関する研究 第2報 稲体上の線虫数と分布。日植病報 15(3/4) 159。[講要。No52-7を参照。]
  9. 後藤重喜・蓮子栄吉：甘藷根腐線虫病のクロールピクリンによる土壤消毒について 第1報 発病状況に及ぼす影響。九州農業研究 8: 95-96。[発病率70%低下。]
  10. 日高 醇・桐山 清：クロールピクリンによる土壤消毒の効果範囲。秦野たばこ試報 37: 33-41, 3 pls. [雑草及び菌類を供試。]
  11. 日高 醇・中井武文：クロールピクリンによる土壤消毒の肥料的効果の原因。秦野たばこ試報 37: 83-96, 3 pls. [土壤中のアンモニア態窒素、硝酸態窒素の量の変化を調査。]
  12. 日高 醇・清水忠夫：クロールピクリンによる土壤消毒の病害防除の効果。秦野たばこ試報 37: 1-23, 3 pls. [線虫及び病原菌に対する効果。]
  13. 日高 醇・清水忠夫・古田興三郎：クロールピクリンによる土壤消毒が収量及び品質に及ぼす影響。秦野たばこ試報 37: 57-82, 8 pls. [生育、収量が増大。]
  14. 樋口：防疫情報 10月。輸出植物検疫 横浜。植物防疫 5(12) 519。[アメリカ向けぼたん、しゃくやくの苗木にネマトーダ。]
  15. 飯島 鼎：大豆の害虫とその防除法。農及園 26(1) 159-162。[D-D、クロールピクリンによる線虫防除を含む。]
  16. 井上 巖：カマキリ寄生ハリガネムシ追加一新種並びにChordodes 属の国内国外分布について。動雑 60(1/2) 32。[講要。C. fukuii (新種)の記載を含む。]
  17. 井上元則：林業害虫防除論 上巻。地球出版、東京、2+5+200 pp., 1 pl. [生物的防除：線虫類の利用 p. 178-179。Mermis nigrescens, Agamerms decaudata (以上コオロギ)、Neoaplectana glaseri (マメコガネ)。]
  18. 弥富喜三：線虫の正体と防除。農業技術研究 5巻1: 34-35, 37。[主に甘藷の線虫。]
  19. 弥富喜三：根腐線虫Heterodera marioniに対するFolidol-E-605の防除効果(予備試験)。植物防疫 5(11) 448-449。[効果あり。]
  20. 弥富喜三：草莓の線虫。農業技術研究 5巻5: 54-55。[Aphelenchoides fragariaeの病徴、防除法。]
  21. 弥富喜三・西沢 務(担当者)：甘藷線虫防除試験。静岡農試業報 昭25: 219-224。[D-D、クロールピクリン施用。寄主植物、甘藷耐虫性品種、堆肥増施、輪作。]
  22. 弥富喜三・西沢 務：草莓の線虫に就いて。静岡農試研報 1: 106-117。[Aphelenchoides fragariae。病徴、病原線虫、形態、生態(経過習性)、伝播、防除(ランナーの温湯浸漬)。]
  23. 桐生知次郎・西沢正洋・山本 滋：稲線虫心枯病に対する抵抗性品種の研究(第1報)。日植病報 15(2) 96。[講要。No. 52-31を参照。]
  24. 北沢喜太郎・中島啓二・伊藤治延(担当者)：大豆の害虫とその防除に関する研究。昭25害虫防除に関する試験成績報告(長野農試)：66-81。[施肥と被害・薬剤(DDT、BHC、クロールピクリン、D-D、トクサフィン)の土壤施用の試験の中で線虫を扱う。]
  25. 近藤鶴彦：甘藷線虫類の被害と防除。農及園 26(1) 181-185。[ネコブ・ネグサレセンチュウの被害、生態、防除、被害激甚化の原因。]
  26. 近藤鶴彦：蔬菜、サツマイモのネマトーダ。In: 園芸病害虫の防ぎ方(堀 正侃・飯島 鼎編)。誠文堂新光社、東京、p. 235-243。[見分け方(症状、線虫の形態)、

- 性質及び防ぎ方（土性と被害、寄主植物、生活史、発消長、土壌の消毒：クロルピクリン・D-D剤、堆肥の増施。]
27. 森 常也：麦の害虫と防ぎ方。In: 麦作改善のねらい（農業改良普及資料第19号）。長崎県経済部農業改良課、p. 39-41。[長崎県に発生する害虫のなかにコムギノコクジツセンチュウ、ケイセンチュウをあげ、防除法を示す。]
28. 森下：検疫情報 5月 輸入植物検疫 横浜。植物防疫 5(7) 257。[アメリカから輸入したバラ苗全部にネマトーダ。]
29. 向 秀夫：トマト青枯病とその防除法。農及園 26(1) 95-98。[線虫も関与。]
30. 向 秀夫・水沢芳名：麦種子の消毒。植物防疫 5(10) 389-392, 371。[小麦穀実線虫病防除のための温湯浸漬を含む。]
31. 村田寿太郎：苗床の土壌消毒。農及園 26(2) 228。[焼土、クロルピクリン。]
32. 西沢正洋・山本 滋：稻線虫心枯病に対する抵抗性品種に関する研究 第2報 九州地方に於ける水稻の主要品種並びに育成系統の一部に対する検定。九州農業研究 8: 91-92。[18品種の比較。]
33. 西沢正洋・山本 滋：稻線虫心枯病に対する品種の抵抗性に関する研究 第3報 本病による被害の検定。九州農試彙報 1(1) 65-66。[稲の生育、収量を品種間で比較。]
34. 西沢正洋・山本 滋・水田隼人：稻線虫心枯病に対する品種の抵抗性に関する研究 第4報 陸稲品種に於ける検定。九州農試彙報 1(1) 67。[発病程度による品種の階級分。]
35. 岡田富信：根瘤線虫に於ける生態的系統について。応昆 7(2) 83。[講要。サツマイモに対する寄生性に差異。]
36. 佐川美穂：ネマトーダの特効薬、D-Dの経済的な使い方。農耕と園芸 6巻7: 62-63。[特性、施用法、効果、価格（10ポンド当たり1,100円）。]
37. 佐川美穂：根瘤線虫防除に対するD-Dの経済的使用法に関する試験（第2報）。園芸学会昭26春季大会要旨：17。[講要。ニンジン、ホウレンソウ。]
38. 佐川美穂・坂本石蔵：蔬菜の根瘤線虫に対するD-Dの駆除効果（第1報）。農及園 26(10) 1099-1100。[ダイコン、キュウリに効果はあるが、経済的に難点（1反歩当6-700円）。植物防疫 8(7) 316, 1954に抄録。]
39. 佐川美穂・坂本石蔵：ネマトーダ退治のD-D。農業千葉 5巻1: 9-12。[キュウリ、ダイコンに施用。クロルピクリンと比較。]
40. 鮫島徳造・湯池好堅：D-D及びクロルピクリンの土壌消毒後の日数と甘藷苗の葉害に関する試験。日植病報 15(3/4) 168。[講要。D-Dは処理1日後より葉害消失の傾向。]
41. 末永 一・松尾寛一・酒井久夫・山元四郎：九州地方における大豆害虫の種類。九州農試彙報 1(1) 78-79。[*Heterodera schachtii*を含む。]
42. 只野 柳：Studies of cleavage in the eggs of nematodea. I. Sci. Rep. Tohoku Univ., Ser. 4., 19(1) 100-113。[受精から第一卵割までの原形質流動を観察。]
43. 田中一郎・成田武四：北海道に発生した主要病害虫と防除の概況。植物防疫 5(12) 482-484。[大豆萎黄病：十勝地方で急激に分布を拡大。]
44. 田中 勇：D-D処理によるタバコ線虫病防除について。煙草耕作参考資料 6: 56-57。[麦の立毛中に処理。ゴール指数、拡散を調査。効果はあるが経済上問題が残る。]
45. 田中 勇：タバコ線虫病防除について。鹿児島たばこ試速報 3: 16-17。[D-Dとクロルピクリンは同程度の効果。]
46. 徳永芳雄：東北地方に於ける病害虫の発生状況と防除状況。植物防疫 5(12) 484-486。[「青森では大豆萎黄病の激基地に対してDDの施用が実施された」]

47. 横尾多美男: Golden Nematode とはどんな線虫か. 日植病報 15(3/4) 166-167. [講要. 当該線虫の解説.]
48. 吉井 甫: 稲線虫心枯病の生態と防除. 農及園 26(1) 23-26. [病徴、病原線虫、防除法 (種子消毒).]
49. 吉井 甫: 稲線虫心枯病. 農及園 26(7)口絵. [病徴、防除法 (種子の温湯浸漬).]
50. 吉井 甫: 稲線虫心枯病の防除について. 日植病報 15(2) 101. [講要. No. 51-53を参照.]
51. 吉井 甫: 稲線虫心枯病被害稲の草型並びに収量について. 九州大農学誌 12(2) 133-141. [異常分蘖、稈長、千粒重等減少.]
52. 吉井 甫・山本重雄: 稲線虫心枯病の防除について. 九州大農学誌 12(2)123-131. [冷水温湯浸法及び温湯浸法.]
53. 湯浅啓温・田中一太郎: 虫害防除の技術と実際. 農民社、東京、2+12+266 pp., 44 figs. [サツマイモセンチユウ p. 129-134, D-D p. 262-263.]
54. Anon. (農林省農業改良局研究部): 病虫害名鑑. 拓文社、東京、2+6+205 pp [線虫心枯病: イネ. 粒線虫病: コムギ. 根線虫病: ダイズ、ナス、ニンジン、サトウダイコン、ワタ、アサ、サツマイモ.]
55. Anon.: 農作物の病害. In: 北海道農業技術50年. 北海道農試・北海道立農試. p. 166-188. [水稻心枯線虫病、大豆萎黄病 (減収率他)、線虫根瘤病 (小豆、菜豆、甜菜).]
56. Anon. (福岡農試): 稲線虫心枯病に関する研究. 昭25業年: 51-60. [被害解析、防除等.]
57. Anon. (宮崎農試): 甘藷線虫病ニ関スル試験. 自昭21至昭23業功: 56. [抵抗性品種検定 (昭22, 23)、薬剤防除 (昭23): DDT、フェノチアジン、BHC、硫黄剤、クロロピクリン、D-D.]
58. Anon. (長崎農試): 害虫の早期発見並びに発生予察に関する事業. 昭24業功: 103-108. [線虫心枯病: 「北松浦郡に可成り甚し」]
59. Anon. (岡山農試): 稲の線虫心枯病「ホタルイモチ」に関する試験研究. 昭23・24業功: 14. [昭23成績. 概要のみ.]
60. Anon. (岡山農試): 稲の線虫心枯病「ホタルイモチ」に関する試験研究. 昭23・24業功: 38. [昭24成績. 調査項目のみ.]
61. Anon. (埼玉農試): 大和薯線虫に対するDDの使用法. 植物防疫 5(9) 343. [「植付時株間に植付溝の其処より5寸の深さに穴を穿ち1穴にDDを4cc宛灌注した後覆土」]
62. Anon. (東京農試): ネマトータ防除に関する試験. 昭24業功: 65-66. [D-D、クロロピクリン.]
63. Anon. (山形農試): クロールピクリン滴注による大豆ネマトータ駆除試験. 昭24業年: 323-324. [最上分場成績. 根瘤菌減少、実用性なし.]

### 昭和27年 (1952)

1. 安孫子孝一: いも類について: 昭和27年度試験研究打合会議報告. 農業技術7(6) 183-184. [カンショの根瘤線虫抵抗性にふれる.]
2. 明日山秀文: 米国に於ける耐病性品種育成の現状. 育雑 1(4) 23. [第一回講演会特別講演要旨. イネの線虫心枯病にふれる.]

3. 深野 弘・横山佐太正：冷水温湯と水銀剤による二重消毒が種籾の発芽に及ぼす影響について。福岡農試研時報 2: 5-8. [稲心枯線虫と稲熱病・胡麻葉枯病の同時防除。ウスプルン、温湯浸、冷水浸の処理順序および処理時間の発芽率にあたる影響を検討。]
4. 深野 弘・横山佐太正：稲線虫心枯病予防種籾消毒法の研究。第Ⅱ報 風呂湯浸法の消毒効果。日植病報 16(3/4) 141-143. [温度、浸漬時間と死虫率。]
5. 福田信蔵・尾島至崇：土壤燻蒸剤D-Dの蚕に及ぼす影響と桑線虫駆除試験。蚕糸局技術改良課技術資料 33: 72-73. [講要]
6. 福井重郎：日本に於ける大豆の品種と品種改良。綜合作物学 食用作物篇 (いもの部、菽穀の部)。 (佐々木 喬監修)、地球出版、東京、p.159-182. [ネマトーダ抵抗性品種にふれる。]
7. 後藤和夫・深津量栄：稲線虫心枯病に関する研究 第2報 稲体上の線虫数と分布。日植病報 16(2) 57-60. [主稈に多い。]
8. 後藤和夫・深津量栄：稲線虫心枯病抵抗性の品種間差異とその機構。日植病報 16(2) 86-87. [講要]
9. 後藤和夫・深津量栄：稲線虫心枯病抵抗性を異にする稲品種上の線虫の増殖について。日植病報 17(1) 41-42. [講要。増殖率の違い。]
10. 後藤重喜・蓮子栄吉：甘藷根腐線虫病のクロールピクリンによる土壤消毒について 第2報 生育並びに2、3の生理作用に及ぼす影響。九州農業研究 10: 149-150. [同化・呼吸量ともに増大。]
11. 原田重雄：畑作改善について：27年度試験研究打合会議報告。農業技術 7(6)184-186. [北海道のネマトーダ問題にふれる。]
12. 日高 醇：タバコの病害の見分け方とその防除法 (I)。葉たばこ研究 1: 45-47. [線虫病をふくむ。]
13. 日高 醇：タバコの病害と土壤消毒。植物防疫 6(2) 74-76, 72. [D-D: 線虫には効果があり、立枯病には効果なし。]
14. 一戸 稔：On the soy bean nematode, *Heterodera glycines* n.sp., from Japan. 応動 17(1/2) 1-4. [ダイズシストセンチュウを新種として命名・記載。模式産地は北海道十勝。No.81-138 に同地標本による再記載。]
15. 一戸 稔：大豆萎黄病線虫知見。日植病報 16(3/4) 177-178. [講要。近似種との形態比較。No. 52-14を参照。]
16. 飯塚達兒：札幌営林局管内苗畑に於ける害虫防除について。日林北海道支講 1: 43-45. [ネキリムシに対するD-Dの効果を含む。]
17. 飯塚慶久：作物病害研究の現状と課題。農業技術 7巻6: 12-15. [稲心枯線虫防除にふれる。]
18. 井上 巖：On a new species of *Chordodes* (Gordiaceae) from Japan. Annot. Zool. Japon. 25(3) 400-402. [*C. japonensis* (新種) をカマキリから記載。]
19. 井上 巖：カマキリ (*Tenodera*) に寄生するハリガネムシ (*Gordiaceae*) の分類。動雑 61(2) 27-32. [日本産の種の分布、寄主一覧表 (文献のまとめ)、三種 (*C. silvestri*, *C. japonicum*, *C. fukuui*) の記載。No. 52-18を参照。]
20. 石倉秀次：食糧作物害虫防除法 (朝倉農業選書)。朝倉書店、東京、370 pp. [イネシンガレセンチュウの伝播 p. 39; 甘藷のネコブセンチュウ p. 44, 47, 359-361; イネシンガレセンチュウ p. 39, 59, 241-244。]
21. 弥富喜三：甘藷の線虫と今後の研究。農業技術研究 6巻2: 42-43. [防除の困難性及び対策 (抵抗性品種、薬剤防除)。]
22. 弥富喜三・西沢 務 (担当者)：甘藷線虫防除試験。静岡農試業報 昭26: 193-

198. [植付・掘取時期移動、抵抗性品種選択、薬剤防除 (ホリドール、ベストックス).]
23. 弥富喜三・西沢 務 (担当者) : 草莓の病害に関する研究. 静岡農試業報 昭26 : 198. [イチゴセンチュウ。苗の温湯処理。]
24. 河田 党 : 1月の普通作物害虫防除. 農及園 27(1)110-114. [甘藷線虫類を含む。]
25. 河田 党 : 3月の普通作物害虫防除. 農及園 27(3) 424-428. [輪作による根瘤線虫防除を含む。]
26. 河田 党 : 4月の普通作物害虫防除. 農及園 27(4) 529-533. [稻心枯線虫防除のための種子消毒 (温湯、薬剤浸漬) を含む。]
27. 河田 党 : 線虫. 農及園 27(4) 590, 口絵. [キュウリ、甘藷、ニンジンの被害。]
28. 河村貞之助 : 菊の線虫葉枯病と防ぎ方. 農耕と園芸 7巻10: 68-69. [症状、対策。]
29. 河村貞之助・石井賢二・北島克巳 : Folidol による2、3の臨床例について 1. キク葉枯線虫についての知見. 日植病報 17(1) 44. [講要。散布効果。]
30. 木本氏幹・宮崎吉之助 : 人参根瘤線虫病に対するD-Dの効果. 北日本病虫研報 3: 140-142. [岐根及び根の割れは減少。]
31. 桐生知次郎・西沢正洋・山本 滋 : 稻線虫心枯病に対する品種の抵抗性に関する研究 第1報 品種の抵抗性検定に関する研究. 日植病報 16(1) 6-9. [苗代期における被害初発接種法を採用。9品種の発病率の違いを調査。]
32. 北沢喜太郎 (担当者) : 大豆不稔地の土壌処理並薬剤散布試験. 昭26害虫防除に関する試験成績報告: 46-49. [線虫 (*Heterodera schachtii*) にBHC、DDT、クロールデン、D-D施用。]
33. 小林次郎 : 最近注目されている新病害虫. 農試時報 (秋田) 19巻11: 18-19. [稻線虫心枯病を含む。病徴と冷水温湯浸法による防除を解説。]
34. 近藤鶴彦 : 根瘤線虫と防除. 植物防疫 6(9/10) 352-355. [病徴、防除法 (抵抗性品種、輪作、薬剤)。]
35. 近藤鶴彦 : 根瘤線虫の棲息密度の消長に関する研究 (1) 甘藷畑にける棲息密度の季節的消長. 昭27応動応昆合同大会講要: 6-7. [講要]
36. 古山 党・田村多利 : 粟不稔病に関する研究 (第1報) 粟品種の抵抗性について. 九州農業研究 10: 180-181. [5品種を比較。雨水による線虫伝播にふれる。]
37. 倉田 浩 : 大豆の病害防除に関する諸問題. 農業技術 7巻7: 27-30. [萎黄病にふれる。]
38. 三井栄三・福岡弁四郎 : 蒟蒻芋. 綜合作物学 工芸作物篇 (油料、糖料及糊料の部). (佐々木 喬監修)、地球出版、東京、p.229-259. [ネマトーダ防除: D-D、石灰窒素、輪作。]
39. 武笠耕三・一戸 稔 : 水稻線虫病の分布について. 日植病報 16(1) 28. [講要。分布、防除、罹病性稲品種。]
40. 武笠耕三・一戸 稔 : 十勝地方の大豆萎黄病に就いて. 日植病報 16(3/4) 178. [講要。86-100%減収。線虫密度と被害の関係は不明。]
41. 武笠耕三・一戸 稔 : 大豆萎黄病線虫による被害調査. 北日本病虫研報 3: 73-74. [減収率21%。]
42. 武笠耕三・一戸 稔 : Relative index system による線虫 *Heterodera schachtii* Schmidt の寄生に対する大豆の品種間差異について. 北海道農試業報 63: 117-120. [指数利用の有効性を認める。]
43. 中川恭二郎 : 甜菜 (さとうだいこん). 綜合作物学 工芸作物篇 (油料、糖料及糊料の部). (佐々木 喬監修)、地球出版、東京、p. 253-277. [*Heterodera schachtii* を誘引作物 (菜種、エンバク、カラシナ) により防除。]

44. 西沢正洋・山本 滋：稻線虫心枯病に対する抵抗性品種に関する研究（第5報）7品種に対する検定。日植病報 16(3/4) 165. [講要]
45. 西沢正洋・山本 滋：稻線虫心枯病に対する抵抗性品種に関する研究（第5報）7品種に対する検定。九州農業研究 9: 11-12. [東山38号、同58号、南海3号は全く病徴を示さず。]
46. 西沢 務・弥富喜三：根瘤線虫に対する甘藷の抵抗性について。応昆応動合同大会講要 昭27: 6. [講要]
47. 日塔正俊・立花観二：ネキリムシ被害とD-Dに就て。植物防疫 6(1) 40-43. [スギ、ヒノキに施用。効果及び棄害。]
48. 小此木栄治：大和芋の肥料及び管理。農及園 27(6) 712-713. [D-D灌注による線虫防除を含む。]
49. 太田安澄：桑苗根瘤線虫に対するD-Dの効果について。蚕糸界報 61(720)21-23. [クロルピクリンより高い効果。]
50. 太田安澄：桑苗根瘤線虫のD-Dによる殺虫効果。日蚕雑 21(2/3) 140. [講要]
51. 斉藤 清：金魚草一代交配種の栽培と普及。農及園 27(9) 1017-1020. [ネマトーダの防除にふれる。]
52. 斉藤公一：果樹の忌地。農業技術研究 6巻1: 27-28, 32. [線虫によるイチヂクの忌地にふれる。]
53. 佐野利男：蚕の糸片虫病に関する研究（I）。日蚕雑 21(5/6) 298-301. [発生時期、病徴、寄生虫数、寄生時期、寄主脱出、形態、生態。]
54. 佐藤 隆・斉藤昭四郎（担当者）：大豆不作地（萎黄病発生地）改善に関する試験。昭26試験研究概報（山形農試普及資料三号）：109-110. [No. 52-55を参照。]
55. 佐藤 隆・戸田和男・斉藤昭四郎：大豆不作現象と2, 3の萎黄病防除試験（予報）。北日本病虫研報 3: 74-75. [D-D、クロルピクリン施用等。]
56. 渋谷正健：Studies on the varietal resistance of sweet potato to the root-knot nematode injury. 鹿児島大農紀要 1(1) 1-22. [抵抗性品種の根への線虫の誘引、寄主侵入後の線虫、巨大細胞の成長を調査。]
57. 清水 茂：蔬菜研究の現状と課題。農業技術 7巻3: 5-9. [線虫のD-Dによる防除を含む。]
58. 只野正志：線虫Rhabditis ikedaiの初期発生について。動雑 61(3/4) 80. [講要]
59. 只野 柳：位相差顕微鏡による線虫卵の観察。動雑 61(3/4) 80. [講要。Rhabditis sp.]
60. 滝元清透：花卉病害防除の年中行事（1）。植物防疫 6(1) 37-39. [カーネーションの根線虫病にD-Dが有効。]
61. 滝元清透：花卉病害防除の年中行事（2）。植物防疫 6(2) 79-81. [ヒヤシンスの球根線虫を含む。]
62. 滝元清透：花卉病害防除の年中行事（4）。植物防疫 6(4) 182-184. [菊の葉線虫病：病徴、病原、防除法（無線虫苗の使用、ホリドール散布、抵抗性品種）。]
63. 滝元清透：花卉病害防除の年中行事（5）。植物防疫 6(5) 226-228. [金魚草の根線虫病を含む。]
64. 滝元清透：花卉病害防除の年中行事（7・8）。植物防疫 6(7/8) 332-333. [ペゴニアの葉枯性線虫病を含む。]
65. 滝元清透：花卉病害防除の年中行事（9・10）。植物防疫 6(9/10) 381-382. [ケートの根線虫病。]
66. 田村市太郎：大豆の害虫に関する生態学的研究。関東東山農試、鴻巣、8+287 pp.,

- 12 pls. [サイズセンチウ p. 258.]
67. 田中伊之助：病害。In：本県の稲作改良技術（農業改良普及資料21号），長崎県経済部農業改良課、p. 86-97. [稲線虫心枯病対策を含む。]
68. 田中 勇：タバコ線虫病抵抗性について。日植病報 16(3/4) 161-162. [講要。抵抗性品種（RK70）への線虫の侵入、その後の発育。]
69. 田中 勇：タバコ線虫病抵抗性について。九州農業研究 9: 118. [RK70について。]
70. 田中 勇：線虫病予防のための2、3土壤消毒剤の効果範囲について。九州農業研究 10: 147-148. [D-D、クロルピクリン。]
71. 津軽承捷：大豆線虫の季節的消長と垂直分布について。北日本病虫研報 3: 72-73. [季節では8月上旬、深さでは5-10cmの間に多い。]
72. 津軽承捷：D-D及びChlorpicrin が大豆の生育収量に及ぼす影響。北日本病虫研報 3: 127-130. [同程度の効果。]
73. 渡辺正好：牛蒡の秋播栽培法。農及園 27(8) 903-906. [D-D剤による線虫防除を含む。]
74. 安尾正元：土壤の殺菌効果に就て。農及園 27(9) 1079-1080. [各種農薬の効果。海外の研究の紹介。]
75. 吉井 甫：線虫心枯病の冷水温湯浸の時期。農及園 27(12) 1356. [実用農業問答。]
76. Anon.：昭和26年度病害虫防除試験成績一覽表（殺虫剤の部）。北日本病虫研報 3: 173. (東北農業研究会報告 1: 21) [D-D：ラッキョウのネマトーダに実用価値、根瘤線虫に実用可能。]
77. Anon.：昭和二十七年大豆増産運動要綱。大豆情報（北海道大豆協会）6: 1-13. [ネマトーダ対策として輪作、窒素肥料多用、有機物施用。]
78. Anon.（鹿児島農試）：D・Dによる甘藷根腐線虫病防除試験。昭26業報：460-462. [謄写。良好な生育。小麦に薬害。]
79. Anon.（熊本農試）：粟不稔病防除試験。昭24業功：131-132. [DDT、BHC、冷水温湯浸。]
80. Anon.（熊本農試）：大豆病害虫分布調査。昭24業功：151-152. [大豆萎黄病を記録。]
81. Anon.（長崎農試）：D-Dによる甘藷害虫防除試験。昭25業功：177. [針金虫及びコガネムシ幼虫を対象。]
82. Anon.（東京農試）：ネマトーダ防除に関する試験。昭25業報：69-70. [D-D剤の薬量を試験。]

### 昭和28年 (1953)

1. 赤石行雄・関口昭良：苹果に寄生するNematodaについて。日植病報 18(1/2) 65. [講要。リンゴネコブセンチウの最初の記録。]
2. 朝倉 参（担当者）：苺線虫に対するホリドールの効果調査。愛知園試年報 昭27: 33-34. [被害株減少。]
3. 朝倉 参・伊藤克己（担当者）：苺線虫に対するホリドールの効果調査（清洲）。愛知園試年報 昭28: 82-83. [2000倍液6回散布で被害株なくなる。]
4. 知久武彦・宮下忠博：伊那地方に於ける大豆害虫の種類（予報）。北陸病虫研報 3: 59-62. [講要。Heterodera schachtiiは局部的。H. marioniは未確認。]
5. 深野 弘・横山佐太正：稲線虫心枯病灌漑水伝染に於ける時期並に量と発病との関係

日植病報 17(3/4) 177. [講要]

6. 深野 弘・横山佐大正：稻線虫心枯病々原線虫が灌溉水に混入する時期並に量と発病について。福岡農試研時報 5: 1-2. [被害を調査。]
7. 深野 弘・横山佐大正・西沢正洋：ホリドールの稻線虫心枯病予防効果について。九州農業研究 11: 75-77. [種籾消毒、苗代、本田での散布。植物防疫8(2)89, 1954に抄録。]
8. 福井重郎・鎗水 寿・飯島 鼎・田中 正・泉 正一：大豆の根瘤線虫 (*Heterodera marioni* (Cornu) Goodey) の防除に関する研究 第I報 D-Dの殺虫効果について。関東東山農試研報 4: 19-22. [クロルピクリンより高い効果。植物防疫 8(8) 367-368, 1954に抄録。]
9. 福井重郎・鎗水 寿：大豆の根瘤線虫 (*Heterodera marioni* (Cornu) Goodey) の防除に関する研究 (第II報) D-Dの持続効果について。関東東山農試研報 4: 23-26. [処理1年後は有効、2年後は初期のみ効果。植物防疫 8(8) 367-368, 1954に抄録。]
10. 後藤和夫・深津量栄：稻線虫心枯病に対する有機燐剤散布の効果。植物防疫 7(9) 311-313. [ホリドールの散布時期を検討。]
11. 後藤和夫・深津量栄：稻線虫心枯病に関する研究 第1報 本病の生態の観察。東海近畿農業研究 3/4: 28-31. [病原虫の圃場残存、潜在茎の問題、品種抵抗性。植物防疫 8(7) 312, 1954に抄録。]
12. 後藤和夫・深津量栄：稻線虫心枯病の多発環境の有無に関する現地調査。32回関西病虫研講要：[未見]
13. 萩原 十：ゴボウの秋播栽培法。農及園 28(1) 113-116. [ネマトーダの被害、D-D剤による防除を含む。]
14. 一戸 稔：根瘤線虫の研究に関する最近の動向。植物防疫 7(3/4) 104-107. [ネコブセンチュウの分類に関する研究を要約紹介。]
15. 一戸 稔：根瘤線虫 *Meloidogyne* spp. について。札幌農林学会報 39 卷3: 23-24. [講要。Chitwoodの研究の紹介。]
16. 一戸 稔：北海道に於ける根瘤線虫の形態学的知見。応動応昆合同大会 昭28: 7. [講要]
17. 一戸 稔：大豆線虫の寄生性について。北日本病虫研報 4: 80-82. [27種の植物を供試。]
18. 一戸 稔：大豆線虫 *Heterodera glycines* の植物寄生性について。北海道農試彙報 64: 113-124. [多種の植物根への線虫の侵入及び侵入後の発育を調査。]
19. 飯田 格：土壤燻蒸剤に関する2、3の実験。農及園 28(4) 537-538. [クロルピクリンとD-Dの殺菌力、拡散範囲を比較。]
20. 井上 巖：日本産 *Parachordodes* 属ハリガネムシの一種について。動雑 62(3/4) 117-118. [講要。日本未記録種。]
21. 井上 巖・福井玉夫：本邦産 *Gordius* 属ハリガネムシの1新種について。東京学芸大研報 4: 37-39. [青森・山梨県から *G. japonicus* を新種として記載。寄主は不明。]
22. 石倉秀次：四国に於ける大豆害虫相並びに被害状況。In: 日本に於ける大豆害虫の分布と害相 (桑山 覚編)。養賢堂、東京、p. 109-119, 1 pl. [コンリユウセンチュウは重要視の必要なし。]
23. 伊藤克己：名古屋近郊地帯の蔬菜栽培。農業技術 8卷6: 8-11. [ネマトーダの害は大。D-D、ホリドールによる防除が行われている。]
24. 金森泰治郎：十勝地方に於ける大豆線虫病に関する試験成績。北海道立農試十勝支場、30 pp. [大豆線虫と肥料三要素との関係、耕鋤並びに施肥の深淺と被害、輪作法と

発生との関係。]

25. 金森泰治郎：十勝地方に於ける大豆萎黄病の被害と耕種的防除法。北農 20 卷3: 91-100. [輪作、施肥法、抵抗性品種。]
26. 加納喜多雄・藤本克己：D-D使用による根切虫防除。日林関西講要 2: 105-108. [被害皆無に近くなる。]
27. 河合一郎：種籾の撰種と消毒。農及園 28(1) 191-193. [心枯線虫防除を含む。]
28. 河村貞之助：葉線虫が各種Parathion 並に駆虫剤中に於ける態度について。日植病報 18(1/2) 84. [講要。線虫の生存期間。]
29. 木本氏幹：胡瓜根線虫病に対するホリドールの効果。北日本病虫研報 4: 112-113. [根瘤着生は減少、収量は増加。]
30. 桐生知次郎・西沢正洋・水田隼人・山本 滋：稲心枯線虫病抵抗性品種に関する研究。農及園 28(8) 1001-1002. [発病程度による品種の群別、接種量と発病・収量。]
31. 近藤鶴彦：根瘤線虫の棲息密度の消長に関する研究 第2報 甘藷の早掘りが棲息密度に及ぼす影響。応動応昆合同大会 昭28: 7. [講要]
32. 近藤鶴彦：甘藷の根瘤線虫と防除。農業技術研究 7卷3: 15-17, 24. [症状、被害、防除(抵抗性品種、輪作)。]
33. 松原茂樹：蔬菜の作付計画とその注意。農及園 28(6) 732-734. [ネマトーダの害を強調。]
34. 松原茂樹：根菜類における連作の影響。園芸学会昭28秋研究要旨: 15. [講要]
35. 水戸野武夫：作物の病害虫に関する試験研究史。島根農試創立77周年記念報 1: 106-141. [桑線虫 p. 119]
36. 武笠耕三：ネマトーダ被害とその防除。農業北海道 5卷3: 1-3. [大豆萎病・線虫根瘤病の解説及び防除法。]
37. 武笠耕三・一戸 稔・金森泰次郎：十勝地方に於ける大豆萎黄病の被害と実態。札幌農林学会報 39 卷3: 25. [講要。発生面積、減収率、被害額等。]
38. 武笠耕三・一戸 稔・金森泰次郎：十勝地方に於ける大豆萎黄病の被害と実態。北日本病虫研報 4: 79-80. [豆類作付圃場の28-50%に発生。]
39. 武笠耕三・金森泰次郎：ネマトーダの対策：深耕と堆肥の効果。農業北海道 5卷6: 11-15. [大豆萎黄病発生圃場でも20~30cmの深耕と反当 400貫の堆肥施用で、線虫のいない場合と全く同じ収量。]
40. 二宮敬治：イチゴの促成栽培。農及園 28(2) 273-278. [芽線虫のホリドールによる防除を含む。]
41. 西沢正洋：稲線虫心枯病と稲小粒菌核病との関係について。日植病報 17(3/4) 137-140. [単独又は同時感染時の稲減収を比較。植物防疫 8(2) 86, 1954に抄録。]
42. 西沢正洋：ホリドールによる稲線虫心枯病の防除について。防虫科学 18(1) 1-6. [散布効果なし。苗根部浸漬のみ有効。]
43. 西沢正洋：稲線虫心枯病に対する抵抗性品種に関する研究(第6報)。九州農試彙報 1(3) 339-349. [交配組合わせ。発病の年変異。]
44. 西沢正洋：稲線虫心枯病に対する抵抗性品種に関する研究(VI) 抵抗性品種の交配組合わせに関する検討。日植病報 18(1/2) 66. [講要]
45. 西沢正洋：稲線虫心枯病に対する抵抗性品種。農業技術 8(8) 264-265. [発病しない品種でも線虫は存在。]
46. 西沢正洋・水田隼人：稲線虫心枯病に対する抵抗性品種に関する研究(第7報) 陸稲に於ける被害の検定について。日植病報 17(3/4) 174. [講要。陸稲にも寄生、被害を認める。]

47. 西沢正洋・山本 滋・水田隼人：稲線虫心枯病に対する抵抗性品種に関する研究（第7報）．九州農試彙報 2(1) 71-80. [接種量と発病及び収量との関係。植物防疫 8(1) 34, 1954に抄録。]
48. 西沢 務：植物寄生線虫 *Aphelenchoides fragariae* 及び *A. oryzae* の培養法について．応応昆虫合同大会 昭28: 19. [講要。No. 54-14を参照。]
49. 尾形藤治：D-Dによる土壤中の寄生虫仔虫並びに中間寄主動物の殺滅試験成績．動雑 62(3/4) 126. [講要。豚の糞糶虫 *Strongyloides ransoni* にも有効。]
50. 小川正行：高知県に於ける蔬菜の主要病害防除について．植物防疫 7(7) 212-214. [D-D剤の効果、普及状況を含む。]
51. 岡本 弘：4月の普通作物の病害防除．農及園 28(4) 573-576. [線虫心枯病防除を含む。]
52. 岡本 弘：8月の普通作物の病害防除．農及園 28(8) 1033-1036. [線虫心枯病にふれる。]
53. 尾崎重夫・岩瀬茂基・都築 仁（担当者）：人参根瘤線虫病に対する薬剤効果試験．愛知農試年報 昭26: 14. [D-D、クロルピクリン、石灰窒素、青酸ソーダ+硫酸アンモニア。]
54. 尾崎重夫・都築 仁（担当者）：人参線虫病防除に関する試験．愛知農試年報 昭27: 21. [D-D、ホリドール。]
55. 桜井 清・西島 浩：北海道に於ける大豆害虫相並びに被害状況．In: 日本に於ける大豆害虫の分布と害相（桑山 覚編）．養賢堂、東京、p. 29-44, 1 pl. [ダイズセンチュウ、コンリユウセンチュウを含む。]
56. 佐藤公一・七条寅之助：無花果の跡地試験成績．園学雑 22(3) 163-166. [「生育不良は主としてネマトーダの寄生による」]
57. 佐藤 隆・戸田和男：大豆萎黄病に対する石灰窒素の効果について．北日本病虫研報 4: 77-79. [効果あり。]
58. 関谷一郎：東北地方に於ける大豆害虫相並びに被害状況．In: 日本に於ける大豆害虫の分布と害相（桑山 覚編）．養賢堂、東京、p. 81-94. [ダイズセンチュウ、コンリユウセンチュウを含む。]
59. 末永 一：九州地方に於ける大豆害虫相並びに被害状況．In: 日本に於ける大豆害虫の分布と害相（桑山 覚編）．養賢堂、東京、p. 121-129. [ダイズセンチュウの分布を記録。]
60. 杉山章平：大豆月夜病に関する試験成績．北陸病虫研報 3: 51-52. [講要。石灰窒素、堆肥、ホリドール施用、輪作、抵抗性品種。]
61. 杉山章平・飯島尚道：水稻センチュウの侵入時期．北陸病虫研報 3: 42-43. [講要]
62. 杉山章平・飯島尚道・気賀沢和男：有機燐剤による水稻センチュウ防除について．北陸病虫研報 3: 46-49. [講要。ホリドール。]
63. 杉山章平・気賀沢和男：稻心枯センチュウによる稲被害の品種間差異．北陸病虫研報 3: 43-46. [講要。26品種中6品種が強。]
64. 只野 柳：*Rhabditis* sp. の卵の初期卵階に及ぼすLiClの作用．動雑 62(3/4) 110 [講要]
65. 高橋三郎・小針幸省：ホリドールによる稲線虫心枯病 (*Aphelenchoides oryzae* Yokoo) 防除試験（予報）．日植病報 17(3/4) 179-180. [講要。苗浸漬、苗代期撒布。]
66. 田村市太郎：関東地方に於ける大豆害虫相並びに被害状況．In: 日本に於ける大豆害虫の分布と害相（桑山 覚編）．養賢堂、東京、p. 69-80. [ダイズセンチュウ：最も重要視されねばならぬものの一。]

67. 田中一郎：線虫による2種の大豆病害。農及園 28(7) 827-831. [大豆萎黄病、根瘤線虫病の分布、病原線虫、被害、防除等。]
68. 田中 勇：根瘤線虫の水平移動について。九州農業研究 11: 47-48. [30日間で半径1尺5寸-2尺(45-60 cm)内外。葉たばこ研究 23: 50, 1959 に抄録。]
69. 田中 勇・古殿幸雄：九州タバコ圃場における土壤線虫の垂直分布調査。九州農業研究 12:104-106. [深度別、季節別総線虫数の変化。]
70. 田杉平司：作物の病気と防除の技術：稲・麦・甘藷・馬鈴薯篇。農業評論社、東京、486 pp. [稲心枯線虫病 p.172-174、小麦の殺実線虫病 p.303-307、甘藷の根瘤線虫病 p. 342-347。]
71. 柄内吉彦：試験調査の成績により農業経営上特に参考となる事項。北農 20 卷3: 53-75. [十勝地方に於ける大豆萎黄病の被害実態と耕種的防除法を含む。]
72. 津軽承捷：大豆線虫は防げるか。青森農業 4卷3: 15-18. [ダイズシストセンチュウの生態、被害、防除（輪作、抵抗性品種、合理的施肥、薬剤施用：D-D、クロルピクリン）。]
73. 常谷幸雄・富永久雄：クロールピクリンによる根瘤線虫被害富士土壌の消毒と白菜の栽培。農業 836: 32-33. [ゴボウ、キンシウリの後作として。]
74. 山田 濟・塩見正保・山本秀夫：稲の線虫心枯病俗称「ホタルイモチ」に関する研究 第三報 病原線虫の越冬及稲の栽培環境と発病との関係。岡山農試臨時報 48: 27-36. [野外の稲藁では越冬まれ。稲穂中に存在。朝出61号は抵抗性。畑苗代は水苗代に比べ、田植えは遅いほど、1株の苗本数が多いほど多発。]
75. 横尾多美男・田中 勇：たばこ圃場にて見られる土壤線虫一種について。日植病報 18(1/2) 60. [講要。No. 54-62を参照。]
76. 米内山泰介：小型人参の周年栽培。農業 841: 46-48. [ネマトーダの被害があると商品価値なし。]
77. Anon. (福岡農試)：稲線虫心枯病に関する試験研究。昭26業年: 77-78. [品種の抵抗性、種子消毒他。]
78. Anon. (福岡農試)：稲線虫心枯病に関する研究。昭27業年: 146-154. [播種期の移動、ホリドール撒布と発病他。]
79. Anon. (神奈川農試)：麦とびむしもどき防除試験。農事試験成績 82 病虫部: 23-24. [昭25成績。D-Dの土壤灌注が効果あり。]
80. Anon. (熊本農試)：粟不稔病に対する粟品種の抵抗性検定試験。昭26業報: 165. [謄写。5品種を比較。]：
81. Anon. (宮崎農試)：甘藷根線虫病に関する試験(昭和24年)。昭24・25業功: 27-28. [形態、名称 (*Pratylenchus pratensis* と同定)、寄主植物等。]
82. Anon. (宮崎農試)：甘藷根線虫病に対する薬剤効果試験(昭和24年)。昭24・25業功: 28-29. [D-Dの効果をクロルピクリンと比較。]
83. Anon. (岡山農試)：稲の線虫心枯病「ホタルイモチ」に関する試験。昭25・26業功: 13-14. [昭25成績。No. 53-74を参照。]
84. Anon. (岡山農試)：稲の線虫心枯病「ホタルイモチ」に関する試験。昭25・26業功: 67-68. [昭26成績。種籾消毒。]
85. Anon. (山形農試)：大豆不作地に関する調査。昭26業年: 670-674. [線虫、ネムグリバエの被害が大。]
86. Anon. (山形農試)：大豆不作地(萎黄病発生地)改善に関する試験。1. 肥料試験 2. 石灰窒素施用試験 3. 土壌処理試験 4. 播種期試験 5. 豆科作物栽培試験。昭26業年: 657-661. [新庄原種農場成績。]

## 昭和29年 (1954)

1. 藍野祐久：林業害虫とその駆除剤。林業技術 147: 11-16, 21. [D-Dを含む。]
2. 円城寺定男：秋そさいの病虫防除。植物防疫 8(8) 348-353. [D-D、クロロピクリン消毒。追肥による線虫被害軽減。]
3. 後藤重喜：甘藷根腐線虫病の発病度と諸要因の関係。土壤の温度及び湿度。九州農業研究 13: 15-16. [降雨量とは関係少なく、地温と正の相関。]
4. 後藤重喜：甘藷根腐線虫病の発病度と諸要因の関係。品種及び移植の時期。九州農業研究 14: 220-222. [7品種の比較。遅植ほど被害少ない。]
5. 萩原 十・田坂耕一郎・沢地信康：前作トマトが大根の生育に及ぼす影響。東京農試 10回成績発表会報: 16-22. [謄写。後作大根の成績不良はネマトーダが原因。D-D処理が効果的。]
6. 萩原 十・田坂耕一郎・沢地信康：前作トマトが大根の生育に及ぼす影響。園芸学会昭29春研発表要旨: 16. [講要]
7. 飛高義雄：別府附近の温泉熱利用の作付体系。In: 蔬菜高度輪栽法：栽培と作付体系(杉山直儀・松原茂樹編)。朝倉書店、東京、p. 156-161. [温泉熱利用のガラス室のネマトーダ防除：夏期に高温泉を流しこむ。]
8. 平野伊一：大阪港の植物検疫史(2)。大阪植防 3(通巻30):169-189. [1927, 1937年に線虫を1回ずつ発見。]
9. 一戸 稔：線虫における「寄主と寄生虫の関係」についての一考察。北農研究抄報 1: 25-26. [講要]
10. 一戸 稔：本邦未記録線虫 *Heterodera major* について。北日本病虫研報 5: 83. [千葉県から麦のシストセンチュウを発見。]
11. 井上 巖：カマキリに寄生するハリガネムシ (*Chordodes*) の生活史特にその感染経路についての概報。動雑 63(11/12) 481-482. [講要。C. japonensis.]
12. 伊藤一雄：樹病講座 2。林業技術 147: 22-29. [線虫病を含む。外国文献の紹介が中心。新潟のキリの線虫病に言及。]
13. 伊藤武夫：シュロの立枯病にネマトーダが一役？ 森林防疫ニュース 30:343-344. [ネコブセンチュウを発見。]
14. 岩井茂松：キク栽培上の問題点。農業技術研究 8巻4: 8. [線虫性葉枯病を含む。]
15. 弥富喜三・西沢 務：草莓の線虫及び稲心枯線虫の培養について。応動 19(1) 8-15. [*Alternaria* 属菌が最も好適。線虫の病原性は不変。]
16. 弥富喜三・西沢 務：草莓から検出された新線虫。昭29応動応昆合同大会講要: 4. [講要]
17. 片山貞吾・片野恒雄・平松 寛・中野昭信(担当者)：水稻線虫心枯病に対する水稻品種間罹病差異に関する試験。和歌山農試年報 昭28: 19. [4品種は発病せず。]
18. 片山貞吾・片野恒雄・平松 寛・中野昭信(担当者)：水稻線虫心枯病に対する施肥試験。和歌山農試年報 昭28: 19. [「N倍量区は発病率高く、N欠K倍量区は何れも発病率が低い」]
19. 片山貞吾・片野恒雄・平松 寛・中野昭信(担当者)：水稻線虫心枯病に対する施肥関係試験。和歌山農試年報 昭28: 19. [無肥料区は著しく発病が多い。]
20. 片山貞吾・高岡正道・片野恒雄・平松 寛(担当者)：蔬菜類の根瘤線虫病防除試験。和歌山農試年報 昭27: 43-45. [ホリドール、EPN剤併注。]
21. 河村貞之助：葉線虫の有機燐剤並に人体駆虫剤に於ける態度について。千葉大園芸学報 2: 8-16. [ホリドールの殺線虫効果試験。]

22. 河村貞之助：線虫に関する新しい問題。農業 1巻7: 10-14. [菜線虫、ネコブセンチュウの被害、防除。]
23. 河村貞之助・中川郁郎：根瘤線虫に対する有機燐剤並にHexylresorein の作用について。日植病報 18(3/4) 186. [講要。後者は殺線虫力なし。パラチオンの土壤吸着を含む。]
24. 河村貞之助：高度輪栽と病害。In: 蔬菜高度輪栽法：栽培と作付体系(杉山直儀・松原茂樹編)。朝倉書店、東京、p. 41-51. [線虫も含む。]
25. 川島嘉内・松本利雄：薬用人参の線虫に対するD-Dの効果について。北日本病虫研報 5: 159-161. [クロルピクリンより高い効果。]
26. 桐生知次郎：水害に伴った稲の病害。農及園 29(1) 233-236. [稲線虫心枯病を含む。]
27. 北沢喜太郎(担当者)：大豆線虫と施肥法との関係試験。昭27・28害虫防除に関する試験成績報告(長野農試):36-39. [線虫寄生数は硫安施用区より石灰窒素施用区が少ない傾向。無堆肥区は寄生数多い傾向。線虫寄生数と根瘤付着数に逆比例の関係。]
28. 北沢喜太郎(担当者)：大豆線虫被害と窒素肥料施肥法との関係試験。昭27・28害虫防除に関する試験成績報告(長野農試): 175-176. [「萎黄症状は線虫寄生数の如何に拘わらず堆肥と石灰窒素を与えたものには発生しなかった」]
29. 近藤鶴彦：根瘤線虫に対する作物の抵抗性とその利用。農業千葉 8巻12: 11-14. [寄生性の比較、抵抗性品種の利用価値、品種の育成と問題点(主にカンショ)。]
30. 近藤鶴彦：根瘤線虫に対する甘藷の耐虫性。農業技術 9巻9: 28-29. [耐虫性による品種の分類。]
31. 近藤鶴彦・三枝敏郎：根瘤線虫の寄生性と分類に関する一・二の知見。日植病報 18(3/4) 189. [講要。サツマイモネコブ、キタネコブセンチュウ。]
32. 真木 胖・村上真一：大豆根線虫病に対するD-Dの効果。愛媛農試試験研究速報 2: 26-27. [クロルピクリンと同程度の効果。]
33. 松原茂樹：蔬菜の忌地はどうして起るか。農業技術研究 8巻9: 51. [ゴボウのネマトーダによる忌地を含む。]
34. 松原茂樹：蔬菜の種類と作付体系について。In: 蔬菜高度輪栽法：栽培と作付体系(杉山直儀・松原茂樹編)。朝倉書店、東京、p. 13-24. [病虫害、忌地とネマトーダを含む。]
35. 松岡匡一：暖地用緑肥作物としてのクロタラリアの栽培。農及園 29(7) 890-892. [対抗植物としての記述はない。]
36. 武笠耕三：農作物に対する有害動物への関心。北農 21(4) 109-111. [線虫の簡単な解説を含む。]
37. 二宮敬治：高冷地育苗による苺の早出し栽培法。農及園 29(7) 893-898. [苺線虫防除：育苗中2・3回ホリドール1000倍液を散布。]
38. 西沢 務(担当者)：稻心枯線虫に関する試験。静岡農試業報 昭28: 283-284. [人工培地、県内分布。]
39. 西沢 務：稻心枯線虫の学名と寄生性について。中部地区農林学会報 6: 2-3. [未見]
40. 西沢 務：植物寄生線虫とその防除。農業技術研究 8巻9: 40-43, 2 pls. [根瘤線虫、大豆線虫、根ぐされ線虫、稻心枯線虫他。]
41. 西沢 務：線虫の生態。農業技術研究 8巻9: グラビア(2 pls.) [ネコブセンチュウ、コムギツブセンチュウ、キクハガレセンチュウの被害、生活史。]
42. 小川正行：ペーパーハウス栽培の果実類防除法。農及園 29(3) 403-407. [ナス、

- キュウリ、トマトの一部でD-Dを使用。]
43. 小此木栄治：埼玉県における蔬菜輪作様式。In: 蔬菜高度輪栽法：栽培と作付体系（杉山直儀・松原茂樹編）。朝倉書店、東京、p. 86-93。【ヤマトイモの線虫被害の回避、D-Dによる防除。】
44. 三枝敏郎：根瘤線虫とカリウムとの関係。植物防疫 18(4) 157-160。【Oteifa (1951, 52, 53) の研究の紹介。】
45. 三枝敏郎：本邦産植物線虫。Nagaoa 4: 1-11。【ネコブ、ネグサレセンチュウ等の解説。】
46. 三枝敏郎：麦類に寄生する *Heterodera major* の被害と生態に関する一・二の知見。日植病報 19(1/2) 91-92。【講要。土壌における垂直分布、季節的消長等。】
47. 佐野三千三・市川辰也：Folidor-E605による桑樹根瘤線虫防除に関する研究。静岡蚕試業報 14: 39-48。【謄写。土質と寄生との関係、寄生時期、桑苗の消毒（石灰窒素、ホリドール、温湯処理）、土壌の消毒（D-D、二硫化炭素、ホリドール）、桑樹の生育に及ぼす影響。】
48. 佐藤 隆・戸田和男：大豆萎黄病に対する土壌消毒剤の併用効果について。北日本病虫研報 5: 90-92。【D-Dと石灰窒素が高い効果。】
49. 篠原捨喜：静岡県下の作付様式。In: 蔬菜高度輪栽法：栽培と作付体系（杉山直儀・松原茂樹編）。朝倉書店、東京、p.101-106。【タバコの作付増により線虫増加。】
50. 白浜賢一：蔬菜と病害虫：5月の巻。植物防疫 8(5) 228-231。【ゴボウのネコブセンチュウをD-Dで防除。】
51. 白浜賢一：蔬菜と病害虫：6月の巻。植物防疫 8(6) 266-267。【ニンジン圃場のD-D処理。同種子の有機水銀剤浸漬。】
52. 杉山直儀：蔬菜の忌地の問題。In: 蔬菜高度輪栽法：栽培と作付体系（杉山直儀・松原茂樹編）。朝倉書店、東京、p. 25-31。【ゴボウの忌地の原因はネマトーダ。D-Dによる防除。】
53. 只野 柳・只野正志：線虫 *Rhabditis ikedai* TADANO の雌雄同体について。動雑 65(11) 393-395。【系統により性比が異なる。雌雄同体で自家受精する系統がある。】
54. 只野 柳・只野正志：遠心分離した *Rhabditis* sp. 初期卵の卵割特に星状体と卵割面に関係深い顆粒について。動雑 63(314) 164。【講要】
55. 高木信一：線虫研究の問題点。農業技術研究 8巻8: 41-43。【学名、分類形態学、防除、被害の把握、人工培養、密度推定。】
56. 高岡市郎：相談室。葉たばこ研究 3: 125。【D-Dの使用法。】
57. 武末克哉 他2名（担当者）：ソサイネマトーダ防除試験。山口農試業年 昭27: 27。【ナスにホリドール、D-D、石灰窒素施用。】
58. 田中 勇：根瘤線虫病に対するタバコ品種の抵抗性について。宮崎植防協会誌 1: 77-79。【未見。No. 54-67 を参照。】
59. 田中 勇：根瘤線虫病に対するタバコ品種の抵抗性について。日植病報 18(3/4) 159。【講要】
60. 田中 勇：九州タバコ産地における土壌線虫の垂直分布について。応動応昆合同大会 昭29: 19。【講要】
61. 田中 勇：タバコ線虫病に関する研究 第5報 土壌中の線虫の垂直分布について。鹿児島たばこ試報 9: 41-57, 10 Tab., 5 pls. 【九州各地のタバコ畑のネコブセンチュウの垂直分布を深さ20寸（約60cm）まで調査。】
62. 田中 勇：タバコ線虫病に関する研究。タバコ畑に見られる土壌線虫の一種について（予報）。鹿児島たばこ試報 9: 59-63, 1 pl. 【この論文で *Tetylenchus nicoti* -

- ana Yokoo et Tanaka (新種) を記載。その後 Rotylenchulus 属に移され (No. 67-81 を参照)、現在は R. reniformis のシノニムとされている (Dasgupta et al., Proc. helminth. Soc. Wash. 35(2) 169-192, 1968)。
63. 田中 勇・津曲彦寿: タバコ線虫病に関する研究 第2報 根瘤線虫 (Heterodera marioni (Cornu) Goodey) の初期感染と D-D 及び クロルピクリンによる土壤消毒の効果。鹿児島たばこ試報 9: 1-16, 2 pls. [タバコの初期生育、薬剤の効果範囲。]
64. 田中 勇・津曲彦寿: タバコ線虫病に関する研究 第3報 タバコにおける根瘤線虫 (Heterodera marioni (Cornu) Goodey) の根瘤形成とその病徴。鹿児島たばこ試報 9: 17-26, 6 Pls., 口絵。[寄主侵入・寄生、地上部病徴、タバコ収量及び品質低下。]
65. 戸部敬哉: 臭化メチルと各種ハロゲン化炭化水素の混液の沸点と殺菌力に関する研究。日植病報 18(3/4) 171。[講要。EDB他。]
66. 椿 啓介: Studies on the Japanese Hyphomycetes (I) Coprophilous group. Nagaoa 4: 1-20, 2 pls. [線虫捕食菌 Arthrobotrus oligospora の馬糞からの記録を含む。]
67. 津曲彦寿・田中 勇: タバコ線虫病に関する研究 第4報 タバコ線虫病に対するタバコ品種 (遠州葉、ブライトエロー、RK70) の抵抗性の差異について。鹿児島たばこ試報 9: 27-40, 4 pls. [RK70は抵抗性。]
68. 渡辺乙彦: 海岸砂地造林地のネキリムシの駆除試験。森林防疫ニュース 25:17-18。[D-D、クロルピクリン、二硫化炭素を試験。]
69. 山田 濟: 稲の線虫心枯病の防除法。植物防疫 8(3) 110-111。[冷水温湯浸法、風呂湯浸、温湯浸、硝酸銀浸法、耕種的方法。]
70. 山田 濟: 水稻種籾の消毒、特に線虫心枯病について。農及園 29(4) 499-502。[種籾消毒法 (ホルマリン、水銀剤、硫酸銅、温湯浸)、分布、被害 (平均10%の玄米減収)、籾中の線虫、線虫の移動。植物防疫 8(7) 313, 1954 に抄録。]
71. 山口弘孝・小泉美紗子: ナメクジ寄生線虫 Rhabditis ikedai n.sp. の二、三薬物特に駆虫剤に対する感受性等について (予報)。日薬理誌 50(5) 149 §-150 §。[講要。線虫名は No.50-31 を参照。新種の記載は含まず。]
72. 山本重雄: 菊の葉枯線虫病。植物防疫 8(11) 489-492。[病徴、病原線虫 (Aphelenchoides ritzemabosi)、防除法 (バラチオン剤)。]
73. 柳 武・関谷一郎・早河広美・呉羽好三: 大豆線虫に関する研究。関東病虫研報 1: 19-21。[堆肥と窒素肥料の多用によって萎黄病を抑制。]
74. Anon. (福井農試): 甘藷根瘤線虫の防除に関する試験。昭28業報: 病-43-46。[謄写。殺虫剤 (シストックス、ベストックス、モノフルオール酢酸ナトリウム) による防除。]
75. Anon. (福岡農試): 稲線虫心枯病に関する研究。昭28業年: 223-234。[有機燐剤、有機塩素剤による種子処理、本田散布。]
76. Anon. (福島農試): 薬用人参ネマトダに対する D-D の効果試験 (28年度成績)。昭25-28業年: 341-343。[謄写。D-D、クロルピクリンが優れる。]
77. Anon. (鹿児島農試): 床土消毒試験。昭28業報: 228-230。[謄写。温泉の湯 (59°C) 利用による線虫防除。]
78. Anon. (宮崎農試): 線虫に関する試験。自昭24至25業功: 125-126。[川南分場成績。茶園土壤にクロルピクリン、D-D、石灰窒素、堆肥施用。抵抗性品種検定。]
79. Anon. (宮崎農試): 甘藷根腐線虫病に関する試験 (昭和26、27年度)。自昭26至27業功: 34-37。[寄主植物、抵抗性品種、発病と土壤温湿度、クロルピク

リンによる土壤消毒、発病と肥料。]

80. Anon. (長野農試) : 長野県における大豆栽培の実態. 長野農試報 19: 1-35. [不作の原因の一として線虫を含む害虫をあげる。]
81. Anon. (栃木農試) : 稲線虫心枯病防除試験. 昭27業年: 101-103. [ホリドール散布、耐病性検定。]
82. Anon. (栃木農試) : 薯蓣ネマトーダ防除試験. 昭27業年: 103. [D-Dは効果あり。種薯のホリドール処理は効果なし。]
83. Anon. (山形農試) : 大豆不作地改善に関する試験. 昭27業年 新庄原種農場の部: 42-47. [石灰窒素施用試験、大豆尿素散布試験、薬剤による大豆不作防止試験。]

### 昭和30年 (1955)

1. 深野 弘・横山佐大正 : 水稻品種ツルギバに於ける稲線虫心枯病の被害について. 九州農業研究 16: 114. [病斑は出ないが減収。]
2. 後藤重喜 : 甘藷根腐線虫病の発病度と諸要因との関係 第3報 肥料要素及び堆厩肥. 九州農業研究 16: 119. [堆厩肥多用区ほど発病度が低い。]
3. 広野光男 (担当者) : 根瘤線虫防除試験. 愛知農試年報 昭29: 57. [茶樹の苗にD-D、ホリドール施用。]
4. 一戸 稔 : 大豆線虫における世代数. 札幌農林学会報 39巻4: 49-50. [講要。発育限界温度10°C、有効積算温度 313.0日度、年3世代。]
5. 一戸 稔 : わが国に於ける根瘤線虫の2種. 応動 20(1) 75-82. [Chitwoodの分類手法によって *Meloidogyne incognita acrita*, *M. hapla* を記載。]
6. 一戸 稔 : 根瘤線虫の種類について. 昭30応動応昆合同大会: 11. [講要]
7. 一戸 稔 : 草莓の線虫について. 札幌農林学会報 39巻5: 28-29. [講要。病徴、病原線虫、発生状況。]
8. 一戸 稔 : 接木による大豆線虫の寄生性に関する実験. 北日本病虫研報 6: 53-56. [ライマピーンと菜豆。]
9. 一戸 稔 : 泥炭地帯に発生した大豆線虫による大豆被害の調査. 日生態誌 5(1) 23-26. [客土による発生例。大豆の生育とシスト密度の関係を調査。]
10. 一戸 稔 : 大豆線虫の形態並びに生態に関する研究. 北海道農試報 48: 1-64, 4 pls. [研究史、形態、生態 (生活史、年間世代数、寄主植物への影響、寄主範囲。小麦に寄生する *Heterodera major* (ムギシストセンチウ) の分布、形態、病徴、寄主植物を含む。]
11. 一戸 稔 : 大豆線虫の棲息密度に関する研究 1. 大豆の被害と寄生雌成虫数についての一観察. 北海道農試彙報 68: 67-70. [生育不良株の雌成虫は良好株より少数。]
12. 一戸 稔・浅井三男 : 大豆萎黄病抵抗性に関する2、3の観察. 北農研究抄報 2: 51. [講要]
13. 井上 巖 : 本邦産ハリガネムシ (Gordiaceae) の既知種概要並に *Parachordodes* 属1新種について. 日生物地理学会報 16-19 (日本動物相の研究) p. 31-35. [*Parachordodes okadai* (埼玉・長野県からの新種。寄主不明) の記載および次の種類の寄主・産地・形態をまとめる. *Gordius fulgur*, *G. japonicus*, *P. lestici*, *Paragordionus kawamurai*, *Chordodes silvestri*, *C. fukuii*, *C. japonensis*.]
14. 井上菅次 : 本年の農業需給の見通し. 植物防疫 9(5) 183-185. [D-Dは6000ポンド。]

15. 石川正示：満州大豆の近ごろ。5 pp., 自刊(?) [昭和29年頃までの状況。「康徳」は線虫に特に感受性が強いという欠点があるので……。]
16. 弥富喜三：応用動物学25年：線虫。応動 20(1/2) 33-35. [線虫研究史の概観。]
17. 弥富喜三：柑橘の拡大性衰弱病(仮称)について。柑橘 7巻10: 36-39. [アメリカの *Radopholus similis* による spreading decline の紹介。]
18. 上遠 章：農薬の解説—燻蒸剤。植物防疫 9(10) 431-433. [クロルピクリン等。]
19. 上遠 章：農薬の進歩発達を顧みて。農業 868: 46-56. [D-D：一部で実用化]
20. 河村貞之助：スリップスに寄生する線虫の一例報告。植物防疫 9(4) 145-146. [線虫未同定。]
21. 河村貞之助：2、3の有機殺虫剤及び人体駆虫剤の殺線虫力についての観察。日植病報 19(3/4) 158. [講要。ネコブセンチュウを供試。]
22. 河村貞之助：殺線虫剤殺菌剤の一例について。日植病報 19(3/4) 185. [講要。N-244剤をネコブセンチュウ、白絹病菌に施用。]
23. 河村貞之助：園芸作物に被害の多いネマトーダとその被害。園芸日本 2巻4:42-45. [種類、症状の見分け方、防除(D-D、クロルピクリン)。]
24. 河村貞之助・寺田伊斗子：日本産葉線虫の寄主植物補遺。柄内・福土両教授還暦記念論文集、p. 36-40, Pl. I-II. [木本を含む15種を新奇主として屋外から記録。接種試験結果も含む。]
25. 桐生知次郎・水田隼人・栗田年代：早期栽培稲の病害発生相調査成績。農及園 30(2) 329-330. [稲線虫心枯病発生。]
26. 木谷清美・土山哲夫：地域別病害虫の諸問題：四国農試の諸問題。植物防疫 9(1) 12-15. [稲線虫心枯病を含む。]
27. 小林研三：稲線虫心枯病について。研農復刊 3(5) 67-71. [熊本県で4000町歩に発生。生態、防除法。]
28. 隈元吉照：稲の病害。農業 2巻8: 37-38. [線虫心枯病：ホリドール1000倍液を散布。]
29. 正木十二郎・安尾 俊：地域別病害虫の諸問題：関東々山における病害虫研究上の諸問題。植物防疫 9(2) 49-52. [大豆線虫、大豆根瘤線虫、線虫心枯病を含む。]
30. 松本 蕃：北海道における大豆栽培推移と害虫防除。植物防疫 9(6) 224-227. [十勝地方のダイズシストセンチュウにふれる。]
31. 松岡匡一：クロタラリア品種の特性に関する研究(1) 緑肥及び飼料用栽培について。日作紀 23(3) 229-230. [講要。対抗植物としての記述はない。]
32. 松岡匡一・川上剛志：クロタラリア品種の特性に関する研究(2) 採種栽培について。日作紀 23(3) 229-230. [講要]
33. 武笠耕三：ドブネズミとネマトーダ。農業北海道 7巻10: 41-43. [ネズミおよび線虫害(ダイズ萎黄病、線虫根瘤病)の被害・防除法の解説。]
34. 武笠耕三：ネマトーダと対策。農業朝日 10 巻7: 41-43. [ネコブ、シストセンチュウの解説および防除法。]
35. 武笠耕三・一戸 稔：作物による大豆萎黄病防除試験。大豆害虫防除法確立に関する研究報告(北海道農試 昭29 応用研究成績)：20-24. [謄写]
36. 二宮敬治(担当者)：苺線虫駆除試験。静岡農試業報 昭29：150-152. [ホリドール、パラチオン、ペストックスによる防除。]
37. 西沢 務・弥富喜三：Lyophile法による線虫生体標本の保存。応動応昆合同大会 昭30：33. [講要]
38. 西沢 務・弥富喜三：稻心枯線虫の学名と寄生性について。日植病報 20(1) 33.

- [講要。Aphelenchoides besseyiと同定し、イチゴへの寄生性を確認。]
39. 西沢 務・弥富喜三：草莓に寄生するNothotylenchus acris Thorne について。応動 20(1/2) 47-55. [形態、病徴、棲息部位、伝搬方法、パラチオン剤散布効果、接種試験。]
40. 岡田富信：陸稲線虫(仮称) (Heterodera sp.) の形態について。応動応昆合同大会 昭30: 11. [講要]
41. 岡田富信：ニンジンに於ける根瘤線虫の経過習性に就いて。宇都宮大農学報 2(3) 301-315. [キタネコブセンチュウ。]
42. 尾崎幸三郎：土壤中の殺虫剤による葉害とその残留(II)。植物防疫 9(6) 241-254. [D-Dの土壤微生物に及ぼす影響。Bollen (1954) の研究の紹介。]
43. 三枝敏郎：線虫類の問題点。植物防疫 9(4) 134-136. [線虫の概説と研究、防除上の問題点を指摘。]
44. 三枝敏郎：我が国農業に重大な被害を及ぼす線虫類とその防除法。農及園 30(8) 1030-1034. [ネコブセンチュウ、ネグサレセンチュウ等の解説、および防除法。]
45. 三枝敏郎：根瘤線虫被害圃場に於ける木酢液の効果。日植病報 19(3/4) 185. [講要。効果あり。]
46. 三枝敏郎：ベールマン漏斗法による二・三の着重点と検出線虫数との関係。日植病報 20(2/3) 107-108. [講要]
47. 三枝敏郎：土壤線虫の分布及びベールマン漏斗法による検出法。植物防疫 9(12)495-497. [土壌量、水温、浸漬時間、土壌水分について検討。]
48. 桜井 清：農薬による土壤害虫の防除。農及園 30(1) 202-206. [ハリガネムシ、コガネムシ幼虫にD-D有効。線虫にも効果あるか経済上及び使用法に難点。]
49. 佐藤康男：三浦大根の特性と栽培法[1]。農及園 30(9) 1185-1188. [果菜類を前作とするとネマトーダの被害を受けやすい。輪作による防除。]
50. 関 道生：柑橘根介殻虫の被害と防除。農薬 2巻1: 12-18. [D-Dが効果あり。]
51. 篠原捨喜・竹樋忠雄・河村光雄：糸瓜蔓割病耐病性品種の育種研究(第2報)罹病圃場に於ける単一品種の選抜育種。育種 5(3) 30-44. [ネコブセンチュウにより枯死する株がある。]
52. 白浜賢一：蔬菜の病害虫。農薬 2巻2: 32-35. [苗土の消毒：ネコブセンチュウ、ネグサレセンチュウにクロルピクリン、D-D。]
53. 白浜賢一：蔬菜の病害虫。農薬 2巻3: 35-39. [根瘤線虫(ネマトーダ)の防除：D-Dの施用法を図解。]
54. 末永 一・西沢正洋：地域別病害虫の諸問題—九州における病害虫防除・試験研究の諸問題。植物防疫 9(1) 9-12. [稲の線虫、甘藷の線虫：D-Dはつかわれていない。馬鈴薯にネグサレセンチュウ多発。]
55. 只野正志・只野 柳：Rhabditis ikedai Tadano の培養に就いて。岐阜大学芸研報(自然科学) 1(3) 271-279. [桑葉粉末、大豆、肉エキス等を用いた培地での生存、増殖。]
56. 只野 柳・只野正志：On the elongation and the rotation of the spindle, and the different behavior in each of the amphiaser, in relation to the cleavage-plane. 岐阜大学芸研報(自然科学) 1(3) 281-287. [卵割過程を観察。]
57. 只野 柳・只野正志：On the influence of lithium chloride upon the eggs of a nematoda, Rhabditis sp., at the one cell stage and the behavior of the suppressed blastomere. 岐阜大学芸研報(自然科学) 1(3) 289-298. [塩化リチウムの卵割への影響を卵割のステージを追って観察。]

58. 竹内輝久：大和いものエポネマトウダの防除。植物防疫 9(4) 175. [質疑応答。ネコブセンチュウのD-Dによる防除。]
59. 田村市太郎：地域別病害虫の諸問題：北陸における虫害問題の展望。植物防疫 9(1) 4-6. [スイトウセンチュウ(イネシガラセンチュウ)にふれる。]
60. 田中一郎：病害虫発生の特異性(昭和29年度の作況と技術的反省)。北農 22(1) 21-27. [大豆線虫及び根瘤線虫をふくむ。]
61. 田中一郎：地域別病害虫の諸問題—北海道における病虫害に関する問題。植物防疫 9(1) 44-47. [線虫を含む研究課題の紹介。]
62. 田中 勇：根瘤線虫により形成されたゴール中の雑線虫について。応動応昆合同大会 昭30: 11. [講要]
63. 田中 勇：根瘤線虫により形成されたゴール中の雑線虫について。九州農業研究 15: 94-95. [*Rhabditis*が多い。]
64. 立石 豊・村田 全・行徳直己：二化螟虫の天敵について(予報)。九州農業研究 16: 105. [*Amphimermis zuimushi*の寄生少数。]
65. 渡辺誠三：農業用ビニールの営農分野 [12]。農及園 30(1) 99-102. [トマト、ナスの線虫はD-Dで防除。天地返し、輪作に言及。]
66. Wieser, W.: A collection of marine nematodes from Japan. Publ. Seto Mar. Biol. Lab. 4(2/3) 159-181. [時岡 隆氏から送られた標本を元に次の4新種を含む26種を和歌山県白浜から記録。*Halalaimus* sp., *Enoplus* sp.1, *E.* sp.2, *Syringolaimus striaticaudatus* de Man, *Oncholaimus dujardini* de Man, *Viscosia carneleyensis* (Ditlevsen), *Eurystomina ornata* (Eberth), *Polygastrophora tenuicollis* (Allgen), *Paracanthonchus hawaiiensis* Allgen, *Acanthonchus setoi*(新種), *Halichoanolaimus robustus* (Bastian), *Desmodora scaldensis* de Man, *Chromadora macrolaimoides* Steiner, *C. brevipapillata* Micoletzky, *C.nudicaptata* Bastian, *Chromadorina inversa* (新種), *Chromadorella filiformis* (Bastian), *Euchromadora tokiokai* (新種), *E. amokurae* (Ditlevsen) (= *Graphonema amokurae*), *Neochromadora craspedota* (Steiner), *Spilophorella tollenifera*(新種), *S.paradoxa* (de Man) *Chromadoropsis parva* (de Man) (= *Metachromadora (Bradylaimus) suecica*), *Linhomoeus* sp., *Paramonhystera paranormandica* (Micoletzky), *Monhystera* sp.]
67. 柳 武・関谷一郎：大豆線虫の被害防除について。昭30 応動応昆合同大会: 10. [講要]
68. Anon.: 九州における稲作病害虫防除基準—昭和30年度(病害の部)。九病虫研報 1: 104-109. [稲線虫心枯病：温湯浸漬法による種粒消毒、抵抗性品種。]
69. Anon.: 昭和29年度委託試験成績概要(3)。植物防疫 9(8) 345-348. [ネマダ(D-D)を含む。]
70. Anon. (青森農試)：大豆線虫(*Heterodera glycines* Ichinohe)防除試験。昭27業年: 47-49. [南部農事試験場成績。耐虫性検定、D-D及びククロルピクリンの持続効果、硫安施肥効果、ホリドール剤による防除。]
71. Anon. (青森農試)：大豆線虫防除試験。昭28業年: 51-52. [謄写。南部支場成績。大豆品種の耐虫性の強弱。]
72. Anon. (愛媛農試)：稲線虫心枯病の種子消毒試験。昭28業年: 61-62. [硝酸銅、硝酸鉛、硝酸銀、冷水温浸漬、超音波による種子処理。]
73. Anon. (神奈川農試)：蔬菜ネマトーダ防除試験。農業試験成績 88:182-183. [昭和27年度成績。D-D、ホリドール、EPN剤のニンジン、ゴボウ、ヤマトイモへの施用。]

74. Anon. (宮崎農試) : 甘藷根腐線虫病に関する試験. 昭28業功: 109. [クロロピクリン、D-D、ダイセン、ホリドール、フラトール施用。]
75. Anon. (宮崎農試) : 線虫に関する試験. 昭28業功: 186-187. [川南分場成績。茶園土壌における線虫の垂直分布。]
76. Anon. (長野農試) : 大豆線虫の被害防除に関する研究. 害虫防除に関する試験成績報告 昭29: 81-87. [施肥と線虫寄生程度、被害。]
77. Anon. (栃木農試) : 水稻線虫心枯病に関する試験. 昭28業年: 133-135. [ホリドール、ペストックス剤散布、水稻品種抵抗性検定。]
78. Anon. (東京農試) : トマト後作大根試験. 研究年報 昭28: 38-39. [大根の生育不良の原因はネマトダ。D-D施用で改善。]
79. Anon. (山形農試) : 根瘤線虫病に対する薬剤の効果に関する試験. 昭28業年: 166-168. [D-D、ホリドールを供試。]
80. Anon. (山形農試) : 大豆不作地に関する試験. 昭28業年: 尾花沢原種農場之部・新庄原種農場之部・133-139. [D-D、クロロピクリン、石灰による線虫防除、石灰窒素施用、大豆萎黄病品種比較。]
81. Anon. (山形農試) : 大豆品種耐萎黄病性検定試験. 昭29業年・最上分場の部・52-55. [32品種を比較。]

### 昭和31年 (1956)

1. 深野 弘・横山佐大正 : 葉に線虫心枯病々斑の現われない水稻品種の抵抗性とその実用化について. 福岡農試研究時報 11/12: 13-16. [病斑の表われない品種も、線虫接種によって生育収量低下。]
2. 深野 弘・横山佐大正 : 出穂、穂揃期に散布したバラチオン乳剤の稲線虫心枯病予防効果. 九病虫研会報 2: 114-115. [1000倍液で85%死滅。葉害なし。]
3. 五味美知男・木暮幹夫 : 稲線虫心枯病に対するホリドールの防除効果について. 関東病虫研報 3: 20-21. [種初処理、苗の浸漬は高い効果、生育中散布は効果不完全。]
4. 後藤和夫・深津量栄 : 稲線虫心枯病の抵抗性質3種について. 日植病報 20(4) 175. [講要. No. 56-5 を参照。]
5. 後藤和夫・深津量栄 : 稲線虫心枯病に関する研究 第3報 品種抵抗性の解析と抵抗性質. 農技研報 C 6: 123-149. [稲品種の線虫走化性、増殖、病徴出現の難易の差を検討。]
6. 後藤和夫・豊田 栄 : 稲線虫心枯病に関する研究 (1) 誘引物質の探索. 日植病報 21(1) 46. [講要]
7. 後藤重喜 : じゃがいもいもぐされ線虫について. 植物防疫 10(4) 153-156. [発生、被害、病徴、病原線虫、寄主植物、防除法。]
8. 萩原 十 : 蔬菜の栽培と経営 [9]. 農及園 31(9) 1309-1310. [線虫記述なし。連作と休作年限。]
9. 一戸 稔 : D-Dの局所注入の大豆萎黄病防除効果. 関東病虫研報 7: 74-75. [病気発生区以外にも注入必要。]
10. 一戸 稔 : 土壌燻蒸と線虫の防除 (1). 植物防疫 10(10) 409-412. [従来の土壌消毒法、土壌燻蒸の問題点、主な土壌燻蒸剤。]
11. 一戸 稔 : 土壌燻蒸と線虫の防除 (2). 植物防疫 10(11) 459-463. [土壌燻蒸の方法、効果、費用。]

- 1 2. 一戸 稔: 根瘤線虫病の被害と防除, 北農 23(5) 178-188. [北海道内の分布、病徴、線虫の形態・生活史・被害・伝播・防除法。]
- 1 3. 一戸 稔: 最近アメリカで発生をみた大豆萎黄病について, 北農研究抄報 3: 66-67. [講要]
- 1 4. 一戸 稔・浅井三男: 大豆萎黄病抵抗性に関する研究(1)「第1稗貫」と「南部竹館」の耐病性, 北海道農試彙報 71: 67-79. [上記品種は耐病性。機構を含む。]
- 1 5. 一戸 稔・湯原 巖: 北海道北部地方の根瘤線虫の生態, 日生態誌 6(1) 24-28. [ジャガイモコンリウセンチュウ(ニキタネコブセンチュウ)の分布、寄主植物(49種)。]
- 1 6. 伊藤佳信・永沢 実・保谷 茂・新井 茂: ネマトーダに関する2、3の問題, 東京農試12回試験成績発表会報: 136-141. [謄写。ネコブセンチュウの形態、寄主反応、陸稲のシストセンチュウによる被害。]
- 1 7. 岩田俊一: 有機合成殺虫剤とその応用, 北陸病虫研報 4: 120-123. [D-D: 値段が高いので普及していない。]
- 1 8. 弥富喜三: 線虫とその防除, 植物防疫 10(3) 131-134, 2 pls. [主な植物寄生線虫、防除法(耕種的方法、抵抗性品種、温湯浸、土壤燻蒸等)。]
- 1 9. 弥富喜三・西沢 務: 長崎県に発生した馬鈴薯寄生線虫について, 応動応昆合同大会 昭31: 14. [講要]
- 2 0. 弥富喜三・西沢 務・荻谷正次郎: 数種薬剤の根瘤線虫防除効果, 38回関西病虫研講要: 4-7. [未見]
- 2 1. 鏡木外岐雄: 研究の思い出, 植物防疫 10(8) 334. [D-D導入当時の回顧。]
- 2 2. 上遠 章: 滞米雑感, 関東病虫研報 3: 1-2. [ゴールデンネマトーダ対策を含む。]
- 2 3. 加藤 博: 茶の病害虫, 農薬 3巻2: 38-41. [根線虫病: 防除法(被害樹抜取、D-D、BHC乳剤、ホリドールの土壤灌注)。]
- 2 4. 河合一郎・森田 儔: 草莓の病害とその防除法, 農及園 31(4) 575-578. [*Nototylenchus acris*, *Aphelenchoides fragariae*, *Meloidogyne* spp.の病徴、防除法。]
- 2 5. 河村貞之助: 線虫のいのちの持続について, 日植病報 21(1) 30. [線虫の休眠現象の紹介。]
- 2 6. 河村貞之助: ネマトーダ, 富民 28 巻3: 58-62. [種類、防除法を解説。]
- 2 7. 河村貞之助: 花の病害虫, 農薬 3巻3: 45-47. [チュウリップの球根腐敗線虫(*Ditylenchus dipsaci*): わが国に分布するかどうか不明。]
- 2 8. 河村貞之助: 花の病害虫, 農薬 3巻6: 54-58. [バラの線虫: D-Dで防除。]
- 2 9. 河村貞之助: 花の病害虫, 農薬 3巻8: 47-50. [ダリアの線虫葉枯病: ホリドールで防除。]
- 3 0. 河村貞之助: 花の病害虫, 農薬 3巻9: 42-45. [菊の線虫葉枯病: ホリドールによる防除。]
- 3 1. 河村貞之助・平野和弥: 殺線虫剤の価値判断に関する知見、特に根瘤線虫の場合について, 千葉大園学報 4: 13-22. [殺線虫剤、殺虫剤の殺線虫効果、殺菌効果を検討。]
- 3 2. 河村貞之助・平野和弥・林 章昌・鈴井孝仁: Nematicide の性能評価について, 日植病報 21(1) 42. [講要]
- 3 3. 気賀沢和男: スイトウセンチュウの游出温度と時間との関係, 北陸病虫研報 4: 101. [講要。25°C、25分処理が最適。]
- 3 4. 気賀沢和男: 環境差異によるスイトウセンチュウの害徴発現, 北陸病虫研報 4: 102. [講要。温度、光線量、土壤水分。]
- 3 5. 小池久義: ネマトーダの化学的防除, 植物防疫 10(9) 370. [ネマゴン、ペーパム]

等の紹介。]

36. 小室康雄：蔬菜および果樹類の忌地病。植物防疫 10(7) 283-286. [ゴボウ、イチジクは線虫が原因。]
37. 近藤鶴彦・石橋信義：根瘤線虫の加害が直播甘藷の発芽に及ぼす影響について。応動応昆合同大会 昭3 1: 13. [講要]
38. 近藤鶴彦・三枝敏郎：甘藷に寄生する根瘤線虫の寄生性と形態について(予報)。関東病虫研報 3: 9. [寄生性、形態を異にする数種が存在。]
39. 高野光之丞：砂質土壤の大和芋に対するDDの使い方。農及園 31(6) 862. [埼玉県石原星一氏の質問に回答。]
40. 是石 鞏・小林研三：熊本県に於ける大豆病害分布調査。九病虫研会報 2: 53-55. [ダイズシストセンチュウを含む。]
41. 小山八十八・山崎一彦・菊地良治：大豆萎黄線虫(ダイズシストセンチュウ)の寄生による豆類の被害 I. 大豆の生育収量に及ぼす影響並に品種間差異。北農研究抄報 3: 17-18. [講要]
42. 小山八十八・後木利三・菊地良治：大豆萎黄線虫(ダイズシストセンチュウ)の寄生による豆類の被害 II. 豌豆の生育収量に及ぼす影響並に品種間差異。北農研究抄報 3: 18-19. [講要]
43. 小山八十八・山崎一彦・菊地良治：大豆萎黄線虫(ダイズシストセンチュウ)の寄生による豆類の被害 III. 小豆の生育収量に及ぼす影響並に品種間差異。北農研究抄報 3: 19. [講要]
44. 桑山 覚：ハワイにおける大規模なD-Dの使用。植物防疫 10(10) 412, 表紙写真
45. 宮川経邦：米国でも多年の懸案であった柑橘の伝染性衰弱症とその対策。農及園 31(11) 1485-1488. [Spreading decline の研究史、病徴、病原線虫、防除法の紹介。]
46. 宮本雄一・居垣千尋：土壤殺菌用火焰放射器の試作とその利用価値。農及園 31(11) 1557-1558. [麦萎縮病について試験。小面積処理に使用するのが望ましい。]
47. 武笠耕三：ダイズセンチュウ(大豆線虫)について。農薬 3巻2: 4-10. [被害、生活史、防除。]
48. 武笠耕三：有害動物。In: 北海道農業事典(桑山 覚・堀口逸雄編)。楡書房、札幌、p. 569-576. [コンリユウセンチュウ、ダイズセンチュウ、イネシガラセンチュウ、草いちごの線虫。]
49. 二宮敬治：草莓の線虫とその防除。農業技術研究 10 巻9: 32-35. [被害状況、線虫の種類、防除法。静岡農試業報 昭30: 100, 1956 にも同様記事。]
50. 二宮敬治・鈴木当治：草莓の線虫防除。園芸学会昭31春研発表旨: 20. [講要]
51. 西沢正洋：稲の線虫心枯病はこうして防ごう。図解農業 3: 38-40. [未見]
52. 西沢 務：土壤線虫について。農業普及 2巻5: 12-17. [未見]
53. 西沢 務：線虫は何故防除が難しい。農業技術研究 10 巻9: 54. [線虫の生理・生態的特徴を解説。]
54. 西沢 務・弥富喜三：根瘤へのP32の移行。応動応昆合同大会 昭3 1: 13. [講要]
55. 野本亀雄：畑地灌漑栽培に於ける施肥法。農及園 31(5) 671-675. [陸稲連作障害の原因未説明。]
56. 小野田正利：澱粉甘藷の育種目標と新品種。農業技術 11(増刊号): 38-42. [根瘤線虫抵抗性にふれる。]
57. 大隈敏夫：薬用人参の栽培。農及園 31(5) 705-709. [ネマトーダの寄生あり。]
58. 尾崎 薫：大豆。In: 北海道農業事典(桑山 覚・堀口逸雄編)。楡書房、札幌、

- p. 188-198. [ネマトーダ抵抗性品種を紹介。]
59. 尾崎 薫：北海道における大豆作とその改善. 農業技術 11(12) 534-538. [大豆萎黄病対策を含む。]
60. 小沢 博・戸部敬哉：メチルプロマイドに依る土壤燻蒸試験 (1) ガスの拡散性とネマトーダに対する効果. 日植病報 21(1) 41-42. [講要]
61. 小沢 博・戸部敬哉：「メチルプロマイド」に依る土壤燻蒸試験 (1) ガスの拡散性とネマトーダに対する効果. 農及園 31(2) 337-339. [注入点の下方に多く拡散。線虫に有効。]
62. 小沢 博・戸部敬哉・種田達三郎・大島正義：「メチルプロマイド」に依る土壤燻蒸試験 第1報 (I) ガスの拡散性とネマトーダに対する効果. (II) 1、2の土壤伝染性病原菌に対する効果 (予報). 神奈川農試園芸分場研報 4: 94-102. [1平方尺当たり1cc以上必要、2ccで完全。]
63. 三枝敏郎：Ring nematode の1種(*Criconemoides* sp.) と作物の被害について. 日植病報 20(4) 179. [講要。サツマイモ農林5号、キュウリ、ニンジンに被害。]
64. 三枝敏郎・野崎 仁：根腐線虫の1種(*Pratylenchus* sp.) と茶樹の被害について. 日植病報 21(1) 42-43. [講要。病徴、被害。]
65. 佐藤邦彦：黄花ルーピンの根瘤線虫. 森林防疫ニュース 5(55) 248-249. [線虫の形態、病徴、防除法 (D-D、ホルマリン等)。]
66. 関谷一郎・呉羽好三：大豆害虫に対する浸透性殺虫剤の効果. 関東病虫研報 3: 45-46. [シュラーゲン、ダイメホックス、シストックスとダイズシストセンチュウ他。]
67. 島内満雄：輪作. In: 北海道農業事典 (桑山 党・堀口逸雄編). 楡書房、札幌、p. 112-131. [線虫防除にもふれる。]
68. 杉山 芬：線虫の寄生がイナゴに及ぼす影響 I. イナゴの翅長、前胸背板長及び外部生殖器に対する影響. 動雑 65(10) 382-385. [コバネイナゴとMermitata。]
69. 杉山 芬：線虫の寄生がイナゴに及ぼす影響 II. イナゴに寄生する一種の線虫の分布. 動雑 65(10) 386-391. [小地域内における分布。寄生率に関する考察。]
70. 鈴木一平：東海近畿地方の苺栽培と品種の問題点 [2]. 農及園 31(2) 310-312. [葉線虫の被害、防除 (パラチオン、健全苗選択)、検出法。]
71. 只野 柳・只野正志：線虫*Rhabditis ikedai* Tadano の雌雄同体について. 動雑 65(11) 393-396. [系統により性比に違い。自家受精の系統もある。]
72. 田中一郎：北海道農作物病害の概観. In: 北海道農業事典 (桑山 党・堀口逸雄編). 楡書房、札幌、p. 477-483. [水稻線虫病、大豆萎黄病、根瘤病 (大豆、甜菜、はっか、にんじん、ごぼう、クローバ類、飼料かぶ、除虫菊)。]
73. 田中伊之助・宮本健太郎・藤井 溥・相川英雄：線虫によるジャガイモグサレについて. 九病虫研会報 2: 5-7. [病徴、作期・気温と被害、種薯の温湯浸漬、メチルプロマイド燻蒸。]
74. 田中 勇：根瘤線虫の水平移動について. 応動応昆合同大会 昭31: 3. [講要]
75. 立石静男：水稻の立枯れ現象について. 九州農業研究 18: 62. [線虫は直接原因でないが、線虫発生株は被害大。]
76. 友永 富・小林達美・羽田忠夫：サツマイモのコンリュウセンチュウ抵抗性品種の選抜試験について. 北陸病虫研報 4: 103-104. [講要]
77. 津曲彦寿：タバコ疫病に関する研究 IV. タバコ疫病と線虫病との関係. 九州農業研究 18: 89-90. [菌の侵入を線虫が促進はしないが、萎凋しやすい。]
78. 津曲彦寿：昭和31年度九州産地の病虫害の様相. 葉たばこ研究 10: 26-29. [線虫病を含む。]

79. 浦上山太:昭和30年度九州に於ける主要病害虫の発生と防除の概要. 九病虫研究会報 2: 117-119. [長崎県種バレイシヨからジャガイモグサレ線虫を発見。]
80. 渡辺誠三:これからの胡瓜栽培. 農及園 31(7) 931-932. [栽培上の注意の第一として線虫防除(D-D、クロルピクリン)をあげる。]
81. 渡辺誠三:これからの胡瓜栽培[2]. 農及園 31(8) 1083-1086. [D-Dの施用法、有効期間(1年)、経費。]
82. 八木沢貞晴:胡瓜早採り栽培の注意点. 農及園 31(3) 431-434. [床土のネマトード対策が必要。]
83. 山本昌木:アメリカで会った人々. 植物防疫 10(4) 169-170. [フロリダ、カルフォルニアの柑橘のSpreading declineの紹介を含む。]
84. 山本昌木:アメリカで会った人々. 植物防疫 10(6) 267-268. [ニューヨークのジャガイモシストセンチュウ対策にふれる。]
85. 山本鉄司:関東東山地方の大豆作とその改善. 農業技術 11(12) 481-486. [ネマトードにふれる。]
86. 横尾多美男: On the occurrence of nematode, Rotylenchus multicinctus (Cobb, 1893) Filipjev, 1936 in Japan. 佐賀大農彙 4: 137-140. [佐賀大学構内の温室のメロンから、Helicotylenchus dihystraと思われる。]
87. 横尾多美男: On the occurrence of the root lesion nematode, Pratylenchus pratensis as the tuber parasite of the potato in Japan. 佐賀大農彙 4: 141-168. [上記種と報告されたが、後にP. coffeaeと同定された。No. 60-107を参照。]
88. 横尾多美男・水上武幸:馬鈴薯寄生線虫についての1、2の調査. 九病虫研究会報 2: 1-4. [Pratylenchus pratensisと同定。後にP. coffeaeとされた(No. 60-107を参照)。成虫の計測値、病徴、寄主植物。]
89. 横尾多美男・田中伊之助・水上武幸・後藤重喜:馬鈴薯イモグサレ線虫に関する調査研究. 植物防疫 10(9) 363-365, 1 pl. [発見経緯、既知分布地、被害等。Pratylenchus pratensisと同定。]
90. 吉井 甫:イネ線虫心枯病についての思い出. 植物防疫 10(1) 47-48. [昭和19・20年当時の回想。]
91. 吉目木三男・小林四郎・佐々木詰彦:ダイズセンチュウによるダイズの被害解析. 東北大農研彙報 7(3) 179-183. [栄養成長の阻害が見られた。]
92. 吉目木三男・佐々木詰彦:ダイズセンチュウ或いはノズミの被害が加わった場合のダイズネモグリバエによるダイズの被害解析. 東北大農研彙報 7(3) 185-190. [ハエと線虫の被害が重複した場合、着莢数が減少。]
93. Anon.: 質疑応答. 北陸病虫研報 4: 145-146. [線虫の寄生を受けた稲の病徴と減収。]
94. Anon. (千葉大園芸学部植病研): 殺線虫剤としての水銀剤について(予報) その1. 農業研究 3巻1: 52-57. [ウスプルン、セレサン等のネコブセンチュウ幼虫に対する効果。]
95. Anon. (千葉大園芸学部植病研): 殺線虫剤としての水銀剤について(予報) その2. 農業研究 3巻2: 56-65. [ウスプルン、セレサン等のネコブセンチュウ卵に対する効果。]
96. Anon. (青森農試): 大豆萎黄病防除試験. 昭14-24 業年: 62. [謄写。D-D、BHC、DDTを施用(昭24)。]
97. Anon. (福岡農試病害研): 稲穂冷水温湯消毒の消毒温度について、特に線虫心枯病予防の場合. 九病虫研究会報 2: 127. [50°C10分、51°C5分で死滅。]

98. Anon. (福岡農試) : 稻線虫心枯病に関する研究. 昭29業年: 249-252. [ツルギバにおける被害、N-224の効果。]
99. Anon. (群馬農試) : 稻線虫心枯病に関する試験. 病害虫に関する試験成績. 自昭23冬作至30冬作: 13-14. [謄写. 昭24夏作成績. 冷水温湯浸、ホルマリンによる種子消毒. BHC、硫酸ニコチンによる土壌消毒。]
100. Anon. (群馬農試) : 大豆萎黄病に関する試験. 同上: 14-15. [謄写. 昭24夏作成績. 土壌消毒: 石灰窒素、クロルピクリン、BHC、セレサン. 薬剤散布: 稀硫酸、塩化マンガン、塩化亜鉛、硼素。]
101. Anon. (群馬農試) : 稻線虫心枯病に関する試験. 同上: 28-30. [謄写. 昭25夏作成績. 種籾消毒: 冷水温湯浸、BHC、二硫化炭素、クロルピクリン. 線虫の伝染距離。]
102. Anon. (群馬農試) : 大豆萎黄病に関する試験. 同上: 30-37. [謄写. 昭25夏作成績. 生態、防除: 薬剤、輪作。]
103. Anon. (群馬農試) : 大豆萎黄病に関する試験. 同上: 52-59. [謄写. 昭26夏作成績. 生態、防除: D-D、クロルピクリン、石灰窒素他. 抵抗性品種検定。]
104. Anon. (群馬農試) : 大豆萎黄病に関する試験. 同上: 82-84. [謄写. 昭27夏作成績. 土壌消毒、薬剤散布。]
105. Anon. (群馬農試) : 大豆萎黄病防除試験. 同上: 115-117. [謄写. 昭28夏作成績. 施肥量と収量の関係. 寄主範囲調査。]
106. Anon. (群馬農試) : 稻線虫心枯病に対する有機燐剤の防除効果試験. 同上: 142-145. [謄写. 昭29夏作成績. ホリドール、ベストックス等の種籾浸漬、散布試験。]
107. Anon. (群馬農試) : 稻線虫心枯病薬剤処理並発病と減収に関する試験. 同上: 208-214. [謄写. 昭30夏作成績. ホリドール種子粉衣. 水稻抵抗性品種、発病程度と減収。]
108. Anon. (群馬農試) : 人参根瘤線虫防除試験. 同上: 229-232. [謄写. 昭30夏作成績. D-D、クロルピクリン、ダイオホックス他。]
109. Anon. (三重農試) : 水稻線虫心枯病調査. 昭28場報: 153. [被害と収量の関係。]
110. Anon. (大阪府農林部) : ジャガイモイモグサレ線虫の発生について. 大阪農業 75: 48. [未見]
111. Anon. (神戸植防) : 最近輸出された植物. 植物防疫 10(3) 140. [苗木・野菜類でネコブセンチュウを発見。]

### 昭和32年 (1957)

1. 知久武彦・宮下忠博: 長野県伊那地方において大豆不稔を来す害虫に関する研究. 長野農試報 23: 1-61, 5 pls. [カメムシ類を主体とする. 有害動物のリストの中にダイズシストセンチュウをあげる。]
2. 江塚昭典: 茶の病害研究の問題点. 植物防疫 11(3) 93-97. [根腐線虫病を含む。]
3. 深野 弘・横山佐太正: 稻線虫心枯病発生稲に対する薬剤散布の防除効果. 福岡農試研究時報 14: 13-16. [出穂期のパラチオン剤散布が有効。]
4. 深野 弘・横山佐太正・田中澄人・藤 英次郎: 稻線虫心枯病被害軽減のための出穂期薬剤散布の方法について. 九病虫研会報 3: 45-47. [出穂期のパラチオン散布が有効。PB粉剤、EPN乳剤、ダイアジノン、マラソンも効果あり。]

5. 五味美知男：稲線虫心枯病防除に関する研究 第2報 産地別苗代形式によるパラチオンの効果並に施肥量との関係。日植病報 22(1) 8. [講要]
6. 一戸 稔：農業における線虫の問題点：最近における線虫分類の動向。応動昆シンポ講要 第1回：3-10. [外国の研究の紹介、わが国での発生・発見例。]
7. 一戸 稔：線虫の分類と調査法。植物防疫 11(7) 307-311, 1 pl. [植物寄生性線虫の検索表。土壤、植物体中の線虫調査法等。]
8. 一戸 稔：ネマトーダの生態とその防除法。農及園 32(4) 632-636. [主要な植物寄生性線虫の紹介。]
9. 一戸 稔：リンゴの根瘤線虫について。札幌農林学会報 39 巻6: 41-42. [講要]
10. 一戸 稔：草莓の線虫病。北農 24(12) 387-392. [発生状況(北海道)、病徴、発生の歴史、病原線虫 (*Aphelenchoides fragariae*) : 分類、生活史、伝播、防除法。]
11. 一戸 稔：菊の葉枯線虫の発生。札幌農林学会報 39 巻6: 95. [講要。病徴、生態、防除法。農薬の進歩 3巻1:口絵、1957 に病徴写真。]
12. 井上 寿：ダイズセンチュウに関する調査 第1報 耕鋤の深度がダイズセンチュウの土中分布に及ぼす影響。北日本病虫研報 8: 87. [深耕によって土壤中のシスト数増加。]
13. 井上 巖：*Chordeodes* 属ハリガネムシの内部構造についての概報。動雑 66(2/3) 151. [講要]
14. 石川正示：東北地方の大豆作とその改善。農業技術 12(1) 7-12. [「洪積地帯に多い大豆線虫の被害は、東北地方として最も警戒すべきものと思う」]
15. 伊藤佳信：果菜類の根瘤線虫に対するトマトの耐虫性品種について。関東病虫研報 4: 39. [供試8品種並びに28系統の内、1系統のみ耐虫性。]
16. 伊藤佳信：ネマトーダの生態と防除。農耕と園芸 12巻5: 23-25. [根瘤線虫、大豆線虫、イモグサレセンチュウ、イネシソグサレセンチュウ、穀実線虫等の解説、防除(抵抗性、輪作、肥培管理、薬剤)。]
17. 伊藤佳信・保谷 茂・新井 茂：果菜類に対する根瘤線虫の被害に関する研究 第1報 キウリに対する被害について。東京農試13回成績発表会報：55-65. [謄写。D-D施用とキュウリの時期別、品種別の収量差異。]
18. 岩田節夫：*Rhabditis* の分泌、排泄系について I. *Rhabditis ikedai* Tadano について。岐阜医紀 5(3) 77-87. [未見]
19. 岩田節夫：*Rhabditis* の分泌、排泄系について II. 学童の糞便内より得た *Rhabditis* sp. について。岐阜医紀 5(3) 248-255. [未見]
20. 岩田吉人：種子伝染病。植物防疫 11(5) 209-212. [線虫心枯病を含む。]
21. 弥富喜三：農業における線虫の問題点：総論。応動昆1回シンポ講要：1-2. [研究の現状、問題点、今後の方向を述べる。]
22. 弥富喜三：ネマトーダの生態と防除法。農業世界 52 巻7: 78-82. [物理的、化学的、耕種的防除法。]
23. 弥富喜三：根瘤線虫と防除剤。農業技術研究 11 巻10: 26-28. [殺線虫剤の種類と使用法の解説。]
24. 弥富喜三：煙草、甘藷のネマトーダの防除法。農及園 32(12) 1706. [抵抗性品種、D-D、EDB、DBCPの利用。]
25. 弥富喜三：柑橘のネマトーダ。果実日本 12 巻4: 13-15. [*Radopholus similis* の紹介。]
26. 弥富喜三：果樹に寄生する線虫類の駆除法。In: 果樹 第1巻。博友社、東京、pp 46-50. [病徴、防除法(殺線虫剤・温湯処理)。]

27. 梶浦 実他16名：果樹の忌地問題，農及園 32(7) 1089-1092. [昭32園芸学会春季大会果樹部会シンポジウム記録。カンキツ、モモ、イチジクの線虫を取りあげる。]
28. 上遠 章：米国の植物防疫短見，関東病虫研報 4: 1-2. [検疫及び防除。]
29. 上遠 章：米国視察記 (I)，植物防疫 11(2) 75-77. [ネマトーダ：アメリカで問題とされている種、防除法を含む。]
30. 上遠 章：米国視察記 (II)，植物防疫 11(3) 117-119. [殺線虫剤を含む農薬の研究、開発。]
31. 上遠 章：土壌害虫の新しい防除薬，今月の農薬 1巻9: 58-63. [D-D、EDB 剤の効果、使用法を含む。]
32. 桂 琦一：木津川流域で発生している根瘤線虫病とその線虫に誘発される大根黒腐病，京都農業 6巻2: 54-57. [未見]
33. 桂 琦一・角 博次・山田隆保：根瘤線虫に誘発される大根黒腐病とその防除，農及園 32(9) 1375-1376. [病徴、EDBによる防除。]
34. 川上忠夫・増田安弘・松原茂樹：根菜に及ぼすネマトーダの影響，園芸学会昭32春研究要旨: 21. [講要]
35. 河村貞之助：農業における線虫の問題点：植物寄生線虫と薬剤，応動昆1回シンポ講要: 10-17. [講要。葉線虫、根瘤線虫に対する効果等。]
36. 河村貞之助：ネマトーダの新しい殺し方：メチルプロマイドの効果的な使い方，農耕と園芸 12 巻2: 54-55. [使用方法、毒性。]
37. 河村貞之助：菊の葉が黄化枯死する原因，農及園 32(2) 388-389. [明石市岸本貞治氏の質問に対する回答。根瘤線虫、線虫葉枯病。]
38. 河村貞之助：花のネマトーダの防ぎ方，農耕と園芸 12 巻5: 21-23. [ネコブセンチュウの生態、防除 (D-D、クロルピクリン、メチルプロマイド)。]
39. 河村貞之助：苗床のネマトーダを駆逐する，農薬 4巻2: 35. [メチルプロマイドの扱い方を図示。]
40. 河村貞之助・平野和弥：諸種薬剤のガスが根瘤線虫卵に及ぼす効果，日植病報 22 (1) 44-45. [講要]
41. 河村貞之助・平野和弥：Methyl bromideによる土壌燻蒸に関する試験，日本園芸生産研報 8: 11 pp. [謄写。ガスの拡散、薬量と防除効果。]
42. 川島嘉内・遠藤 正：薬用人参コンリユウセンチュウ (根瘤線虫) に対するD-Dの効果，北日本病虫研報 8: 88. [講要]
43. 川島嘉内・遠藤 正：薬用人参根瘤線虫に対するD-Dの効果について，植物防疫 11(4) 141-144. [施用によって5年間寄生を受けなかった。]
44. 近藤鶴彦：甘藷畑におけるサツマイモコンリユウセンチュウの季節的消長について，防虫科学 22(1) 144-149. [深さ別の第2期幼虫密度の変化を調査。植物防疫 12(5) 231, 1958に抄録。]
45. 近藤鶴彦：植物寄生のネマトーダ (線虫) とはどんなものか，農研 (三重農業研究会) 2巻9: 14-19. [ネコブ、シストネグサレ、クキ、ハガレ、イネシガラ、コムギツブセンチュウ等の解説。]
46. 近藤鶴彦・三枝敏郎：数種根瘤線虫の類別について，応動昆大会講要 昭32: 9. [講要]
47. 間宮 広・露木敏雄・城所俊夫：落花生の連作減収要因から見た増収技術の展開，農及園 32(6) 927-928. [2年連作で大幅減収。線虫記述なし。]
48. 松原茂樹：蔬菜の輪作とネマトーダの問題，農及園 32(10) 1485-1486. [線虫被害の大なることを例を示して説く。]

49. 松原茂樹・沢地信康：根菜類の連作に関する研究 第1報。園学雑 26(3)141-148。  
[サトイモ、ゴボウ、ニンジン連作時の生育不良の原因として線虫による被害を推測。  
植物防疫 14(10) 458, 1960 に抄録。]
50. 目黒猛夫：陸稲の連作が悪い理由。農及園 32(5) 803-804。[線虫も原因として取り上げられるが、未解明。]
51. 三浦和子・鈴木照磨：クロロフェノールの根瘤線虫に対する効果。応動昆大会講要昭32: 21。[講要]
52. 宮川経邦：柑橘根線虫の生態と分布。果実日本 12 卷7: 31-33。[研究史、形態、寄生状況、分布(国内)、寄主植物、被害、微生物との関係、防除。]
53. 宮川経邦・森下 実：本邦における柑橘根線虫の生態と分布。園芸学会昭32春研究要旨: 2。[講要]
54. 宮川経邦・森下 実：本邦における柑橘根線虫の分布について。植物防疫 11(5) 182-184, 1 pl. [寄生状況、分布、寄主植物。]
55. 森 倫平：土壌線虫について及びその防除薬剤の紹介。農業技術研究 11 卷4: 33-35。[形態、種類、防除法、効果、経費。]
56. 本橋精一：2、3月の果菜病害防除。植物防疫 11(2) 69-70。[床土の消毒：クロルピクリン、ホルマリン、ウスプルン。トマトの萎凋病・キュウリの蔓割病との混合感染。]
57. 本橋精一：蔬菜病害虫の防除について。農業研究 4卷2: 12-15。[「ゴボウ、里芋等では根ぐされ線虫の被害と思われるものが発生している」。D-Dによる防除。]
58. 武笠耕三：甜菜根瘤線虫。北農 24(7) 239-244。[輪作の効果、分布調査、防除]
59. 向 秀夫：稲の線虫と心枯病の予防。今月の農薬 1卷5: 10-12。[種籾消毒(温湯冷水浸、ウスプルン、パラチオン等)、抵抗性品種。]
60. 二宮敬治：静岡県葦山の水田利用イチゴのトンネル栽培。農及園 32(1) 239-242。  
[苺線虫防除：健全苗選択、パラチオン散布。]
61. 二宮敬治・鈴木当治：草莓の芽線虫とその防除。農及園 32(7) 1038-1042。[被害症状、寄生部位、伝搬、防除法(抵抗性品種、苗の鑑別、パラチオン散布。)]
62. 西沢 務：農業における線虫の問題点：線虫の植物加害機構。応動昆1回シンポ講要: 17-23。[植物体の組織、生理の変化等をレビュー。]
63. 奥代重敬：ミカンネコナカイガラムシ。農薬 4卷4: 44-45。[D-D、EDBの施用法を図解。]
64. 大橋政彦：Rhabditis hominisに関する研究 I。形態学的研究。岐阜医紀 5(4) 384-402。[未見]
65. 大橋政彦：Rhabditis hominisに関する研究 II。生物学的研究。岐阜医紀 5(4) 403-419。[未見]
66. 大橋雄司：立枯病抵抗性に関する研究(第1報) 根の傷と立枯病の発生について。葉たばこ研究 12: 55-57。[線虫寄生により立枯病抵抗性低下。]
67. 三枝敏郎：根瘤線虫 Meloidogyne spp. 卵の発生ならびにその形態に関する一観察。応動昆 1(4) 238-243。[キタネコブ・サツマイモネコブ・ジャワネコブセンチュウの卵の形態、卵発生、産卵数等。]
68. 柴辻鉄太郎：東北地方の畑作害虫対策について ダイズ害虫を中心として。農業研究 4卷4: 1-14。[ダイズセンチュウを含む。]
69. 渋谷正夫：蔬菜の種類とネマトーダの寄生性について。園芸学会昭32春研究要旨: 21。[講要]
70. 白浜賢一：苗床床土の消毒。今月の農薬 1卷1: 29-30。[クロルピクリン、D-D

の使用法。]

71. 菅原寛夫：殺線虫剤二臭化エチレン。植物防疫 11(2) 88. [性状、製品、効果、使用法。]
72. 鈴木直治：稲の心枯線虫病。今月の農薬 1巻9: 51-53. [症状、防除(種子消毒、パラチオン苗代散布)。]
73. 只野正志：線形動物。In: 無脊椎動物発生学(久米又三・団 勝磨編)。培風館、東京、p. 111-134. [線虫類の卵割、発生。]
74. 高野誠義・小森 昇：稲線虫心枯病に関する防除試験 第1報 種子潜在線虫の殺虫試験。関東病虫研報 9: 23-24. [9種殺虫剤を供試。]
75. 田村浩国：ネマトーダ駆除剤N-244 及びN-521 の殺菌性について。植物防疫 11(8) 342-344. [高い殺菌力をもつ。]
76. 田村市太郎・気賀沢和男：スイトウセンチュウの株間移動に関する研究。北陸病虫研報 5: 49-50. [生育ステージの違う線虫感染稲から無感染苗への線虫の移動。]
77. 田村市太郎・気賀沢和男：スイトウセンチュウ游出水に対する種苗の接触と寄生。北陸病虫研報 5: 50. [稲の根部からの心枯線虫感染を否定。]
78. 田村市太郎・気賀沢和男：スイトウセンチュウの生態に関する研究 第1報 籾内センチュウの游出と温度との関係。日生態誌 7(3) 111-114. [「20°Cから30°Cまでは温度の高まるほど游出時間が短くなる」]
79. 田中一郎・武笠耕三・一戸 稔：北海道における甜菜コンリユウセンチュウ(根瘤線虫)の分布について。北日本病虫研報 8: 88-89. [85市町村で検出。]
80. 田中一郎・桜井 清：北海道における畑作振興に伴う病害虫対策について。農薬研究 4巻4: 1-10. [線虫類：防除対策の樹立は、畑作害虫中最も重要な課題。]
81. 田中伊之助・宮本健太郎：ジャガイモグサレについて。長崎農試研究速報 8: 1-8. [病原線虫、発生地、病徴、馬鈴薯品種・栽培条件と発病、防除。]
82. 田中 勇：タバコ根瘤線虫病抵抗性における病原虫の発育。応動昆大会講要 昭32: 9. [講要]
83. 田中 勇：地上部を侵す根瘤線虫の観察(予報)。九病虫研会報 3: 47-48. [タバコ、ナス、トマトで胚軸・子葉に寄生を認める。]
84. 田中 勇：線虫特に根瘤線虫について。葉たばこ研究 11: 54-58. [主に根瘤線虫の生活史、寄生の方法、病徴、防除法。]
85. 田中 勇：タバコ稚苗の根瘤線虫病抵抗性について。九州農業研究 19: 67-68. [RK70では侵入虫数減少。]
86. 田中 勇：根瘤線虫病抵抗性品種RK70における病原虫の発育。九州農業研究 20: 186-187. [感受性病原と比べ発育、虫体の大きさに差異。]
87. 山田隆保：稲籾貯蔵温度の心枯線虫に及ぼす影響。応動昆大会講要 昭32: 18. [講要]
88. 山本正宗：ジャガイモの脅威、新しい線虫、岡山・徳島両県下に発生。神戸植防情報 117: 1. [ネグサレセンチュウ]
89. 山崎正枝：陸稲連作者の病状と原因。農業技術 12(10) 462-464. [「根線虫増加は副次的なもので、連作者の主因ではない。」]
90. 山崎正枝・仲宇佐達也・加藤 治・伊藤佳信：陸稲の連作者に関する研究(第1報)。東京農試研報 2: 33-46. 4 pls. [D-D、クロルピクリン剤の処理結果。線虫 *Heterodera* sp. は主要な原因ではないと結論。]
91. 安 正純・上田勇五：今月の病害虫防除メモ。植物防疫 11(4) 169-174. [稲線虫心枯病：種籾消毒法、減収。]

92. 安 正純・上田勇五：今月の病害虫防除メモ。植物防疫 11(8) 362-366。[線虫心枯病を含む。]
93. 安 正純・上田勇五：今月の病害虫防除メモ。植物防疫 11(9) 409-411。[線虫心枯病症状他。]
94. 安 正純・上田勇五：今月の病害虫防除メモ。植物防疫 11(10) 460-465。[小麦粒線虫病：症状、防除法（種子塩水選、温湯・薬液浸）。]
95. 安 正純・上田勇五：今月の病害虫防除メモ。植物防疫 11(11) 510-515。[線虫の概説及び防除法。]
96. 横尾多美男：馬鈴薯イモグサレ線虫の耐温性について。応動昆大会講要 昭32: 9。[No. 56-93を参照。]
97. 横尾多美男・松延浩気：馬鈴薯寄生の根腐線虫の致死温度。九病虫研会報 3:95。[講要。No. 57-98を参照。]
98. 横尾多美男・松延浩気：馬鈴薯寄生の根腐線虫の致死温度。佐賀大農彙 5:97-102。[種薯の温湯処理は50°C30分程度が最も実用的。]
99. 吉岡謙吾：北海道ほか青森・宮城・長野・広島・香川の5県下にも馬鈴しょを侵す新しい線虫がいるようだ。神戸植防情報 123: 2。[ネグサレセンチュウ]
100. Anon. (日本応用動物昆虫学会)：農業における線虫の問題点。応動昆1回シンポ講要：1-25。[No. 57-6, 21, 35, 62を参照。]

#### 昭和33年 (1958)

1. 青木 清：桑樹病虫害と他種作物。農彙 5巻5: 69-72。[線虫病を含む。]
2. 青柳寅雄：コンニャクの掘取りと病害防除。今月の農彙 2巻11: 41-44。[ネコブセンチュウの被害にふれる。]
3. 深野 弘：線虫心枯病の話。今月の農彙 2巻6: 108-111。[伝染の経路、防除上の注意、温湯消毒。]
4. 深野 弘・横山佐太正・田中澄人・藤 英次郎：出穂期に撒布したパラチオン剤の稲心枯線虫殺滅並びに被害軽減効果。九病虫研会報 4: 29-30。[散布区の坪当精粗重量7%増。PB粉剤、マラソン乳剤も同様の効果。]
5. 後藤 昭：ジャガイモイモグサレに関する研究。長崎農試60年記念試研報集：285-296。[発生の沿革、病徴、被害、発生地、線虫の分類、形態、生態、防除法。]
6. 後藤 昭：ジャガイモイモグサレ線虫の諸問題。線虫対策協議会講演要旨（日本植物防疫協会）：12-13。[謄写。講要。防除他。]
7. 後藤重喜：甘藷のねぐされ線虫について。線虫対策協議会講演要旨（日本植物防疫協会）：43-49。[謄写。講要。生態、防除他。]
8. 後藤重喜・川越 仁：土壌線虫と輪作。宮崎農試12回試験研究発表会要録：12-15。[サツマイモネコブ、ネグサレ、シストセンチュウに対する抵抗性品種栽培および輪作の効果。]
9. 萩原 十：近郊園芸における蔬菜の輪作。農及園 33(1) 279-282。[作付体系の例を多数示す。D-D処理による休栽年限短縮の可能性に言及。]
10. 萩原 十：ネマトーグと蔬菜の作付。農及園 33(11) 1723。[ネコブセンチュウに対する東京農試の試験結果を紹介。]
11. 平野 暁：桃の忌地に関する研究（第6報）土壌の加熱及び燻蒸の効果。園芸学会昭33春研発表旨：3。[講要。D-D剤施用を含む。]

- 1 2. 平野千里: 新殺線虫剤PRD. 植物防疫 12(5) 219-220. [トマトのネコブセンチュウに有効。]
- 1 3. 平野伊一: 植物有害生物関係日本文献目録(5) 線虫類. 農林省神戸植物防疫所大阪支所資料 35: 60-98. [謄写. 486篇収録。]
- 1 4. 平野和弥・河村貞之助: *Rhabditis* 属線虫における表皮剝離現象を伴う死態について. 千葉大園学報 6: 23-32. [*R. terricola*の物理・化学的処理死亡時に発生。]
- 1 5. 広田幸喜・山田隆保: アニオン系界面活性剤の接触性殺線虫剤におよぼす影響(農業補助剤の研究 第16報). 防虫科学 23(4) 227-229. [人体寄生虫駆除剤octylororesorcinolの稲心枯線虫に対する効果。]
- 1 6. 穂坂八郎: 秋植球根の掘上げの問題. 農及園 33(6) 931-935. [線虫対策(早く乾燥して、枯葉、枯根、土砂を除去)。]
- 1 7. 市原伊助・高橋芳雄: 落花生の連作と落花生ネマトーダの被害について. 関東病虫研報 5: 38. [連作と年数と根瘤寄生度(3年目から被害がひどい)。]
- 1 8. 一戸 稔: 本邦産線虫類. 北日本病虫研資料 1: 18 pp., 3 pls. [分類、検索表、本邦産線虫類の形態と生態。(13種を解説。)]
- 1 9. 一戸 稔: 本邦産線虫類について. 北日本病虫研報 9: 1-2. [講要. 詳しい内容はNo. 58-18を参照。]
- 2 0. 一戸 稔: 馬鈴薯の腐敗塊茎より検出された線虫4種について. 応動昆大会講要昭33: 15. [講要]
- 2 1. 一戸 稔: 線虫の生態と被害. 農薬 5巻3: 4-8. [ネコブセンチュウ・シストセンチュウ・その他の線虫の解説・被害。]
- 2 2. 一戸 稔: ネマトーダに対する薬剤の使用法と薬価. 農及園 33(5) 833-834. [D-D、ネマヒューム、サンヒューム、ベーパーム。]
- 2 3. 一戸 稔: 植物寄生性土壌線虫の分類. 線虫対策協議会講演要旨(日本植物防疫協会): 17-27. [謄写. 講要. 分類表、病徴及び寄主、形態による本邦産線虫の検索表。]
- 2 4. 一戸 稔: 草莓の線虫病. 北農研究抄報 4: 47. [講要]
- 2 5. 飯島 鼎: 畑作と土壌線虫. 今月の農薬 2巻3: 32-34. [線虫害を解説。]
- 2 6. 飯島 鼎: 根瘤線虫の被害調査. 今月の農薬 2巻8: 7-9. [被害、症状の特徴。]
- 2 7. 飯島 鼎: ジャガイモイモグサレ線虫. 今月の農薬 2巻10: 106-108. [分布、症状、防除法(抵抗性、D-D、EDB)。]
- 2 8. 飯島 鼎: 線虫被害のみつけ方. 今月の農薬 2巻1: 95-98. [ネコブ、ネグサレ、シストセンチュウの鑑定法。]
- 2 9. 飯島 鼎・石倉秀次・一戸 稔・近藤鶴彦・白浜賢一・河村貞之助・弥富喜三・熊野義夫: [座談会] 畑作振興の癡 線虫を語る. 農薬 5巻5: 10-43. [線虫に関する一般的な説明および被害・防除の現状。]
- 3 0. 池 大司: 昭和32年・作物病害虫発生被害の概観. 北農 25(1) 6-13. [甜菜根瘤線虫病増加. 線虫害が苺、ブドウでも発生。]
- 3 1. 稻賀 恒: 農用小型トラクター付属装置としての土壌燻蒸装置の試作. 線虫対策協議会講演要旨(日本植物防疫協会): 75-77. [謄写. 講要。]
- 3 2. 稻賀 恒: 農薬と共に前進する農機具 脚光をあびる土壌消毒機. 農薬 5巻5: 5-9. [試作研究の経過等。]
- 3 3. 井上 寿: ダイズセンチュウに関する調査 第2報 耕鋤の深度が小豆の生育、ならびにシスト数に及ぼす影響. 北日本病虫研報 9: 88-89. [深耕によりシスト数増加、小豆は減収。]
- 3 4. 井上 寿・春木 保: ダイズセンチュウに関する調査 第3報 廐肥の施用が大豆

- ならびにシスト数に及ぼす影響. 北日本病虫研報 9: 89-90. [収量の減少は阻止、シスト数は増加。]
35. 井上 寿: ダイズセンチュウに関する調査 第4報 肥料三要素が大豆の生育ならびにシスト数に及ぼす影響. 北日本病虫研報 9: 90-91. [窒素施肥により大豆生育は良好になるが、シスト数は増加。]
36. 井上 寿・春木 保: ダイズセンチュウに関する調査 第5報 肥料三要素が小豆の生育ならびにシスト数に及ぼす影響. 北日本病虫研報 9: 91. [小豆は増収、シスト数は増加。]
37. 井上 巖: Studies on the life history of *Chordodes japonensis*, a species of Gordiacea. I. The development and structure of the larva. Jap. J. Zool. 12 (2) 203-218. [幼虫の発育および卵からの孵化。]
38. 石川正示: 大豆品種の大豆線虫に対する耐虫性について. 線虫対策協議会講演要旨 (日本植物防疫協会): 78-81. [謄写。講要。品種のランク分け。]
39. 石川正示: 大豆在来種「ゲデンシラス」の線虫抵抗性と有望系統の選出. 農業技術 13(10)461-463. [秋田県仙北郡千畑地方の在来種。多くの系統の内から4系統を選出。]
40. 石川正示・宮原万芳: 大豆品種の大豆線虫に対する抵抗性. 育雑 8(2) 111-118. [線虫抵抗性の検定、子実重、根瘤菌着生への影響。]
41. 石倉秀次: イヤ地と病害虫. 今月の農薬 2巻1: 81-83. [線虫にふれる。]
42. 伊藤富士雄: 昭和33年の農薬需給をかえりみて. 植物防疫 12(12) 537-540. [「D-D、二臭化エチレン等の土壌線虫剤は需要の急増に備えて大量輸入の準備がなされている」]
43. 伊藤佳信: ソ菜的根グサレセンチュウ. 今月の農薬 2巻12: 22-24. [ゴボウ、ニンジン、サトイモの被害、防除法。]
44. 伊藤佳信・本橋精一: D-Dによるキュウリの根瘤線虫の防除. 農及園 33(9) 1405-1406. [キュウリの上物本数2.4-3.1倍に増加。]
45. 伊藤喜隆: 根瘤線虫について. 園芸信州 11巻7: 34. [未見]
46. 弥富喜三: 殺線虫剤およびその試験法. 線虫対策協議会講演要旨 (日本植物防疫協会): 56-60. [謄写。講要。浸漬試験、ポット試験、圃場試験、拡散。]
47. 弥富喜三: 殺線虫剤. In: 新農薬研究法 (山本 享編). 南山堂、東京、p. 460-467. [薬剤の特性、最近の動向、孵化物質の利用、殺線虫剤試験法。]
48. 弥富喜三: 殺線虫剤. 植物防疫 12(1) 20-22. [EDB、ベーパーム、DBCP剤等の物理化学性、使用法。]
49. 弥富喜三: 殺線虫剤. 農業技術研究 12巻4: 6-7. [D-D、EDB、ベーパームの解説。]
50. 弥富喜三: 土壌消毒機の使い方. 農業世界 53巻11: 173-175. [使用法、使用後の注意。]
51. 弥富喜三: 厄介な線虫の被害と防ぎ方. 農業日本 13巻8: 50-53. [稲心枯線虫、穀実線虫、根瘤線虫、ダイズの線虫。]
52. 弥富喜三・西沢 務: 植物寄生線虫 (植物防疫叢書 10). 日本植物防疫協会、東京、92 pp. [線虫の概説。被害、防除法 (耕種的方法、土壌燻蒸、生物的方法)。]
53. 上遠 章・長谷川吉正・小川正和: アメリカの植物防疫と農薬. 海外農業生産性視察報告 9: 103 pp. [線虫 p. 2, 24, 30-45, 58, 101-102.]
54. 荻谷正次郎: 碧南市における三寸人参の栽培とネマトーダ問題について. 関西病虫研報 1: 129. [講要。サツマイモネコブセンチュウ多発。農家から見た薬剤防除の困難性をあげる。]

55. 桂 琦一：秋蔬菜のセンチュウ防除。富民 30巻8: 44-48. [ネコブ、シストセンチュウの被害、防除法 (耕種的、薬剤).]
56. 桂 琦一：厄介な線虫の防ぎ方。蔬菜の場合。農業日本 13巻8: 54-56. [ネコブセンチュウの被害、分布、二次的病害、防除 (薬剤、その他).]
57. 桂 琦一：最近注目せられた土壤線虫による農作物の被害。農研 (大阪府農業教育研究会) 29: 2. [未見]
58. 桂 琦一：土壤線虫と病菌の混合感染に関する研究 (1) 根瘤線虫に誘発される大根黒腐病。線虫対策協議会講演要旨 (日本植物防疫協会): 82-83. [謄写。講要。クロルピクリン、EDB、ペーパム剤による防除。]
59. 桂 琦一・角 博次・山田隆保：根瘤線虫に誘発される大根黒腐病とその防除。関西病虫研報 1: 127-128. [講要。ペーパム、クロルピクリン、EDB等が有効。]
60. 河田 党：病害虫の防除と抵抗性品種の利用。植物防疫 12(3) 127-128. [イネシンガレセンチュウ、サツマイモのネコブセンチュウ。]
61. 河村貞之助：大ラッパ水仙球根の貯蔵中の腐敗防止法。農及園 33(5) 832-833. [外国ではネマトーダ、国内ではネダニとフザリウム菌が原因。]
62. 河村貞之助：厄介な線虫の被害と防ぎ方：花の場合。農業日本 13巻8: 57. [葉枯線虫、莖線虫、根瘤線虫の被害、防除法。]
63. 河村貞之助：土壤燻蒸剤のひろがり方。今月の農業 2巻12: 78-81. [メチルプロマイド、クロルピクリン、D-D、EDB剤の土壤中の動き。]
64. 河村貞之助・平野和弥：根瘤線虫卵の孵化抑制条件について。日植病報 23(1) 37-38. [講要]
65. 河村貞之助・平野和弥：根瘤線虫卵の孵化抑制条件について。日植病報 23(2) 90-96. [低温、高温、乾燥、太陽光線、紫外線の影響を受ける。pHの変化は影響せず。]
66. 河野照義・伊藤 潔：蔬菜栽培診断 [10]。農及園 33(10) 1609-1611. [草莓の芽線虫防除：8-10月に2-3回ホリドール散布。]
67. 河野照義・伊藤 潔：蔬菜栽培診断 [12]。農及園 33(12) 1908-1910. [人参の根瘤線虫病防除：D-D、クロルピクリン、輪作。]
68. 川瀬英爾・小森康光：ダイコンに対する殺線虫剤の影響。北日本病虫研報 6: 49. [講要。D-D、EDB、DBCP、ペーパム剤。]
69. 川島嘉内：線虫の生態と防除法。農友 482: 13-17. [未見]
70. 川島良一：大豆の育種と当面の課題。農業技術 13(9) 405-409. [萎黄病抵抗性にふれる。]
71. 小林研三：西瓜根瘤線虫に対する殺線虫剤ペーパム (N-869) の根瘤抑制効果について。日植病報 23(1) 58-59. [講要]
72. 小林研三：西瓜根瘤線虫に対する殺線虫剤ペーパム (N-869) の根瘤抑制効果について。九州農業研究 20: 186. [効果あり。]
73. 小林 尚：ニカメイチュウの天敵。植物防疫 12(6) 259-265. [ズイムシシヘンチュウを含む。]
74. 小宮義孝 (編)：文献集線虫篇。寄生虫誌 7(suppl.) 32 pp. [人体、家畜寄生種が主体。]
75. 近藤鶴彦：Meloidogyne spp. に対する甘藷の抵抗性について。線虫対策協議会講演要旨 (日本植物防疫協会): 28-29. [謄写。講要。]
76. 近藤鶴彦：Meloidogyne 属の種及び系統について。線虫対策協議会講演要旨 (日本植物防疫協会): 29-31. [謄写。講要。]
77. 近藤鶴彦：線虫に対する甘藷の耐虫性。植物防疫 12(3) 112-114. [品種間差異、]

抵抗性の機構・検定、品種の育成。]

78. 近藤鶴彦：大根の根腐線虫と輪作，農研（三重農業研究会）3巻3：18-23。[大根の被害と落花生・トウガラシ・カンショ・綿・カボチャ・陸稻・トマト・里芋・藍・タバコ・キビ・ナス・大豆等との輪作の効果。]
79. 近藤鶴彦・稻賀 悟・粥見惇一・米野泰滋：輪作による大根根腐線虫の防除について（予報），関西病虫研報 1：129-130。[講要。前作に適する作物：甘藷農林2号、大豆、里芋、藍。不適：陸稻。]
80. 高野光之丞：ヤマトイモの根腐線虫防除，今月の農薬 2巻5：26-29。[D-D、E DB剤の施用方法、葉害。]
81. 高野光之丞：ヤマトイモのネコブセンチュウ，今月の農薬 2巻12：88-91。[症状、線虫の生態。]
82. 高野光之丞・石川元一：ヤマトイモネコブセンチュウの防除について，関東病虫研報 5：40。[D-D。]
83. 是石 鞏：九州における畑作害虫対策，農薬研究 5巻1：6-12。[土壤線虫防除：「未だ実用までに至っていない」]
84. 古山 清：就腐性線虫の培養に就いて，日植病報 23(1) 42。[講要]
85. 小山八十八・山崎一彦・菊池良治：大豆萎黄病抵抗性を異にする品種間の雑種第3代における被害程度，北農研究抄報 4：23-24。[講要]
86. 国井喜章：Baermann 氏法の検討，昭33応動昆大会講要：5。[講要]
87. 国井喜章：Diplogaster sp.の食性について，寄生虫誌 7(3) 88。[講要]
88. 国井喜章：Diplogaster sp.の食性について（2），18回寄生虫学会東日本支部大会講要。[未見]
89. 国井喜章：関東東山に於ける土壤線虫の諸問題，線虫対策協議会講演要旨（日本植物防疫協会）：5-6。[謄写。講要。主にネコブセンチュウ。]
90. 国井喜章：根腐線虫と落花生，今月の農薬 2巻5：95-97。[生活史、連作害、防除。]
91. 栗原昭夫：果樹の忌地に関する最近の研究，農及園 33(2) 315-319。[主に外国の研究を紹介。柑橘、モモ、イチジク他。]
92. 間宮 広：圃場観察による農事の新しい技術，農及園 33(10) 1496-1500。[落花生の連作障害の原因は線虫。甘藷との隔年栽培で寄生率低下。]
93. 松原茂樹・川上忠夫・増田安弘：根菜に及ぼすネマトーダの影響（第2報），園芸学会昭32春研究要旨：16。[講要]
94. 三浦 脩：根腐線虫の生態と防除について，大阪農業 99：19-28。[形態、生態、診断、防除法（薬剤、その他）。]
95. 三浦 脩・出水忠夫：水仙の球根線虫とその防除，関西病虫研報：1：109-117。[病徴、寄主植物、形態、防除：パラチオン散布、球根の温湯消毒（50°C20-30分）。]
96. 宮川経邦：柑橘根線虫について，線虫対策協議会講演要旨（日本植物防疫協会）：50-55。[謄写。講要。国内分布、被害。]
97. 盛永俊太郎：アメリカ合衆国の稲と稲作覚書（2）（附一国府田農場訪問記），農業技術 13(11) 521-524。[ネマトーダによるWhite tip にふれる。]
98. 武笠耕三：北海道における土壤線虫の諸問題，線虫対策協議会講演要旨（日本植物防疫協会）：1-4。[謄写。講要。ネコブ、シストセンチュウ。]
99. 武笠耕三：リング根腐線虫について，北海の果樹 61：22-24。[未見]
100. 中田正彦：馬鈴薯のイモ腐れ線虫，今月の農薬 2巻1：46-53。[病原線虫、線虫と土壌との関係、輪作（落花生）、分布、生産者の自粛。]
101. 中沢雅典：稲稈消毒と苗代病害防除：その必要な理由と方法，農及園 33(3) 527

- 530. [線虫心枯病対策(籾の冷水温湯浸法)を含む。]
102. 二宮 融・竹沢秀夫:ネコブセンチュウに対する新殺線虫剤の効果. 関東病虫研報 5: 41. [N-869, EDB, D-D.]
103. 西沢 務:馬鈴薯いもくされ線虫について. 関西病虫研報 1: 128. [講要. 中国・四国産は*Pratylenchus coffeae*, 東日本産は*P. vulnus*。]
104. 西沢 務:線虫の飼育、および実験装置. 線虫対策協議会講要(日本植物防疫協会): 32-40. [謄写. 講要. 英文。]
105. 西沢 務・弥富喜三:根瘤線虫の加害部位における呼吸ならびに数種酵素活性の変化. 応動昆大会講要 昭33: 5. [講要]
106. 小倉英一:菊牛蒡の栽培と加工法. 農及園 33(10) 1520-2524. [線虫により商品価値、収量ともに低下。発生畑での植付けをさける。]
107. 岡 英人:新品種の解説(IV) 疫病及び線虫病抵抗性品種. 葉たばこ研究 14: 73-80. [線虫病抵抗性:病原虫の種類、抵抗性の原種、品種の解説。]
108. 岡田富信:陸稲線虫の寄生嗜好性について. 応動昆大会講要 昭33: 1. [講要]
109. 奥浦正弘:タバコ赤星病. 葉たばこ研究 14: 39-42. [「線虫病にかかるとタバコ赤星病にかかりやすく、線虫病もひどい」]
110. 大泉久一・大庭寅雄・御子榮晴夫:大豆栽培技術の実態と問題点. In: 東北大豆の生産安定条件の研究. 雑穀奨励会, 東京, p. 55-112. [謄写. ネマトーダ被害大。]
111. 三枝敏郎:植物検疫上注意すべき土壤線虫. 線虫対策協議会講要(日本植物防疫協会): 14-16. [謄写. 講要. 主に輸出検疫。]
112. 三枝敏郎:根瘤線虫*M. incognita acrita*によるナンキンマメ被害について. 応動昆大会講要 昭33: 9. [講要]
113. 三枝敏郎:千葉県における根瘤線虫の種類と分布. 日植病報 23(1) 21. [講要. キタ、サツマイモ、アレナリアネコブセンチュウ。]
114. 三枝敏郎:ネコブ線虫の寄生性. 今月の農薬 2巻12: 45-50. [輪作、線虫の種類別の寄主作物。]
115. 三枝敏郎:ネマトーダの種類とその防除. 農耕と園芸 13巻5: 74-76. [ネコブ、シスト、ネグサレ、ハ、イネシンガレ、イチゴセンチュウ等の解説。]
116. 三枝敏郎:サツマイモネコブ線虫の経過習性. 今月の農薬 2巻11: 72-76. [生活史、被害。]
117. 三枝敏郎:植物寄生線虫とその調査法. 横浜植物防疫所、横浜. 11 pp. [謄写. 寄生度調査法。]
118. 三枝敏郎:植物線虫の基礎知識(I). 横浜植防ニュース 111: 4. [1. はしがき 2. 線虫とは。]
119. 三枝敏郎:植物線虫の基礎知識(II). 横浜植防ニュース 113: 2-4. [3. 線虫の分類(イ)。]
120. 三枝敏郎:植物線虫の基礎知識(III). 横浜植防ニュース 116: 2-3. [3. 線虫の分類(ロ) 4. 表形の表現法 5. 植物線虫と土壌。]
121. 三枝敏郎:植物線虫の基礎知識(IV). 横浜植防ニュース 118: 2-3. [6. 圃場における土壌線虫の分布 7. 線虫の検出(イ)。]
122. 三枝敏郎:植物線虫の基礎知識(V). 横浜植防ニュース 119: 1-2. [7. 線虫の検出(ロ)。]
123. 三枝敏郎:植物線虫の基礎知識(VI). 横浜植防ニュース 121: 2-3. [7. 線虫の検出(ハ) 8. 線虫の固定と保存。]
124. 三枝敏郎:植物線虫の基礎知識(VII). 横浜植防ニュース 124: 2-4. [9. 線虫

- の名称 10. 線虫の生態と形態 (イ)。]
125. 三枝敏郎: 植物線虫の基礎知識 (VIII). 横浜植防ニュース 125: 3-4. [10. 線虫の生態と形態 (ロ)。]
126. 三枝敏郎: 植物線虫の基礎知識 (IX). 横浜植防ニュース 127: 4. [10. 線虫の生態と形態 (ハ)。]
127. 三枝敏郎: 植物線虫の基礎知識 (X). 横浜植防ニュース 133: 4. [10. 線虫の生態と形態 (ニ)。]
128. 渋谷正夫: 蔬菜のネマトーダはこうして防ぐ. 農耕と園芸 13巻5: 76-80. [多種の野菜に対する線虫の寄生、被害、防除。]
129. 渋谷正夫・井上頼数: 蔬菜の種類とネマトーダの寄生性について (第2報). 園芸学会昭33春研究要旨: 16-17. [講要]
130. 重永知明: 畑作土壌線虫について. 研農復刊 10(9) 337-343. [農作物のネコブ・シスト・ネグサレ・ツブ・ハガレセンチュウの解説と防除法. D-D、EDB、DBCPを紹介。]
131. 篠原恒男・横尾多美男: ナメクジ *Incilaria confusa* (Cockerell) に寄生する *Rhabditis* 属の一新線虫について. 久留米医誌 21(12) 2580-2584. [*R. incilaria* を新種として記載。現在は *Pelodytyes incilaria* (Yokoo & Shinohara, 1958) Andrassy, 1983 とされる (Andrassy, I., A taxonomic review of the suborder Rhabditina, ORSTOM, Paris, p. 109)。]
132. 白浜賢一: 殺線虫剤実用上の経験および問題点. 線虫対策協議会講要 (日本植物防疫協会): 67-74. [謄写。講要。防除事例等。農薬時代25号に同じ著者による「土壌くん蒸剤の経済性」と題する記事。]
133. 園 孝一・菊田庄三郎: 柿の忌地に関する研究. 農及園 33(5) 817-823. [線虫の寄生によるものではない。]
134. 杉 顕夫・戸谷昭夫: 畑作改善に関する試験研究の現状 (2) 昭和33年度畑作改善試験打合せ会議から. 農業技術 31(11) 503-506. [緑肥ダイズの導入でネマトーダ害増大。輪作試験の事例を紹介。]
135. 鈴木正親・小宮書之助: 富士吉田農場における病虫害実態調査報告. 明治大農研報 8: 15-21. [大豆萎黄病を記録。圃場の傾斜の上方に多い。]
136. 高木信一: 殺線虫剤の選び方. 農業技術研究 12巻9: 23-26. [使用法、使用量、毒性、副次効果、地上部の線虫防除。]
137. 高木信一: 線虫の生死鑑別. 線虫対策協議会講要 (日本植物防疫協会): 41-42. [謄写。講要。形状、染色による方法。]
138. 高野誠義・小森 昇: 稲線虫心枯病に関する試験 第2報 ロダゲン酢酸エステル類による種子消毒の効果について. 関東病虫研報 5: 36-37. [REM-200、REE-200の効果はホリドール処理にまさる。]
139. 高瀬 昇: 馬鈴薯育種における野生種の利用: 疫病抵抗性を中心として. 農業技術 13(8) 365-368. [*Solanum andigenum*: Golden nematode に高度抵抗性。]
140. 滝元清透: 苗床の床土の消毒. 今月の農業 2巻10: 68-70. [D-D、クロルピクリンの施用法を含む。]
141. 田村浩国: 殺線虫剤の解説. 農薬 5巻6: 6-14. [性状、作用、処理法及び使用量、毒性等を解説。]
142. 田村市太郎・気賀沢和男: スイトウセンチュウの生態に関する研究 第2報 幼苗に対する游出センチュウの加害能力と株間移動寄生. 日生態誌 8(1) 37-42. [根ざわ以上の部分から寄生。窒素多肥時に線虫移動大。]

143. 田村 茂：遠州地方の洋菜栽培の特殊性。農及園 33(11) 1687-1691. [レタスのビニル栽培における線虫防除：D-D、EDB。]
144. 田中伊之助・藤井 溥・相川英雄・池田定男：ジャガイモイモグサレについて。日植病報 23(1) 58. [講要。土壤消毒効果。]
145. 田中伊之助・宮本健太郎・藤井 溥・相川英雄・池田定男：ジャガイモイモグサレについて。九州農業研究 20: 102-103. [線虫が原因。粗堆肥及び薬剤の土壤施用。種薯の温湯消毒。]
146. 田中 勇：タバコ根瘤線虫病抵抗性品種RK70における病原虫の発育。日植病報 23(1) 59. [講要]
147. 田中 勇：クロルピクリンによる根瘤線虫病的防除。線虫対策協議会講要（日本植物防疫協会）：61-64. [謄写。講要。D-Dと比較。]
148. 田中 勇：線虫病に対するD-Dとクロルピクリンの効果、使用法。葉たばこ研究 16: 86. [使用方法、経費。]
149. 田中 勇：線虫防除にアルドリン使用の可否。葉たばこ研究 14: 88. [未試験。]
150. 田中 勇：タバコ根瘤線虫病。葉たばこ研究 14: 44-48. [生態、防除。]
151. 徳永友三・佐藤智覚：各種殺線虫剤によるネコブセンチュウ（根瘤線虫）の防除について。北日本病虫研報：9: 146-149. [薬剤6種。]
152. 椿 啓介：Studies on the Japanese Hyphomycetes (IV) Miscellaneous group. 植雑 71: 131-137. [線虫捕食菌 *Arthrobotrys arthrobotryoides*, *Dactylella atractoides* の落葉からの記録を含む。]
153. 津軽承捷：畑作のガン、土壤線虫について。青森農業 9巻10: 33-35. [未見]
154. 津軽承捷：大豆線虫の生態と防除。農薬 5巻6: 23-28. [被害、防除（輪作、抵抗性品種利用、窒素肥料多用、D-D、EDB、DBCP剤施用）。]
155. 津軽承捷：大豆線虫に対する殺線虫剤の効果。線虫対策協議会講要（日本植物防疫協会）：65-66. [謄写。講要。D-D、ベーパーム他。]
156. 筒井喜代治：ネコブセンチュウ（根瘤線虫）。農及園 33(3) 口絵及び解説。[生態、防除法を解説。雄成虫の写真は別種。]
157. 筒井喜代治：秋蔬菜の害虫と最近の防除薬剤。農及園 33(9) 1379-1383. [殺線虫剤の紹介。耕種的防除法にも言及。]
158. 植松 敬：無病無害虫の床土はどうして作るか。農業技術研究 12巻3: 34-36, グラビア (2 pls.) [D-D、メチルプロマイド、クロルピクリン等の使用法。]
159. 浦上山大：昭和32年度九州における稲作の主要病害虫の発生と防除の概要。九病虫研会報 4: 66-67. [線虫心枯病多発。]
160. 渡辺正好：根菜類の幼苗時に岐根の見わけかた。農及園 33(4) 680-681. [ナス科、ウリ科作物の後地はネマトーダが多く、岐根となりやすい。間引き法。]
161. 渡邊龍雄：黄蜀葵の立枯れ、根腐の防除法。農及園 33(8) 1249-1250. [ネコブセンチュウ対策：輪作、湛水（二ヵ月）他。]
162. 矢島寿治：野菜のビニール営利栽培。泰文館、東京、290 pp., 16 figs. [線虫防除：D-D、輪作、深耕。 p. 92, 122, 139, 233. ]
163. 山崎正枝：陸稲の連作障害軽減法。農及園 33(2) 400-401. [ネマトーダの原因が多いらしい。D-Dの使用法等。]
164. 山崎正枝・仲宇佐達也・加藤 治・伊藤佳信：陸稲の連作害に関する研究（予報）：（第1報）農村調査とその検討。日作紀 25(1) 45-46. [講要。農家圃場における実態調査。線虫記述なし。]
165. 山崎正枝・仲宇佐達也・加藤 治：陸稲の連作害に関する研究（予報）：第2報

- 連作害の原因について、日作紀 25(4) 234. [講要。連作により陸稲根線虫増加。]
166. 山崎守正：暖地における甜菜栽培の概観。農及園 33(7) 1053-1057. [ネマトード対策として耐虫性品種の利用。]
167. 横木国臣：山葵の病害とその防除に就いて。中国農業研究 10: 48-50. [ネコブセンチュウを含む。]
168. 横尾多美男：土壤線虫 生態と防除。明文堂、東京、2+9+541+11 pp. [分類、生態及びTylenchida目、Dorylaimida 目の植物寄生性線虫の形態を中心とする記述。]
169. 横尾多美男：暖地における土壤線虫の諸問題。線虫対策協議会講要（日本植物防疫協会）：7-11. [謄写。講要。内容は線虫の分類。]
170. 横尾多美男：根腐線虫Pratylenchus spp. の分類と生態（1）。植物防疫 12(2) 51-54. [分類学上の位置、属の特徴、分類。]
171. 横尾多美男：根腐線虫Pratylenchus spp. の分類と生態（2）。植物防疫 12(3) 121-126. [P. pratensis, P. vulnus の形態、生態、防除法。]
172. 横尾多美男：根腐線虫Pratylenchus spp. の分類と生態（3）。植物防疫 12(9) 415-420. [P. brachyurus, P. coffeae 等12種の形態。]
173. 横尾多美男・伊東好郎：柑橘の根線虫について。九病虫研会報 4: 30. [佐賀県内に広く分布。被寄生株の根群発達は悪い。]
174. 横尾多美男・松本安生：On the variation of dimension within soil nematodes. (I) Dimension of root lesion nematodes, Pratylenchus spp. 佐賀大農棠 7: 49-66. [岡山、長崎のパレイシヨ寄生種の形態、計測値を比較。]
175. 吉田正義・鈴木康徳：Testing laboratory methods of agricultural chemicals against injurious insect in soil. Researchs on the wireworm, Melanotus caudex Lewis. XI. 防虫科学 23(3) 107-111. [コメツキムシ幼虫に対する殺線虫剤（EDB, 1. 3D）のLD50。]
176. 吉岡謙吾：グラジオラス球根のねこぶ線虫。神戸植防情報 148: 1. [アレナリアネコブセンチュウを発見。]
177. 湯浅利光：ニンジンの線虫防除について。関東病虫研報 5: 39. [D-D、クロルピクリを試験。]
178. Anon. (シェル石油株式会社)：線虫とその防除。シェル石油株式会社、東京、57 pp., 8 pls. [形態、分類、生活史、主な植物寄生性線虫、防除（D-D、DB CP剤の使用法）、線虫調査法、殺線虫剤のスクリーニング法。]